

PanelView Plus 6 Compact ターミナル

Cat.No. 2711PC-K4M20D8, 2711PC-B4C20D8, 2711PC-B4C20D8-LR, 2711PC-T6M20D8, 2711PC-T6C20D8, 2711PC-T10C4D8



お客様へのご注意

本製品の設置、構成、操作、メンテナンスの前には、本装置の設置、構成および操作に関する本マニュアルおよび参考資料に記載された資料をお読みください。ユーザは、適用されるすべての条例、法律、規格要件に加え設置、配線指示に熟知している必要があります。

設置、調整、供用開始、使用、組立て、分解、メンテナンスなどは、適切な訓練を受けた作業員が適切な実施基準に従って実施する必要があります。

製造メーカーが指定していない方法でこの機器を使用すると、機器による保護が無効になる場合があります。

Rockwell Automation, Inc. は、いかなる場合も、本機器の使用または適用により発生した間接的または派生的な損害について一切の責任を負いません。

本書で使用した図表やプログラム例は内容を理解しやすくするためだけのものです。個々の導入においては数値や条件が変わることが多いため、当社では図表やプログラム例に基づいて実際に使用した場合の結果については責任を負いません。

本書に記載されている情報、回路、機器、装置、ソフトウェアの利用に関して特許上の問題が生じても、当社は一切責任を負いません。

Rockwell Automation, Inc. の書面による許可なく本書の全部または一部を複製することは禁じられています。

本書を通じて、必要な場合は、安全上の注意事項として以下の記号を使用しています。



警告：本書の「警告」は、人身傷害または死亡、物的損害、または経済的損失の原因となる可能性がある、危険な環境での爆発を引き起こす可能性のある操作や状況に関する情報を示します。



注意：人身傷害または死亡、物的損害、または経済的損失の原因となる可能性がある操作や状況に関する情報を示します。危険を識別、回避し、起こりうる結果を認識できるようにするための注意事項です。

重要

本書内の「重要」は、製品を正しく使用および理解するために特に重要な事項を示します。

機器上または機器内部には、具体的な注意事項を示すラベルが付いている場合もあります。



感電の危険：危険な電圧が存在する恐れがあることを知らせるために、ドライブやモータなどの装置の上または内部にラベルを貼っています。



やけどの危険：表面が危険な温度になっている恐れがあることを知らせるために、ドライブやモータなどの装置の上または内部にラベルを貼っています。



アーク閃光の危険：機器、例えば、モータ・コントロール・センタの上または内部には、アーク閃光の可能性を注意するラベルが付いている場合もあります。アーク閃光は人体に対する重大な危険または死亡事故の原因となります。適切な保護具 (PPE) を着用してください。安全な作業習慣と保護具 (PPE) の規制要件すべてに従ってください。

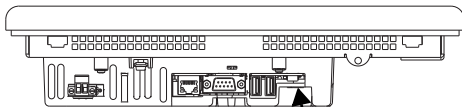
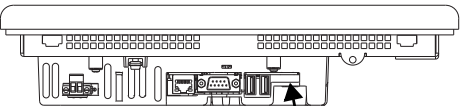
Allen-Bradley, Rockwell Software, Rockwell Automation, PanelView, FactoryTalk, RSLinx, CompactLogix, ControlLogix, SLC, MicroLogix, PLC-5, および RSView は、Rockwell Automation, Inc. の商標です。

Rockwell Automation に属さない商標は、それぞれの企業に所有されています。

本マニュアルには、新しい情報と前回リリースされたマニュアルから更新された情報があります。

新情報と更新情報

以下の表に、このリビジョンでの変更内容を示します。

項目	参照ページ
表1 のAC電圧および周波数(Hz)を更新しました。	16
2711PCT10C4D8ターミナルを更新しました。新しいシリーズBターミナルには、ミニUSBポート(タイプB)は付いていません。このユーザーズマニュアル全体を通じて、シリーズB 2711PCT10C4D8ターミナルに関するデータと図面がなくなりました。	12 13 21 27 30 32 108 109 110 111 112 118 119 122 126 127 129 143 152
 <p>ミニ USB ポート付きシリーズ A ターミナル (現在購入できません)</p>	
 <p>シリーズ B ターミナル (ミニ USB ポートなし)</p>	

Notes:

はじめに	参考資料	9
	ファームウェアのアップグレード	9
	第1章	
概要	ソフトウェアのサポート	12
	PanelView Plus 6 Compact のアプリケーション	12
	製品の選択	12
	ターミナルの特長	13
	オペレータ入力	14
	オープンシステムとクローズドシステム	15
	スタートアップオプション	15
	デスクトップへのアクセス	15
	製品アクセサリ	16
	第2章	
ターミナルの取付け	危険な領域	18
	取付け間隔	20
	パネルに関するガイドライン	20
	パネルカットアウト寸法	20
	製品の寸法	21
	400/600 ターミナルをパネルに取付け	22
	パネルへの 1000 ターミナルの取付け	24
	電源端子台の取り外しおよび取付け	26
	DC 電源接続	28
	初回起動時	31
	ターミナルのリセット	31
	第3章	
構成モード	構成モードへのアクセス	33
	ターミナル設定	36
	アプリケーションのロードと実行	38
	スタートアップオプション	39
	デスクトップへのアクセス	42
	通信の設定	46
	イーサネットネットワーク接続	48
	ファイル管理	52
	ディスプレイ設定	55
	入力機器の設定	57
	印刷オプションの構成	60
	アプリケーションファイルの整合性チェック	62
	診断の構成	63
	システム・イベント・ログの表示と消去	64
	システム情報	64
	アラームディスプレイの有効/無効	66

	時刻と日付の設定	67
	地域の設定	69
	フォントのリンク	72
	第4章	
Windows CE オペレーティング システム	Windows CE 6.0 の機能	73
	Windows Explorer	76
	タスクバー	76
	入力パネル	76
	Windows のコントロールパネル	77
	バックアップおよび復元	78
	ハードウェアモニタ	81
	キーパッドプロパティ	83
	タッチプロパティ	83
	ディスプレイプロパティ	84
	ロゴマネージャ	86
	システム情報	87
	ユーザアカウント	90
	サービス	91
	ネットワークサーバ構成	92
	プリンタのサポート	101
	PDF リーダ	104
	第5章	
コンポーネントの取付け および交換	必要な工具	107
	ロジックモジュールの取付けおよび交換	108
	通信モジュールの取付けおよび交換	109
	ディスプレイモジュールの交換	111
	ベゼルの交換	112
	バックライトの交換	114
	バッテリーの交換	117
	AC 電源モジュールの取付け	119
	製品 ID ラベルの除去	122
	SD カードのロード	122
	ディスプレイの清掃	123
	第6章	
接続および通信	USB ポート	126
	イーサネット接続	127
	シリアル接続	129
	コントローラ接続	132
	第7章	
ファームウェアのアップ グレード	ターミナルのファームウェア	135
	ファームウェアファイルのダウンロード	136
	ファームウェア・アップグレード・ウィザード	137

	ストレージデバイスからのターミナルのファームウェアのアップグレード	137
	ネットワークを介するターミナルのファームウェアのアップグレード	140
	第 8 章	
トラブルシューティング	ステータスインジケータ	143
	ターミナルが正常に起動しない	144
	スタートアップメッセージおよびコード	145
	ターミナルのコンポーネントの確認	147
	イーサネット接続	148
	プログラムランチャー ActiveX コントロール	149
	アプリケーションが実行されない	149
	構成モードへのアクセス	149
	ファイル・システム・エラー	150
	高度な診断	150
	メンテナンス操作	151
	付録 A	
ターミナルの常駐フォント	TrueType フォント	155
索引	157

本マニュアルでは、PanelView™ Plus 6 Compact ターミナルの取付け、構成、操作、およびトラブルシューティング方法について解説します。本マニュアルには、ターミナル上で動作するアプリケーションの作成手順は記載していません。

以下の操作も行なう必要があります。

- FactoryTalk® View Studio for Machine Edition を使用して、ターミナルで実行する HMI アプリケーションを作成する。
- HMI アプリケーションと対話するためのラダーロジックを作成する。

参考資料

以下の資料には、当社の関連製品に関する追加情報が記載されています。

マニュアル名	説明
PanelView Plus Specifications Technical Data (PanelView Plusの仕様 テクニカルデータ) (Pub. No. 2711P-TD005)	PanelView Plus Compactターミナルの技術仕様、環境仕様、および認可についての説明
Industrial Automation Wiring and Grounding Guidelines (配線および接地に関するガイドライン) (Pub. No. 1770-4.1)	ロックウェル・オートメーションの産業用システムを取付ける際の一般的なガイドラインを提供します。
製品認証についてのWebサイト : http://www.ab.com	適合宣言書(DoC)、認可、および他の認可の詳細

これらの資料は、<http://www.rockwellautomation.com/literature/> で参照またはダウンロードできます。技術資料をハードコピーでお求めの場合は、当社または当社代理店までお問い合わせください。

本製品には以下のアイテムが付属しています。

- FactoryTalk View Machine Edition ランタイムソフトウェアがインストールされ、アクティベーションされているターミナル
- 製品情報
- パネル設置用の取付けレバー
- パネルカットアウト用のテンプレート

ファームウェアのアップグレード

PanelView Plus 6 Compact ターミナル向けの最新のファームウェアのアップグレードおよびその他のダウンロードを行なうには、<http://www.rockwellautomation.com/support> にアクセスして、Firmware Updates をクリックしてください。

Notes:

概要

項目	参照ページ
ソフトウェアのサポート	12
PanelView Plus 6 Compactのアプリケーション	12
製品の選択	12
ターミナルの特長	13
オペレータ入力	14
オープンシステムとクローズドシステム	15
スタートアップオプション	15
デスクトップへのアクセス	15
製品アクセサリ	16

PanelView Plus 6 Compact ターミナル (400/600/1000) は PanelView Plus 6 (400/600) のターミナルと似ていますが、ハードウェアとソフトウェアの機能に制限があります。PanelView Plus 6 Compact ターミナルの主な相違点には以下が含まれます。

- シリアルおよびイーサネット通信のみ
- RSLinx[®] Enterprise または KEPServer Enterprise ソフトウェアのいずれかを使用した単一ロジックコントローラとの接続
- FactoryTalk View Machine Edition (ME) アプリケーションおよびラントタイムソフトウェアの限られた数のディスプレイとアラーム
- CompactLogix[™] コントローラ向けプライマリ HMI

ヒント PanelView Plus 6 Compact ターミナル用に作成されたアプリケーションを、Compact Machine Edition アプリケーションと呼びます。これらのアプリケーションは、PanelView Plus 6 および PanelView Plus 6 Compact の各ターミナルで実行できます。PanelView Plus 6 ターミナル用に作成された Machine Edition アプリケーションを PanelView Plus 6 Compact ターミナルで実行することはできません。

ソフトウェアのサポート [表1](#) に、ターミナルでサポートされているソフトウェアを示します。

表1 – PanelView Plus 6 Compact でのソフトウェアのサポート

ソフトウェア	説明	バージョン
FactoryTalk View Machine Edition Station	FactoryTalk View Machine Editionの .merアプリケーション用のランタイム環境。Machine Edition Stationは各ターミナルにロード済みであり、FactoryTalk Viewのアクティベーションを必要としません。	6.10以降
FactoryTalk View Studio for Machine Edition	PanelView Plus 6 Compactターミナル上で動作するHMIアプリケーションを開発するための構成用ソフトウェア。RSLinx EnterpriseソフトウェアはFactoryTalk View Studioソフトウェアに付属しており、インストール時にロードされます。	6.10以降
Windows CE 6.0 オペレーティングシステム	いずれのターミナルもWindows CE 6.0オペレーティングシステムを実行しており、オープンまたはクローズドなデスクトップ環境を実現するよう構成できます。その他のサポートされている機能には以下が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • ftpサーバ • VNCクライアント/サーバ • ActiveXコントロール⁽¹⁾ • サードパーティのデバイスのサポート • Adobe PDFリーダー 	6.0

(1) ターミナルにロードされている ActiveX コントロールのリストについては、[66 ページの「FactoryTalk View ME Station 情報の表示」](#)を参照してください。

PanelView Plus 6 Compact のアプリケーション

PanelView Plus 6 Compact Machine Edition アプリケーションは、以下に示すように、PanelView Plus 6 ターミナルの一部の機能しか使用できません。

- 最大 25 の画面
- 最大 200 のアラームメッセージ
- RSLinx Enterprise または KEPServer Enterprise ソフトウェアのいずれかを使用した単一コントローラへの接続またはショートカット 1 つ
- シリアルおよびイーサネット通信のみサポート。
RSLinx Enterprise を使用する場合は、シリアル DF1、シリアル DH-485、およびイーサネットドライバのみサポートされます。

製品の選択

[表2](#) に、PanelView Plus 6 Compact ターミナルのカタログ番号を示します。

表2 – PanelView Plus 6 Compact ターミナル

Cat. No.	ディスプレイ		入力タイプ	通信ポート		USBポート		電源
	サイズ	タイプ		イーサネット	RS-232	ホスト	デバイス	
2711PC-K4M20D8	3.5 インチ	グレイ スケール	キーパッド	•	•	•	•	DC
2711PC-B4C20D8		色	キーパッドお よびタッチス クリーン	•	•	•	•	
2711PC-B4C20D8-LR				•	•	•	•	
2711PC-T6M20D8	5.7 インチ	グレイ スケール	タッチスク リーン	•	•	•	•	
2711PC-T6C20D8		色		•	•	•	•	
2711PC-T10C4D8	10.4 インチ	色	タッチスク リーン	•	•	•		

ターミナルの特長

PanelView Plus 6 Compact 400、600 および 1000 ターミナルは、モジュール式コンポーネントをサポートしない固定構成です。

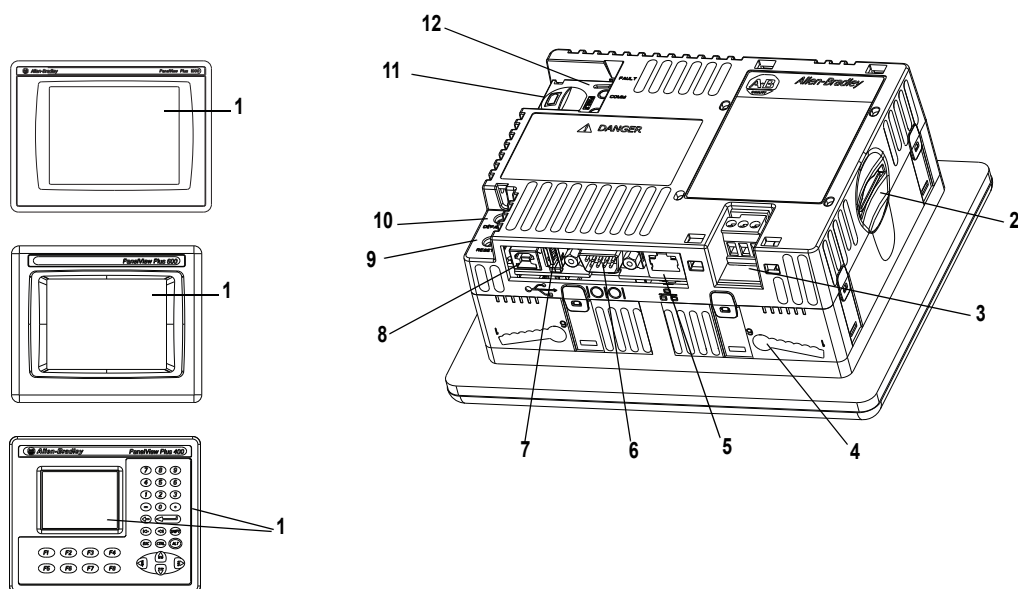


表 3 – PanelView Plus 6 Compact ターミナルのコンポーネント

項目	コンポーネント
1	以下のいずれかのオペレータ入力オプションを備えた、3.5インチ、5.7インチまたは10.4インチのグレイスケールまたはカラーディスプレイ： <ul style="list-style-type: none"> • キーパッド • タッチスクリーン • キーパッドとタッチスクリーンの組合せ
2	外付け記憶装置用のセキュアデジタル(SD)カードスロット
3	DC電源入力、非絶縁 公称DC24V (DC18~30V)
4	取付けスロット(x 4)
5	コントローラ通信のイーサネットポート、10/100Base-T、Auto MDI/MDI-X
6	コントローラ通信、印刷、およびファイル転送用のRS-232シリアルポート
7	危険ではない領域でホットスワップ可能なUSB周辺機器(マウス、キーボード、プリンタ、USBドライブを含む)接続用のUSB 2.0高速(タイプA)ホストポートx1
8	ホストコンピュータへの接続用のUSB 2.0高速(タイプB)デバイスポートx1 (400および600ターミナルのみ)
9	電源を切断後再投入しなくてもターミナルをリセットできるリセットスイッチ
10	工場出荷時のデフォルトの復元などの保守作業にアクセスするためのデフォルトスイッチ
11	バッテリーコンパートメント
12	通信およびフォルトステータスを示すインジケータ

オペレータ入力

各ターミナルには、キーパッド、タッチスクリーン、またはキーパッド/タッチスクリーンの入力機能を備えた、グレイスケールまたはカラー LCD が搭載されています。

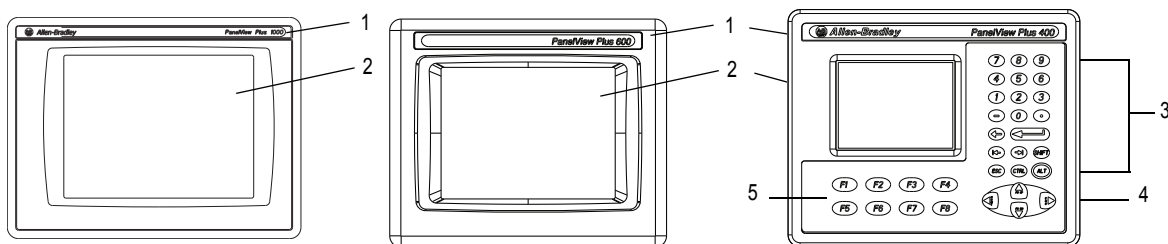


表 4 – ディスプレイおよびオペレータ入力機能

項目	機能	説明
1	製品ラベル	製品識別ラベルはカスタムラベルと交換できます。
2	ディスプレイ/タッチスクリーン	カラーまたはグレイスケールディスプレイ、4線抵抗性タッチスクリーン搭載または非搭載(カタログ番号によって異なる)
3	数値キーパッド	0~9、Backspace、Enter、左/右タブ、Shift、Esc、Ctrl、Altキー
4	移動キー	移動には矢印キーを使用します。以下の機能を開始するには、Alt+矢印キーを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> Alt+左矢印(Home)、Alt+右矢印(End) Alt+上矢印(Page Up)、Alt+下矢印(Page Down)
5	ファンクションキー F1~F8	操作を実行するためにアプリケーション内で設定できるキー。例えば、別の画面に移動するようにF1キーを設定することなどが可能です。



注意：キーパッドは、指または手袋をはめた指で操作します。タッチスクリーンの操作には、指、手袋をはめた指、または先端の最小半径が 1.3mm (0.051 インチ) のプラスチック製スタイラスを使用してください。これら以外の物体またはツールを使用した場合は、キーパッドまたはタッチスクリーンに損傷を与える可能性があります。



注意：複数の操作を同時に実行しないでください。意図しない操作が行われる可能性があります。

- 画面上の操作要素には、一度に1つだけ1本の指で触れてください。
- ターミナルのキーは、一度に1つだけ押してください。

オープンシステムと クローズドシステム

ターミナルは、オープンまたはクローズドなデスクトップ環境を実現するよう構成することができます。

- オープンシステムでは、スタートアップ時に Windows Explorer デスクトップが起動されます。このシステムはコントロールパネルを介して構成可能であり、Windows の操作をサポートします。
- クローズドシステムでは、起動時に FactoryTalk View Machine Edition アプリケーションが起動し、Windows Explorer デスクトップにはアクセスできません。

ターミナルはすべて、デスクトップへのアクセスが制限されるクローズドシステムとして出荷されます。システムを初めて起動すると、ターミナルの構成モードである FactoryTalk View ME Station が起動します。この時点で、スタートアップオプションを変更し、デスクトップへのアクセスを許可することができます。

スタートアップ オプション

ターミナルは、起動時に以下の3つの動作のうち、いずれか1つを実行するように構成できます。

- FactoryTalk View Machine Edition HMI アプリケーションを起動する。
- ターミナルの構成モードである FactoryTalk View Machine Edition を起動する。この場合は、アプリケーションのロードと実行、スタートアップオプションとターミナル設定の構成、デスクトップへのアクセスの有効/無効にすることができます。
- Windows Explorer デスクトップを起動する。

工場出荷時の設定状態とファームウェアアップグレード後のスタートアップオプションでは、ターミナルが構成モードで起動します。スタートアップオプションの変更方法の詳細は、[39 ページの「スタートアップオプション」](#)を参照してください。

デスクトップへの アクセス

ターミナルはすべて、デスクトップへのアクセスを許可または制限するように構成できます。デスクトップでは、システムの操作やコントロールパネルの操作を実行したり、サードパーティのアプリケーションを実行することができます。

また、特定のタスクを実行するために一時的にアクセスを許可した後で、許可されていない変更を防ぐためにデスクトップへのアクセスを無効にすることもできます。

ヒント ターミナルは、すべてデスクトップへのアクセスが無効な状態で出荷されます。

デスクトップへのアクセスの変更方法に関する詳細は、[42 ページの「デスクトップへのアクセス」](#)を参照してください。

製品アクセサリ

表5～表10に、ターミナルのアクセサリについて記載します。

表5 - セキュアデジタル (SD) カード

Cat. No.	ターミナルモデル	説明
1784-SD1	すべてのターミナル	1GB SDカード
1784-SD2		2 GB SD カード
2711C-RCSD		SDカード用のUSB/SDアダプタ

表6 - ケーブル

Cat. No.	ターミナルモデル	説明	長さ
6189V-USBCBL2	400または600	ターミナルのUSBデバイスポートからコンピュータのUSBホストポートに接続するためのプログラミングケーブル	1.8m (6フィート)
2711C-CBL-UU02 ⁽¹⁾	1000	ターミナルのUSBデバイスポートからコンピュータのUSBホストポートに接続するためのプログラミングケーブル	2m (6.5フィート)

(1) ミニ USB ポート、タイプ B 付きのシリーズ A ターミナルのみ

表7 - 電源および電源端子台

Cat. No.	ターミナルモデル	説明	数量
2711P-RSACDIN	400および600	DINレール電源、AC-DC、AC100～240V、50～60Hz	1
2711P-6RSA		DC端子をAC電源に変換するACモジュール	1
2711P-TBDC		DC電源端子台	10
2711P-RTBAC3	1000	AC電源端子台	10
2711P-RTBDC2		DC電源端子台	10

表8 - 交換用バッテリー

Cat. No.	ターミナルモデル	説明
2711P-RY2032	すべてのターミナル	CR2032コイン型と同等の交換用バッテリー

表9 - 反射防止オーバレイ

Cat. No. ⁽¹⁾	ターミナルモデル	オペレータ入力		
		キーパッド	タッチスクリーン	キーパッド/タッチスクリーン
2711P-RGB4	400グレイスケールまたはカラー	•		•
2711P-RGT6	600グレイスケールまたはカラー		•	
2711P-RGT10	1000色		•	

(1) カタログ番号ごとに3つのオーバレイが同梱されます。

表10 - 取付け具

Cat. No.	ターミナルモデル	説明	数量
2711P-RTFC	400および600	交換用取付けレバー	8
2711P-RTMC	1000	交換用取付けクリップ	8

ターミナルの取付け

項目	参照ページ
USB周辺機器に必要な回路パラメータ	19
取付け間隔	20
パネルに関するガイドライン	20
パネルカットアウト寸法	20
製品の寸法	21
400/600ターミナルをパネルに取付け	22
パネルへの1000ターミナルの取付け	24
電源端子台の取り外しおよび取付け	26
DC電源接続	28
初回起動時	31
ターミナルのリセット	31



注意：環境およびエンクロージャ

この装置は、汚染度2の産業環境、過電圧カテゴリIIのアプリケーション(IEC 60664-1に定義)、高度2000m(6561フィート)以下で性能が低下することなく使用できるように設計されています。

このターミナルは、プログラマブル・ロジック・コントローラと共に使用することを前提としています。AC電源のターミナルは、絶縁トランスの2次側に接続する必要があります。

この装置は、IEC CISPR 11に準拠したグループ1、クラスA産業用装置とみなされます。適切な予防策を講じないと、伝導性と放射性の外乱のため、住居や他の環境で電磁妨害波の影響を防ぐことが困難になります。韓国電磁波適合登録 - 標章が付されている場合、この装置は家庭用機器ではなく、業務用機器(A)として電磁波適合登録されています。販売者および使用者は、この点に注意する必要があります。

この装置は、「開放型」装置として出荷されています。特定の環境条件に適合し、帯電部への接触による人体への危険を防ぐように適切に設計されたエンクロージャ内に取付ける必要があります。また、何らかのツールを使用しなければエンクロージャの内部にアクセスできないような構造が必要です。これらのターミナルは、対応する定格のパネルまたはエンクロージャに取付けられた場合にのみ、特定のNEMA/ULタイプおよびIEC定格を満たします。以降のセクションには、特定の製品の安全要件を満たすのに必要な特定のエンクロージャタイプの定格に関する追加情報が記載されています。

他の参考文献：

- その他の取付け要件については、『配線および接地に関するガイドライン』(Pub.No. [1770-4.1](#))を参照してください。
- エンクロージャのタイプによって異なる保護レベルの説明については、対応するNEMA規格250およびIEC60529を参照してください。



注意：配線および安全に関するガイドライン



デバイスの配線を行なう場合は、NFPA 70E 『Electrical Safety Requirements for Employee Workplaces』、IEC 60364 『Electrical Installations in Buildings』、または設置する国の他の適合する配線の安全要件を参照して使用してください。NFPA ガイドラインの他に、以下の点にもご注意ください。

- 機器および他の同様の電子機器は、その機器上の分岐回路に接続してください。
- 定格が 15A 未満のヒューズまたはサーキットブレーカを使用して、入力電源を保護してください。
- 入力電源は、通信ケーブルとは異なる経路で機器まで配線してください。
- 電力線および通信線を交差しなければならないときは、垂直交差になるようにしてください。
- 通信線は、低レベル DC I/O 回線 (10V 未満) と同じ配線管に入れることができます。
- 電磁干渉 (EMI) を防止するために、ケーブルを適切にシールドし、接地してください。接地処理は、EMI によるノイズを最小限に抑える手段であり、電気設備における安全対策です。

推奨される接地方法については、米国消防協会 (NFPA) が公表する米国電気工事規定 (NEC) を参照してください。

危険な領域

北米における危険な領域に関する規格

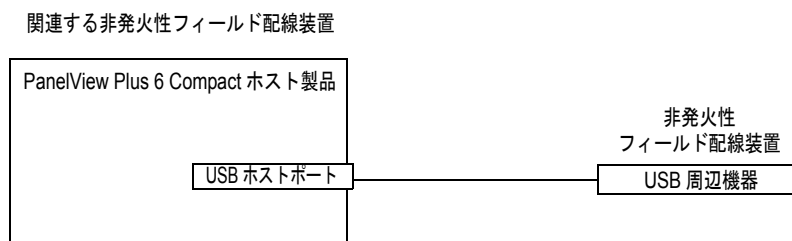
<p>The following information applies when operating this equipment in hazardous locations.</p>	<p>この装置を危険な領域で操作する場合に、以下の情報が適用されます。</p>
<p>When marked, these products are suitable for use in Class I, Division 2, Groups A, B, C and D; Class II, Division 2, Groups F and G; Class III hazardous locations and nonhazardous locations only. Each product is supplied with markings on the rating nameplate indicating the hazardous location temperature code. When combining products within a system, the most adverse temperature code (lowest "T" number) may be used to help determine the overall temperature code of the system. Combinations of equipment in your system are subject to investigation by the local Authority Having Jurisdiction at the time of installation.</p>	<p>マークされている製品は、クラス I、ディビジョン 2、グループ A、B、C、D、クラス II、ディビジョン 2、グループ F、G、クラス III の危険な領域および危険でない領域での使用にのみ適しています。各製品は、危険な場所の温度コードを示すようにマーキングされた定格銘板付きで提供されます。システム内で製品を組み合わせる場合、最も厳しい温度コード (最低の T 番号) を使用すると、システム全体の温度コードを判別する場合に役立ちます。システム内での装置の組合せは、取付け時に各地域の管轄機関による検査を受けることがあります。</p>
<p> WARNING: EXPLOSION HAZARD</p> <ul style="list-style-type: none"> • Do not disconnect equipment unless power has been removed or the area is known to be nonhazardous. • Do not disconnect connections to this equipment unless power has been removed or the area is known to be nonhazardous. • Substitution of components may impair suitability for Class I, Division 2. • Peripheral equipment must be suitable for the location in which it is used. • The battery or real-time clock module in this product must only be changed in an area known to be nonhazardous. • All wiring must be in accordance with Class I, Division 2, Class II, Division 2, or Class III wiring methods of Articles 501, 502 or 503, as appropriate, of the National Electrical Code and/or in accordance with Section 18-1J2 of the Canadian Electrical Code, and in accordance with the authority having jurisdiction. • When used in Class II and Class III hazardous locations these products must be installed in a dust tight enclosure in accordance with Articles 502 and 503 of the National Electrical Code. 	<p> 警告：爆発の危険</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電源を切断するか、または領域が危険でないとわかるまでは、装置を切り離さないでください。 • 電源を切断するか、または領域が危険でないとわかるまでは、コネクタを外さないでください。 • コンポーネントの代用は、クラス I、ディビジョン 2 への適合性を損なうことがあります。 • 周辺機器は、使用する環境に適合している必要があります。 • 本製品に含まれているバッテリーまたはリアルタイム・クロック・モジュールは、周辺に危険がないことが確認された場合にのみ交換するようにしてください。 • すべての配線は、全米電気工事規定 (NEC) の 501、502、または 503 の各条項に従うクラス I、ディビジョン 2、クラス II、ディビジョン 2、またはクラス III の配線方法、またはカナダ電気工事規定のセクション 18-1J2 や他の管轄機関に従う必要があります。 • これらの製品をクラス II およびクラス III の危険な領域で使用する場合は、米国電気工事規定 (NEC) の 502 条および 503 条に従って防塵ケース内に設置する必要があります。

最大周囲温度 55°C (131°F) での動作時、ターミナルの温度コードは T4 です。大気の発火温度が 135°C (275°F) 未満の環境には製品を設置しないでください。

USB 周辺機器に必要な回路パラメータ

この製品は、危険な環境に適合する USB ホストポートを装備しています。米国電気工事規定の第 500 条に従い、フィールド配線の準拠要件を示します。

図 1 – PanelView Plus 6 Compact ターミナルの制御図面



PanelView Plus 6 Compact ターミナルは、電源が別の USB ホストポートを 1 つ提供します。表 11 に USB ホストポートの回路パラメータを定義します。

表 11 – USB ホストポートの回路パラメータ

パラメータ	値	パラメータの定義	
$V_{oc(USB)}$	DC5.25V	ホスト USB ポートの開回路電圧 各 USB 周辺機器の最大印加電圧定格 $V_{max(peripheral)}$ は、 $V_{oc(USB)}$ 以上でなければなりません。	$V_{max(peripheral)} \geq V_{oc(USB)}$ 、 必要に応じて
$I_{sc(USB)}$	1.68A	ホスト USB ポートの最大出力電流 各 USB 周辺機器が制約を受ける最大電流 $I_{max(peripheral)}$ は、 $I_{sc(USB)}$ 以上でなければなりません。	$I_{max(peripheral)} \geq I_{sc(USB)}$
$C_{a(USB)}$	10 μ F	USB ホストポートに接続できる最大総静電容量。USB 周辺機器とその関連ケーブルの総静電容量はこの値以下でなければなりません。 各 USB 周辺機器の最大総静電容量 $C_{i(peripheral)}$ とケーブル静電容量は、 $C_{a(USB)}$ 以下でなければなりません。	$C_{i(peripheral)} + C_{cable(USB)} \geq C_{a(USB)}$
$L_{a(USB)}$	15 μ H	USB ホストポートに接続できる最大合計インダクタンス。USB 周辺機器と接続ケーブルの合計インダクタンスが指定値を超えないようにする必要があります。 最大合計インダクタンス $L_{i(peripheral)}$ と別の USB 周辺機器のケーブルインダクタンスは、 $L_{a(USB)}$ 以下でなければなりません。	$L_{i(peripheral)} + L_{cable} \geq L_{a(USB)}$

アプリケーション情報

米国電気工事規定 (NEC) では、危険な領域で使用される非発火性フィールド配線装置の回路パラメータは、ホスト製品と組み合わせて使用しても非発火性が保たれなければならないと定められています。PanelView Plus 6 Compact ターミナルおよび USB 周辺機器もこの規定に準拠しています。

また、PanelView Plus 6 Compact の USB ホストポートに接続して使用しても非発火性が保持されるよう、USB 周辺機器およびその接続ケーブルの回路パラメータは、表 11 に記載された制限値に従う必要があります。

ケーブルの静電容量およびインダクタンスが不明な場合は、ANSI/ISA-RP 12.06.01-2003 で定められた以下の値が適用してください。

$$C_{cable} = 197 \text{ pF/m (60 pF/ft)}$$

$$L_{cable} = 0.7 \text{ }\mu\text{H/m (0.20 }\mu\text{H/ft)}$$

非発火性フィールド配線の接続および切り離しは、米国電気工事規定 (NEC) ANSI/NFPA 70 の第 501 条 10(B)(3) 項、およびその他の適用し得る地域の法令に遵守して行なう必要があります。この関連する非発火性フィールド配線装置について、他の関連する非発火性フィールド配線装置と組み合わせて使用する場合の評価は行なわれていません。

取付け間隔

エンクロージャ内にターミナルを取付けるときは、換気と配線のための十分な空間をターミナルの周囲に設ける必要があります。エンクロージャ内の他のデバイスによって発生する熱も考慮する必要があります。ターミナルの周囲温度は、0～55°C(32～131°F)である必要があります。

表 12 – 必要最小間隔

製品面	最小間隔
上面	51mm (2インチ)
底面	102mm (4インチ) ⁽¹⁾
側面	25mm (1インチ) ⁽¹⁾
背面	0mm (0インチ)

(1) ターミナル側面 (SD カードの出し入れ) と底面 (接続) には、102mm (4 インチ) の取付け間隔があれば十分です。

パネルに関するガイドライン

ターミナルは、NEMA 定格、UL タイプ定格、または IP 定格エンクロージャの扉または壁に取付けるパネル取付けデバイスです。

- サポートパネルの取付け部分の厚みは、1.5～4.8mm (0.060～0.188 インチ) でなければなりません。
- パネルの材料は、ターミナルを支え、水や埃が入らないように適度な密閉を維持するために十分な強度と高度を備える必要があります。
- パネルの表面は平坦で適度な密閉と NEMA および UL タイプ定格を維持するために欠陥のない状態である必要があります。

パネルカットアウト寸法

製品に同梱されている実寸大テンプレートを使用して、カットアウト寸法をトレースしてください。

表 13 – パネルカットアウト寸法

ターミナルタイプ	入力タイプ	高さ: mm (インチ)	幅: mm (インチ)
400	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	123 (4.86)	156 (6.15)
600	タッチスクリーン	123 (4.86)	156 (6.15)
1000	タッチスクリーン	224 (8.8)	305 (12.00)

製品の寸法

図2～図4に、製品寸法を記載します。

図2 – PanelView Plus 6 Compact – 400 キーボードまたはキーボード/タッチスクリーン

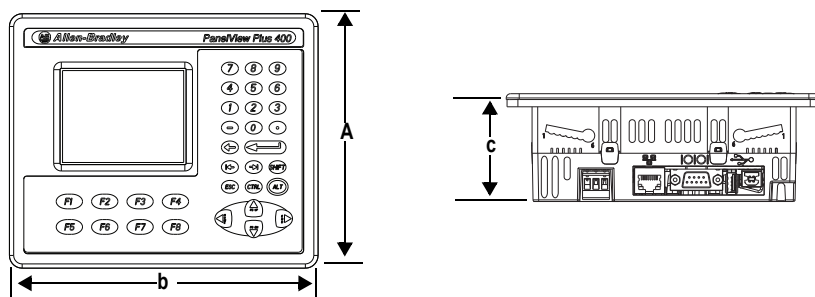


図3 – PanelView Plus 6 Compact – 600 タッチスクリーン

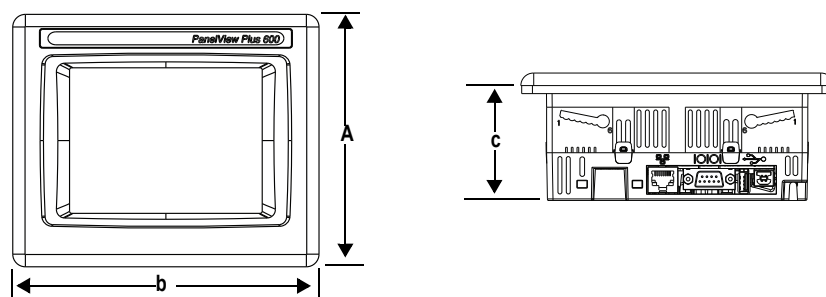


図4 – PanelView Plus 6 Compact – 1000 タッチスクリーン

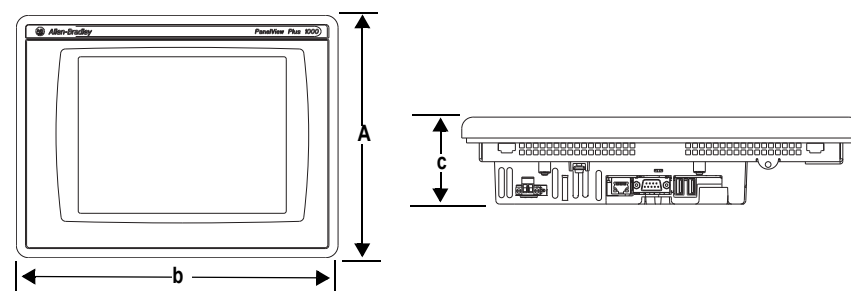


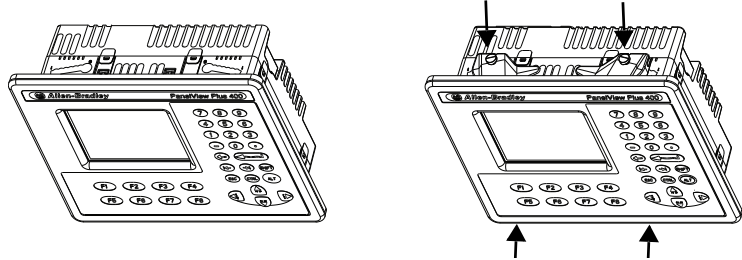
表 14 – PanelView Plus 6 Compact – 400/600/1000 の製品寸法

ターミナル サイズ	入力タイプ	高さ(a) mm (インチ)	幅(b) mm (インチ)	奥行き(c) mm (インチ)
400	キーボードまたはキーボード/ タッチスクリーン	152 (6.0)	185 (7.28)	60 (2.35)
600	タッチスクリーン	152 (6.0)	185 (7.28)	68 (2.68)
1000	タッチスクリーン	248 (9.77)	329 (12.97)	83 (3.27)

400/600 ターミナルを パネルに取付け

ターミナルは1人で取付けられるよう設計されています。パネルカットアウトを行なう場合を除き、工具は必要となりません。

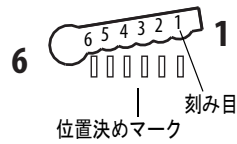
4つの取付けレバーによって、ターミナルをパネルに固定します。レバーは、ターミナルの上面または底面にある取付けスロットに差し込みます。



各取付けスロットには、レバーのロック位置をマークした刻み目が6個あります。NEMA/ULタイプの密閉性を維持するために必要なロック位置は、ターミナルを取付けるパネルの厚みによって決まります。

表 15 – レバーロック位置

取付けスロット	レバーロック位置	パネルの厚さの範囲	一般的なゲージ
スロットの向きはさまざまです。	1	1.50~2.01mm (0.060~0.079インチ)	16
	2	2.03~2.64mm (0.080~0.104インチ)	14
	3	2.67~3.15mm (0.105~0.124インチ)	12
	4	3.17~3.66mm (0.125~0.144インチ)	10
	5	3.68~4.16mm (0.145~0.164インチ)	8/9
	6	4.19~4.80mm (0.165~0.188インチ)	7



以下の手順に従って、パネル内にターミナルを取付けてください。



注意：パネルカットアウトを行なう前に、パネルからすべての電源を切断してください。

パネルカットアウトの周辺に障害物がなく、パネルにゴミ、油分、またはその他の化学物質が付着していないことを確認してください。

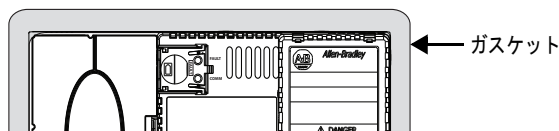
パネル内部にすでに別のコンポーネントが取付けられているようなときは、内部コンポーネントに金属の切削片が入り込むことなく、カットアウトの端にバリや鋭い縁がないことを確認します。

この注意事項を守らないと、人体に危険が及んだりパネル内のコンポーネントが損傷することがあります。

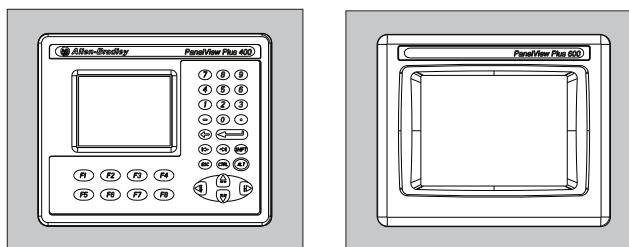
1. ターミナルに付属するカットアウト用のテンプレートまたは [20 ページ](#) のカットアウト寸法に従って、パネルの開口部をくり抜きます。

2. シーリングガスケットがターミナルにあることを確認します。

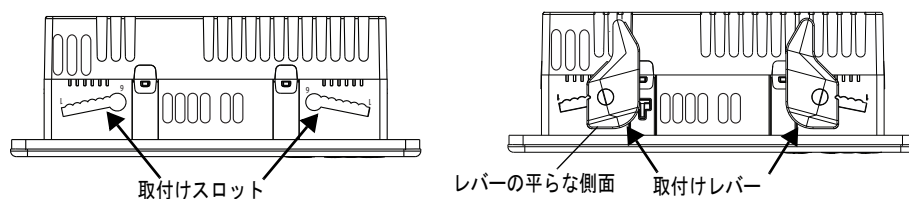
このガスケットは圧縮タイプのシールとなります。シール用配合剤は使用しないでください。



3. ターミナルをパネルのカットアウト部分にはめ込みます。



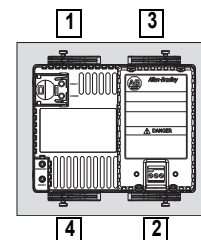
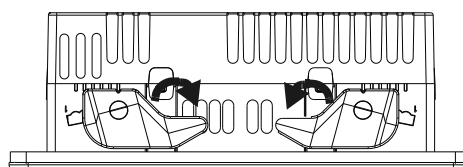
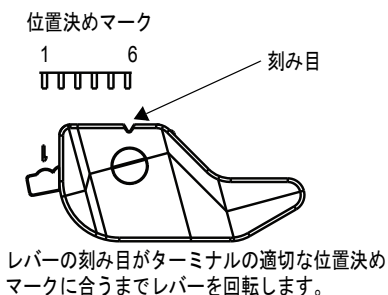
4. すべての取付けレバーをターミナルの取付けスロットに挿入します。
レバーの平らな側面がパネルの表面に触れるまで各レバーをスライドします。



5. すべてのレバーを差し込んだら、カチッという音がするまで各レバーをさらに奥まで (刻み目 1、2 個分) 差し込みます。
パネルの厚みに適したロック位置を特定するには、22 ページの [表 15](#) を参照してください。

6. 各レバーを指定された方向に最終位置まで回転させます。
ヒント レバーはターミナルの上面と底面で同じ方向に回転します。

適切な順序でロックし、ターミナルに固定します。



7. すべてのレバーを点検し、同じ正しいロック位置にあることを確認します。



注意：ターミナルとパネルの間をガスケットで適切に密閉するには、すべてのレバーがロックされていなければなりません。不適切な取付けによって生じた、エンクロージャ内のターミナルやその他の装置に対する湿気や化学物質による損傷については、当社では責任を負いかねます。

パネルへの 1000 ターミナルの取付け

4つの取付けクリップで1000ターミナルをパネルに固定します。取付けには、パネルカットアウト工具、小型のマイナスドライバー、取付けクリップを締め付けるためのトルクレンチなどの工具が必要です。



注意：パネルカットアウトを行なう前に、パネルからすべての電源を切断してください。

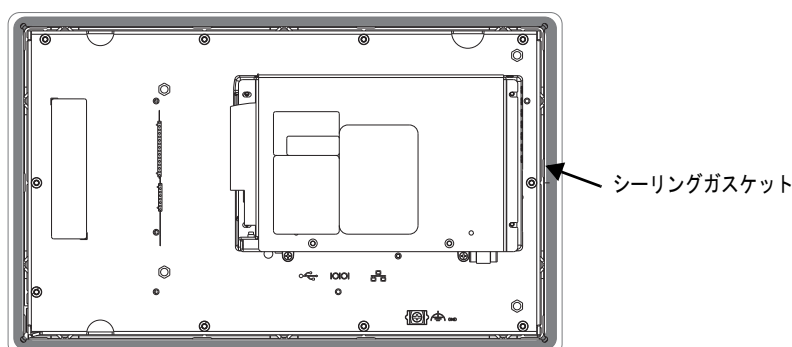
パネルカットアウトの周辺に障害物がなく、パネルにゴミ、油分、またはその他の化学物質が付着していないことを確認してください。

パネル内部にすでに別のコンポーネントが取付けられているようなときは、内部コンポーネントに金属の切削片が入り込むことなく、カットアウトの端にバリや鋭い縁がないことを確認します。

この注意事項を守らないと、人体に危険が及んだりパネル内のコンポーネントが損傷することがあります。

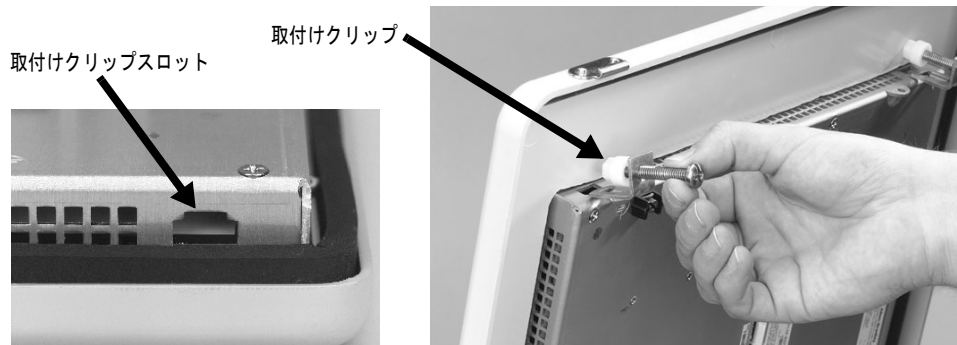
以下の手順に従って、パネル内にターミナルを取付けてください。

1. ターミナルに付属するパネルカットアウト用のテンプレートまたは [20 ページ](#)に記載されているカットアウト寸法を使用して、パネルの開口部をくり抜きます。
2. ターミナルのシーリングガスケットが、ターミナル上に正しく置かれていることを確認します。
このガスケットは圧縮タイプのシールとなります。シール用配合剤は使用しないでください。



取付けの際に刻印文字シートを傷つけないように注意してください。

3. ターミナルをパネルのカットアウト部分にはめ込みます。



4. 取付けクリップの端をターミナルのスロットにスライドさせます。
5. ガasketシールが取付け面に均等に密着するまで、取付けクリップのねじを手で締めます。



6. 指定された順番で取付けクリップのねじを 0.90 ~ 1.1Nm(8 ~ 10ポンドインチ) のトルクで締めます。締め付け過ぎないように注意してください。

1	4
クリップ4個のときの ねじを締める順番	
3	2



注意：適切なシール処理が行なわれ、かつ製品が損傷することがないように、指定のトルクがかかるまで取付けクリップを締めてください。不適切に設置したためにエンクロージャ内のターミナルやその他の装置に生じた湿気や化学物質による損傷については、当社では責任を負いかねます。

電源端子台の取り外し および取付け

ターミナルは、電源装置の端子台が取付けられた状態で出荷されています。端子台を取り外すことで、設置、配線、および保守作業をスムーズに行なうことができます。



警告：爆発の危険

電源が投入されている状態で配線の接続や取り外しを行なうと、電氣的なアークが生じることがあります。危険な環境で取付けを行なっている場合は、これによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されていて、周辺に危険がないことを確認してください。

電源を切断しないと、感電またはターミナルの損傷が発生する恐れがあります。

電源端子台はデージーチェーン電源用に設計されていません。

端子台の配線には 0.6 x 3.5mm のマイナスドライバーを使用してください。

表 16 – 電源入力端子台のワイヤ仕様

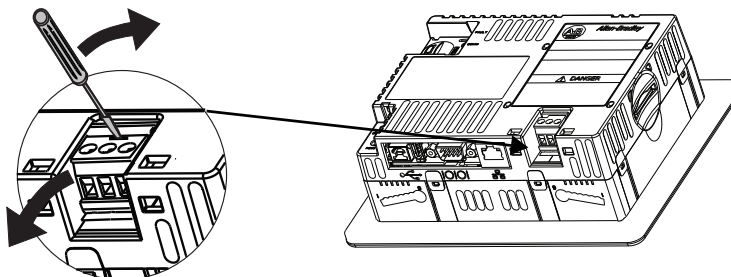
ターミナル	ワイヤタイプ	デュアルワイヤのサイズ ⁽¹⁾	シングルワイヤのサイズ	剥く長さ	ねじの締め付けトルク
400、600	より線またはソリッド Cu 90°C(194°F)	0.3~1.3mm ² 22~16AWG	0.3~2.1mm ² (22~14AWG)	7mm (0.28 インチ)	0.45~0.56Nm (4~5ポンドインチ)
1000					0.56~0.90Nm (5~8ポンドインチ)

(1) 端子当たり最大2線

400 および 600 ターミナル

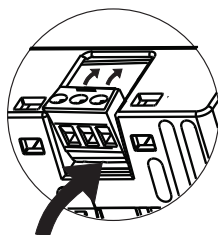
以下の手順に従って、端子台を取り外してください。

1. 小型マイナスドライバーの先端を端子台のアクセススロットに差し込みます。
2. 端子台をゆっくりと回転させてターミナルから引き離します。これにより、ロックが解除されます。



以下の手順に従って、端子台を取付けてください。

1. まずブロックを外側に倒しながら端子台の基部を押します。

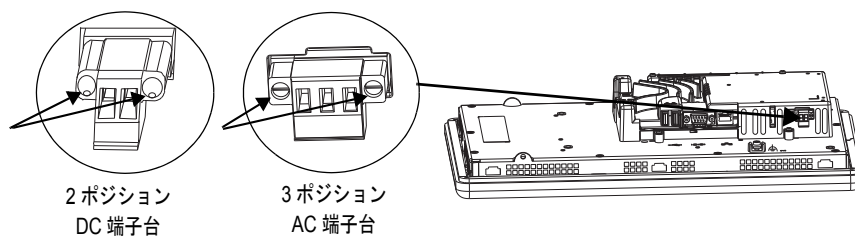


2. 端子台の上面を軽く押して、回転させながら取付けます。
端子台を所定の位置に置いてはめ込みます。

1000 ターミナル

以下の手順に従って、1000 ターミナルから端子台を取り外してください。

1. 端子台を固定する2個のねじを緩めます。
2. 端子台をコネクタからやさしく引っ張り出します。



以下の手順に従って、端子台を取付けてください。

1. 端子台をコネクタに再び取付け、ぴったりはめます。
2. 端子台を固定する2本のねじを $0.40 \sim 0.51\text{Nm}$ (3.5 ~ 4.5 ポンドインチ) のトルクで締めます。

DC 電源接続

DC24V 電源を搭載したターミナルの電源定格は、以下の通りです。

表 17 – DC 電源定格

ターミナル	電源	入力電圧(公称)	消費電力(最大)
400、600	非絶縁	DC24V (DC18~30V)	15W (DC24Vのとき0.6A)
1000	絶縁	DC24V (DC18~32V)	70W (DC24Vのとき2.9A)

電源は極性反転に対して内部的に保護されています。DC+ または DC- をアース端子に接続すると、デバイスが損傷することがあります。



注意：ターミナルに AC 電源を接続しないでください。ターミナルに AC 電源を印加すると、製品が損傷する可能性があります。

外部電源

各 PanelView Plus 6 Compact デバイスへの電源投入には、安全特別低電圧 (SELV) または保護特別低電圧 (PELV) の DC24V 専用電源を使用してください。



注意：取付けの際には、設置する地域の配線に関する規制によって定められたクラス 2 SELV 電源または PELV 電源をご使用ください。これらの電源には、通常の状態および単一故障状態において導線とアース間の電圧が安全値を超えないようにするための保護機能が装備されています。

PanelView Plus 6 Compact ターミナルは、Cat.No. 2711P-RSACDIN の電源装置で動作することがテストによって確認されています。別の電源を使用するには、以下の表の条件を確認してください。

表 18 – 電源基準

PanelView Plus 6装置の状態	使用する電源	説明
絶縁通信ポート付き機器に接続されている。 他の装置と接続していない。	SELVまたはPELV電源	接地ループが作成されていない場合は、他の機器も PanelView Plus 6装置とこの電源を共有できる。PELV電源はネガティブ電源装置の端子台をシャーシグラウンドに内部接続します。
非絶縁通信ポートを使用して機器と接続している。	各ターミナルに給電する専用の絶縁未接地SELV電源	こうすることにより、グラウンドループによるデバイスの損傷を防ぐことができます。

重要 USB ポートを除くターミナルのすべてのポートが電氣的に絶縁されています。

アース / グラウンド接続

DC 電源入力付きの PanelView Plus 6 Compact 装置のアース / グラウンド端子は、低インピーダンスアース / グラウンドに接続する必要があります。

- 400 および 600 ターミナルでは、アース / 接地接続は電源端子台上にあります。
- 1000 ターミナルでは、アース / グラウンド接続部は、ディスプレイモジュールの背面にあります。

- 重要** アース / グラウンド接続は義務付けられています。この接続は以下の目的のために必要です。
- ノイズの除去、信頼性の向上、および CE マーク適合に必要な欧州連合 (EU) EMC 指令で定められた電磁適合性 (EMC) の達成
 - UL (保険業者研究所) が規定する安全性

表 19 – DC 電源のアースワイヤ仕様

ターミナル	記号	ワイヤタイプ	ワイヤゲージ	端子ねじの締め付けトルク
400、600	 GND	より線またはソリッド Cu 90°C (194°F)	2.1~3.3mm ² (14~12AWG)	0.45~0.56Nm (4~5ポンドインチ)
1000	 GND	より線またはソリッド Cu 90°C (194°F)	2.1~5.3mm ² (14~10AWG)	1.13~1.36Nm (10~12ポンドインチ)



注意 : 2つの個別の接地ポイント間に電位差が存在するときは、損傷または機能不良が起こる可能性があります。ターミナルが、電位差のある接地点間の伝導性パスとならないようにご注意ください。

DC 電源の接続



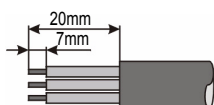
警告：爆発の危険

電源を切断し、周辺に危険がないことを確認するまでは、装置を取り外さないでください。

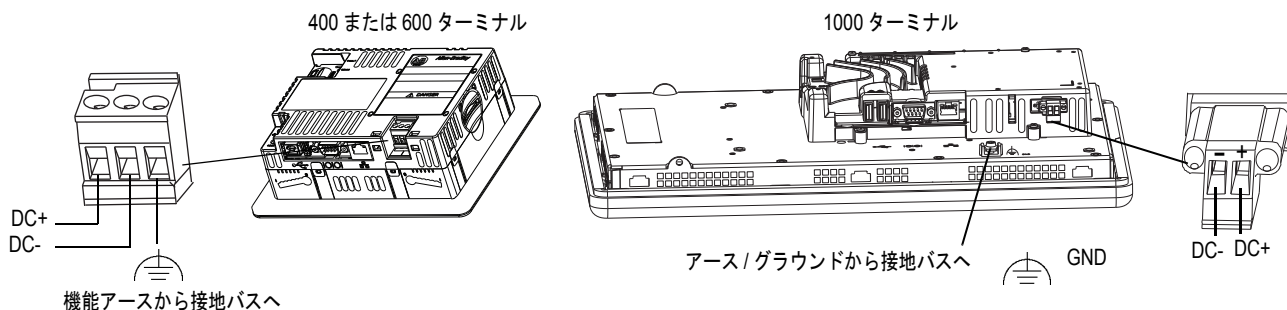
コンポーネントの取付けまたは交換の前に、すべての電源を切断してください。電源を切断しないと、感電またはターミナルの損傷が発生する恐れがあります。

以下の手順に従って、ターミナルを DC 電源に接続してください。

1. ターミナルが電源に接続されていないことを確認します。
2. ワイヤの端部分の絶縁体を 7mm (0.28 インチ) 剥きます。



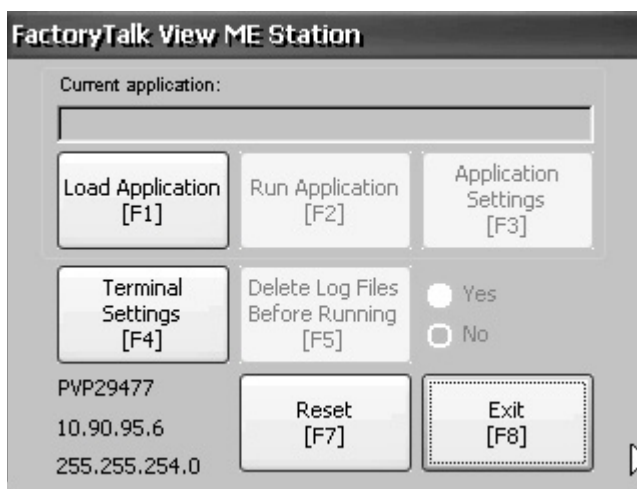
3. DC 電源ワイヤを電源端子台のマークが付いている端子 (+ および -) に固定します。
4. アース / 接地ワイヤを固定します。
 - 400 および 600 ターミナルでは、アース / 接地ワイヤを電源端子台の機能アース / 接地端子に固定します。
 - 1000 ターミナルでは、アース / 接地ワイヤをディスプレイの背面にある機能アースねじに固定します。



5. ターミナルの電源を投入します。

初回起動時

システムを初めて起動すると、ターミナルで起動シーケンスが実行され、FactoryTalk View ME Station の構成モードが起動します。



ターミナルのスタートアップ時の動作を変更するには、Terminal Settings を押して Startup Options を選択します。以下のオプションのいずれかを設定できます。

- スタートアップ時に実行されるように構成された FactoryTalk Machine Edition の HMI アプリケーションを起動する。
- FactoryTalk View ME Station 構成モードを起動し、ターミナルの構成オプションを実行する (デフォルト)。
- Windows Explorer デスクトップを起動する。

デスクトップへのアクセスを許可するようにターミナルを構成することもできます。ターミナルの出荷時には、デスクトップへのアクセスは無効に設定されています。デスクトップへのアクセスを許可または制限するには、Terminal Settings を押して、Desktop Access を選択します。

スタートアップオプションの変更およびデスクトップへのアクセスの許可/制限については、「[第3章 - 構成モード](#)」を参照してください。

ターミナルのリセット

電源を切断して再投入する必要なくターミナルを再起動するには、いくつかのオプションがあります。

- ターミナル背面にあるリセットスイッチを使う。
- ターミナルデスクトップの Start メニューで、Programs → Restart System を選択します。
- FactoryTalk View ME Station の構成ダイアログボックスで、Reset を押します。

再起動後、ターミナルでは、一連のスタートアップテストが実行されてから、以下の動作のうちのいずれか1つが実行されます。

- 起動時に実行するよう構成された FactoryTalk Machine Edition HMI アプリケーションが実行される。
- FactoryTalk ME Station の構成モードが起動する。
- Windows Explorer デスクトップを起動する。

実行される動作は、ご使用のターミナル用に構成されたスタートアップオプションによって異なります。詳細は、[39 ページの「スタートアップオプション」](#)を参照してください。

スタートアップ情報とエラーメッセージのリストについては、[145 ページの「スタートアップメッセージおよびコード」](#)を参照してください。

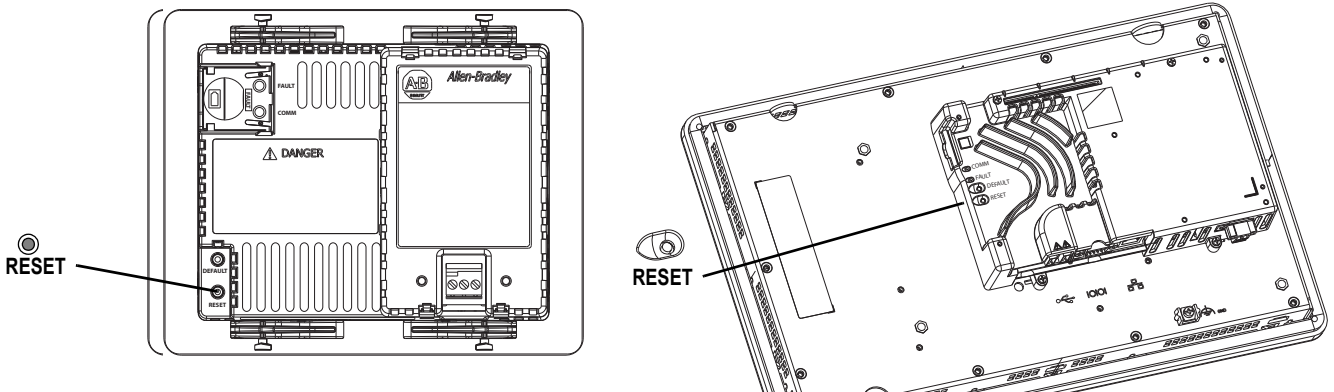
以下の手順に従って、リセットスイッチを使ってシステムを再起動してください。

1. 細い非伝導性のピンをリセット部分に挿入します。



注意：リセットスイッチを押すときは非伝導性の道具を使用してください。ペーパークリップや鉛筆の先端など、伝導性のある道具を使用してはなりません。いずれの道具もターミナルを損傷する可能性があります。

2. RESET スイッチを押してから放します。



以下の手順に従って、Windows デスクトップからシステムを再起動してください。

1. Start メニューで、Programs → Restart System の順に選択します。
再起動することを確認するメッセージが表示されます。
2. Yes をクリックして再起動するか、No をクリックしてキャンセルします。

以下の手順に従って、FactoryTalk View ME Station ソフトウェアからシステムを再起動してください。

1. 構成モードへのアクセス
FactoryTalk View ME Station 構成モードの起動方法は、[33 ページの「構成モードへのアクセス」](#)を参照してください。
2. Reset [F7] を押します。

構成モード

項目	参照ページ
構成モードへのアクセス	33
ターミナル設定	36
アプリケーションのロードと実行	38
スタートアップオプション	39
デスクトップへのアクセス	42
通信の設定	46
イーサネットネットワーク接続	48
ファイル管理	52
ディスプレイ設定	55
入力機器の設定	57

項目	参照ページ
印刷オプションの構成	60
アプリケーションファイルの整合性チェック	62
診断の構成	63
システム・イベント・ログの表示と消去	64
システム情報	64
アラームディスプレイの有効/無効	66
時刻と日付の設定	67
地域の設定	69
フォントのリンク	72

構成モードへのアクセス

ターミナルでは、スタートアップオプションの構成、アプリケーションのロードと実行、Windows デスクトップへのアクセス、および他のターミナルの操作を行なうために組み込みソフトウェアである FactoryTalk View ME Station を使用します。ターミナルをリセットすると、構成済みのスタートアップオプションに応じて、以下の動作のうちのいずれか1つが実行されます。

- FactoryTalk View ME Station 構成モードが起動される (クローズドシステム)。これが初期設定です。
- FactoryTalk View Machine Edition の .mer アプリケーションが実行されるように設定される (クローズドシステム)。
- Windows Explorer デスクトップが起動される (オープンシステム)。



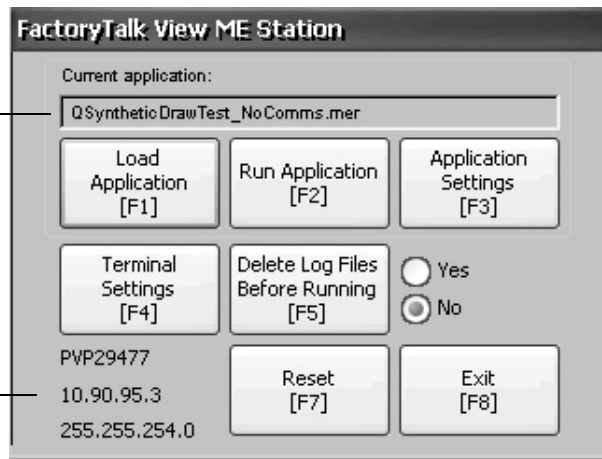
Windows Explorer デスクトップから、FactoryTalk View ME Station のアイコンをダブルクリックし、ターミナルの構成モードにアクセスします。

重要

- 実行中のアプリケーションから構成モードにアクセスするには、Goto Configuration Mode を押します。このボタンは、アプリケーションの開発中に FactoryTalk View Studio ソフトウェアのアプリケーション画面に追加されます。アプリケーションは実行を停止しますが、引き続きロードされた状態です。
- Goto Configuration Mode ボタンが表示されないアプリケーションの場合に構成モードへアクセスする方法については、[149 ページの「構成モードへのアクセス」](#)を参照してください。

図5 – FactoryTalk View ME Station の構成モード

現在ロードされているアプリケーションの名前。アプリケーションがロードされている場合のみ表示する。



60秒おきにネットワーク情報を表示
ネットワークがシャットダウンされた場合、
IPアドレスとサブネットマスクは0.0.0.0と
して表示されます。

表20 – 構成モードでの操作

ターミナルの操作	説明
Load Application (F1)	ロードするアプリケーションを選択するためのダイアログボックスを開く。ロードされたアプリケーションの名前がCurrent applicationの下に表示される。
Run Application (F2)	Current applicationの下に表示されているロードされた.merアプリケーションを実行する。アプリケーションは、実行する前にロードしなければならない。
Application Settings (F3)	ロードされている.merアプリケーションに対して定義されたデバイスショートカットなど、アプリケーション固有の構成設定メニューを開く。デバイスショートカットは読み取り専用であり、編集することはできない。 例として、.MERアプリケーションで、ControlLogix [®] コントローラのデバイスショートカット名としてCLXを定義できる。
Terminal Settings (F4)	PanelView Plus 6デバイス用のターミナル設定(アプリケーション設定以外)を構成するためのオプションのメニューを開く。
Delete Log Files Before Running (F5)	YesとNoを切換えることができる。Yesを選択した場合は、アプリケーションが実行される前に、すべてのデータ・ログ・ファイル、アラーム履歴、およびアラーム・ステータス・ファイルが削除される。Noを選択すると、最初にログファイルは削除されない。 ログファイルの削除は、ターミナルでメモリを解放する1つの手段である。
Reset (F7)	ターミナルをリセットした後、構成されているスタートアップオプションに応じて、HMIアプリケーション、構成モード、またはデスクトップを起動する。
Exit (F8)	構成モードを終了する。デスクトップへのアクセスが許可されている場合は、デスクトップにアクセスできる。

移動ボタン

多くの FactoryTalk View ME Station ダイアログボックスにはデータ入力ボタンと移動ボタンがあります。

- タッチスクリーンターミナルでは、指またはスタイラスでボタンを押す。
- キーパッドターミナルでは、ボタン上に表示されているファンクションキーを押す。
- マウスが接続されている場合は、ボタンをクリックする。

表21 – 移動ボタン

ボタン	説明	ボタン	説明
Close [F8]	直前のダイアログボックスに戻る。 構成モードダイアログボックスではこのボタンを押して、デスクトップにアクセスする(許可されている場合)。	▲ ▼	リスト内の強調表示部分を上下に移動する。
OK [F7] Cancel [F8]	変更を受入れて直前のダイアログボックスに戻るか、変更を保存せずに操作をキャンセルする。	←	強調表示された機能または項目をリストから選択する。

デバイス名

データ入力フィールドを有効にすると、デバイス名入力パネルが開きます。フィールドが数値または IP アドレスに制限されている場合は、0～9 および小数点のテンキーのみが有効になる。

図 6 – デバイス名入力パネル



図 7 – デバイス名入力パネルのコントロール

デバイス名入力パネルのコントロール	機能
SHF	キーのシフトされた状態とシフトされていない状態を切替える。初期設定はシフトされていない状態。
CAP	小文字と大文字を切替える。初期設定は小文字。
SPACE	表示領域で文字と文字の間にスペースを入力する。
Backspace	表示領域で(カーソルの左側にある)直前の文字を削除する。
Select F1	文字を選択して表示領域にその文字を入力する。
左、右、上、下矢印キー	現在選択されている文字の左、右、上、下側の文字を選択する。
Enter	入力された文字を受入れて、直前のダイアログボックスに戻る。
ESC	現在の操作をキャンセルして、直前のダイアログボックスに戻る。

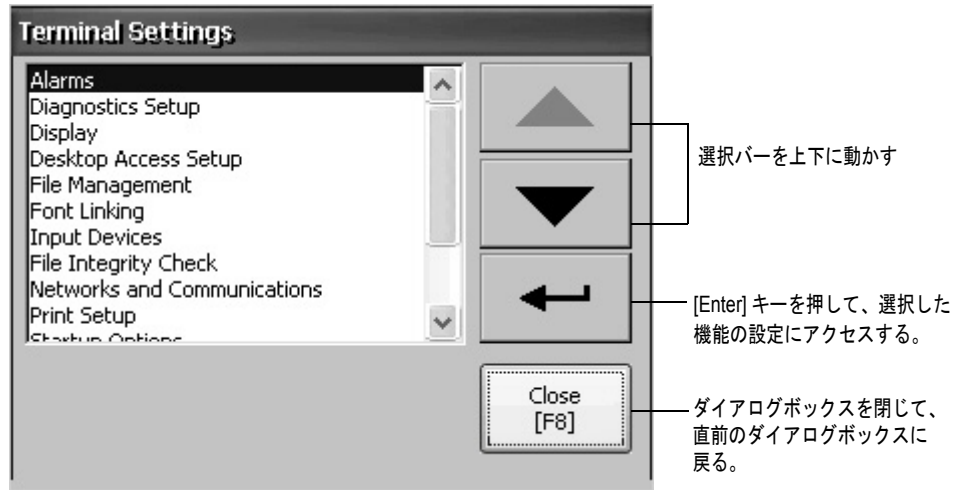
以下の手順に従って、表示領域に文字を入力してください。

1. キーパッドで文字を押します。
 - タッチスクリーンターミナルでは、キーを押す。
 - キーパッドターミナルでは、キーボード上の矢印キーを押してキーに移動する。
 - マウスが接続されている場合は、キーをクリックします。
2. Select を押して、その文字を表示領域にコピーします。
3. 完了したら [Enter] キーを押して、入力パネルを終了します。

ターミナル設定

アプリケーションに固有のものではないターミナルの設定を変更できます。

1. FactoryTalk View ME Station 構成モードダイアログボックスで、Terminal Settings を押します。

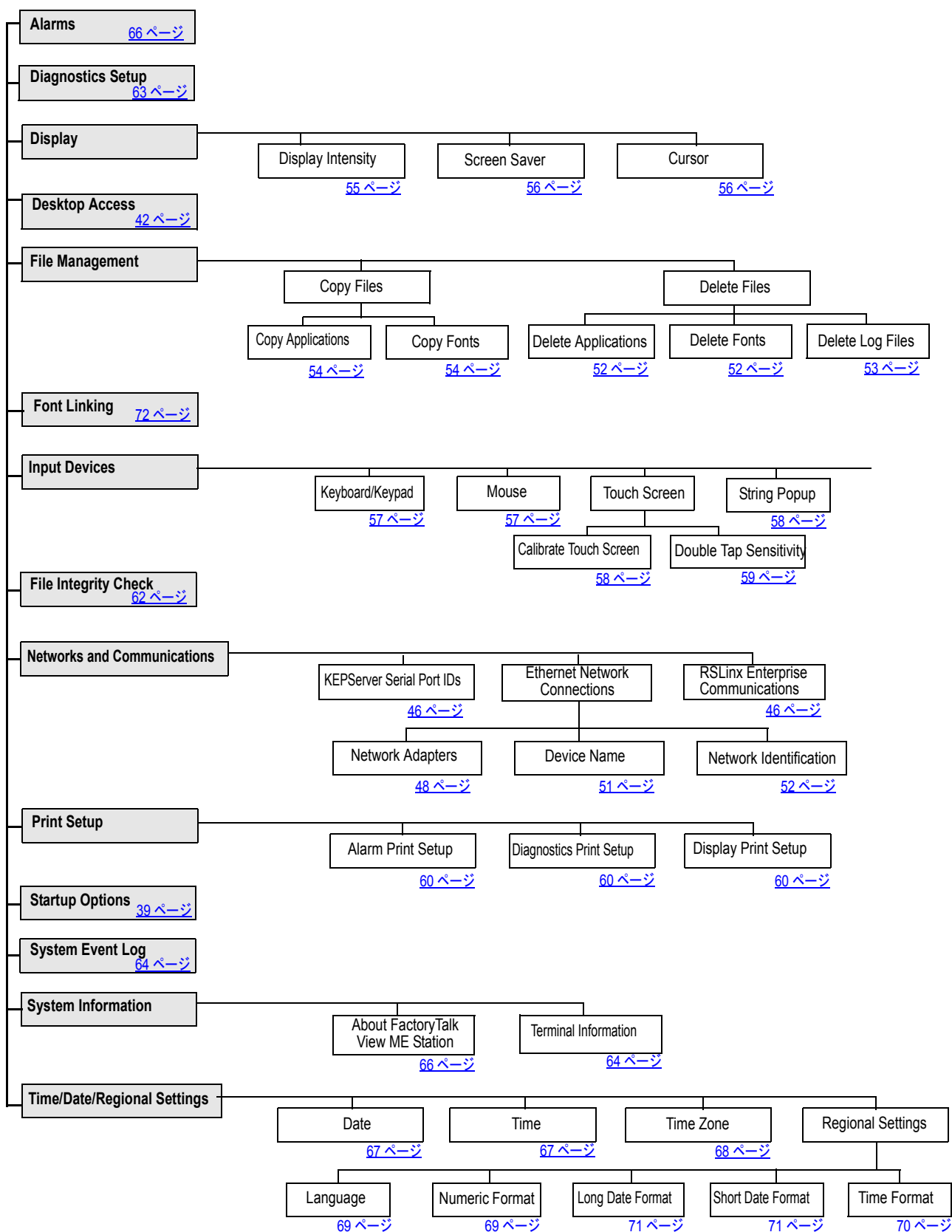


2. 次のように上 / 下カーソルボタンを使用して、機能を選択します。
 - タッチスクリーンターミナルでは、ボタンを押します。
 - キーパッドターミナルでは、キーパッド上のキーまたはターミナルの対応するファンクションキーを押します。
3. [Enter] キーを押して、選択した機能にアクセスします。

表 22 – ターミナル設定

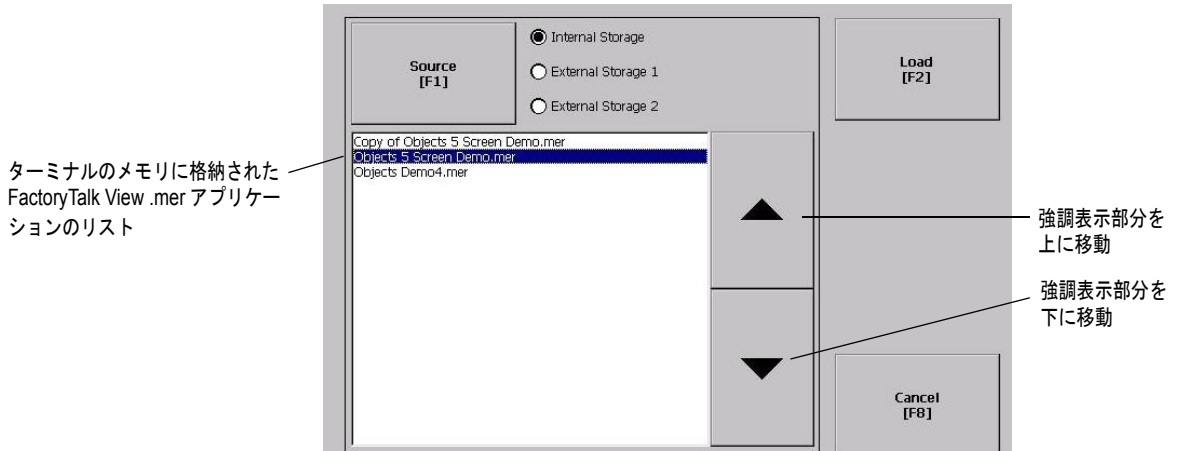
ターミナル設定	説明
Alarms	最新のアラームがオペレータによって確認されたときにターミナルのアラームディスプレイを閉じるかどうかを指定する。デフォルトでは、アラームディスプレイが閉じられます。
Diagnostics Setup	診断メッセージをリモートのログ出力先から、診断を実行中のコンピュータへ転送する。
Display	バックライトの輝度を設定し、スクリーンセーバを構成して、タッチスクリーンのカーソルを有効にする。
Desktop Access Setup	デスクトップへのアクセスにパスワードを使用するかどうかを指定し、パスワードの設定/再設定を可能にする。
File Management	アプリケーションファイルおよびフォントファイルをターミナル、SDカード、またはUSBドライブにコピーする。アプリケーションファイルをターミナル、SDカード、またはUSBドライブから削除することもできる。アプリケーションによって生成されたログファイルをターミナルから削除できる。
Font Linking	フォントファイルをターミナルにロードされている基本フォントにリンクさせる。
Input Devices	タッチスクリーンのキャリブレーションをはじめとして、キーパッド、タッチスクリーン、または接続されたキーボードとマウス用の設定を構成する。また、文字列入力用にポップアップ形式文字入力またはポップアップ形式キーボードのいずれかを選ぶこともできる。
File Integrity Check	詳細情報をファイル整合性チェックログに記録することで、.merアプリケーションファイルおよびランタイムファイルの整合性をチェックする。このログはいつでも表示/消去できる。
Networks and Communications	アプリケーションのイーサネットまたはその他の通信設定を行なう。
Print Setup	ディスプレイ、アラームメッセージ、およびアプリケーションによって生成された診断メッセージを印刷するための設定を構成する。
Startup Options	ターミナルの起動時にデスクトップを起動するか、構成モードを起動するか、またはアプリケーションを実行するかを指定する。
System Event Log	ターミナルによってログに記録されたシステムイベントを表示し、ログからイベントを消去できる。
System Information	ターミナルの電源、温度、バッテリー、およびメモリに関する詳細情報を表示する。また、FactoryTalk View MEソフトウェアのファームウェア番号および技術サポート情報も表示する。
Time/Date/Regional Settings	ターミナルとアプリケーションで使用する日付、時刻、言語、および数字形式を設定する。

図 8 – Terminal Settings メニュー構造



アプリケーションのロードと実行

FactoryTalk View Machine Edition の .mer アプリケーションを実行する前に、そのアプリケーションをまずロードする必要があります。mer アプリケーションは、ターミナルの内蔵ストレージ (不揮発性メモリ)、SD カード、または USB ドライブにロードできます。



以下の手順に従って、アプリケーションをロードして実行してください。

1. 構成モードのダイアログボックスで Load Application を選択します。
2. Source を押して、ロードするファイルの場所を選択します。

- Internal Storage - ターミナルの不揮発性メモリ
- External Storage 1 - ターミナルのカードスロットに装着された SD カード
- External Storage 2 - USB ホストポートに接続された USB ドライブ

ヒント ターミナル、USB ドライブ、または SD カードの Machine Edition ファイルの認識済みパスは、\Application Data\Rockwell Software\RSViewME\Runtime\ です。ターミナルでは、パスはデスクトップの My Device に含まれています。

3. 上 / 下カーソルキーを使ってリストから .mer ファイルを選択します。
4. Load を押して、選択したアプリケーションをロードします。

ターミナルの通信構成をアプリケーションの構成に置き換えるかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5. Yes または No を選択します。

Yes を選択すると、RSLinx Communications ダイアログボックスでデバイスアドレスまたはドライバのプロパティに対して行なわれた変更がすべて失われます。

現在ロードされているアプリケーションの名前が、メインの Configuration mode ダイアログボックスの上部に表示されます。

6. 構成モードのダイアログボックスの Run を押して、ロードされたアプリケーションを実行します。

ヒント アプリケーションによってログファイルが生成されます。アプリケーションを実行する前にログファイルを削除するには、構成モード・ダイアログ・ボックスの Delete Log Files Before Running を押します。ログファイルを削除すると、ターミナルメモリが解放されます。

ヒント 起動時またはターミナルのリセット時に自動的に実行されるようにアプリケーションを設定するには、[39 ページの「スタートアップアプリケーション」](#)を参照してください。

スタートアップ オプション

スタートアップ時またはリセット時のターミナルの動作を指定できます。

スタートアップオプション	実行される動作	標準システム
Do not start FactoryTalk View ME Station	起動時にWindows Explorerデスクトップを起動する。	オープン
Go to Configuration Mode	起動時にFactoryTalk View ME Stationの構成モードを起動する。これが工場出荷時の初期設定。	クローズド
Run Current Application	起動時に、ターミナルにロードされているFactoryTalk View MEアプリケーションを実行する。	クローズド

重要 デスクトップへのアクセスが制限されている場合、スタートアップオプションはRun Current Application または Go to Configuration Mode (デフォルト) に設定されなければなりません。デスクトップへのアクセスを有効または無効にする方法については、[42ページ](#)を参照してください。

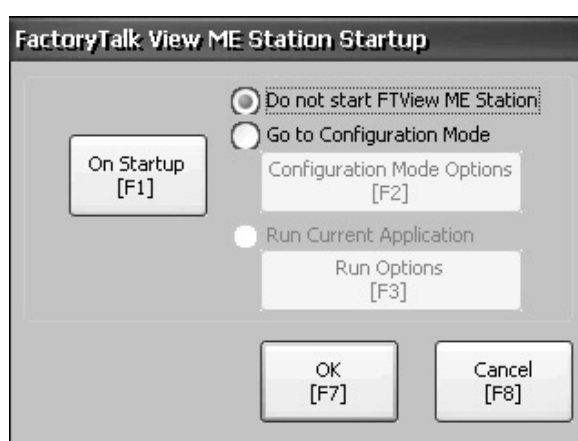
スタートアップ時の FactoryTalk View ME Station ソフトウェアの無効

拡張機能とファイルビューワ付きのターミナルは、通常は起動時にWindows デスクトップを起動するように構成されています。つまり、スタートアップ時の FactoryTalk View ME Station の起動を無効にする必要があります。

ヒント デスクトップは、Exit を押すことで、FactoryTalk View ME Station の構成モードから起動することもできます。

以下の手順に従って、スタートアップ時の FactoryTalk View ME Station を無効にし、デスクトップの起動を可能にしてください。

1. Terminal Settings → Startup Options の順に押します。



2. Do not start FactoryTalk View ME Station が選択されるまで、On Startup を押します。

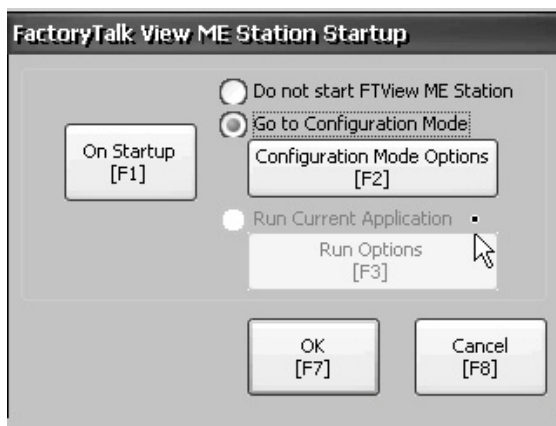
ヒント FactoryTalk View ME Station を無効にするときは、デスクトップへのアクセスを許可するように設定されている必要があります。そうでない場合は警告が表示されます。[42ページの「デスクトップへのアクセスの有効」](#)を参照してください。

3. OK を押します。

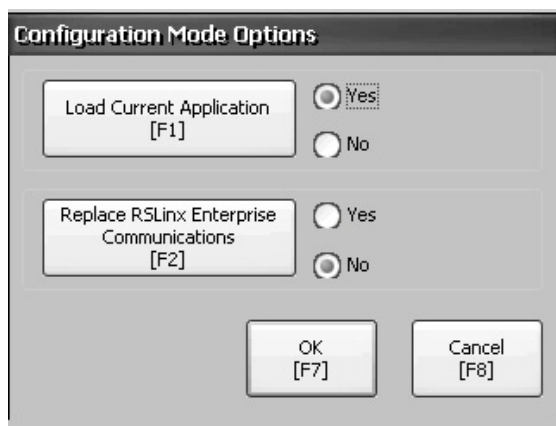
スタートアップ時の構成モードの実行

以下の手順に従って、スタートアップ時に FactoryTalk View ME Station の構成モードのダイアログボックスが自動的に起動するようにしてください。

1. Terminal Settings → Startup Options の順に押します。
2. On Startup を押して Go to Configuration Mode を選択します。



3. Configuration Mode Options を押します。

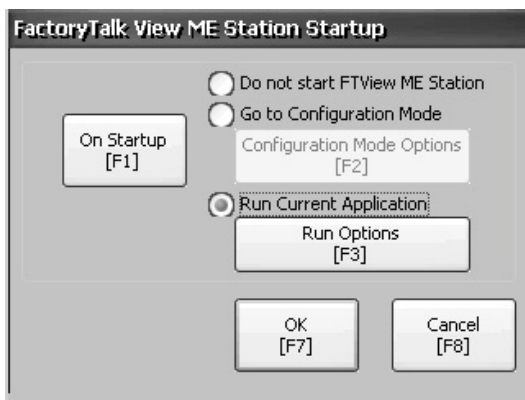


4. Load Current Application を押して、スタートアップ時に現在のアプリケーションをロードするかどうかを指定します。
5. Replace RSLinx Enterprise Communications を押して、スタートアップ時に現在のアプリケーションの通信構成を使用するか、ターミナルの通信構成を使用するかを指定します。
 - ターミナルの RSLinx 構成を使用する場合は No を選択します。
 - アプリケーションの構成を使用する場合は Yes を選択します。ターミナルの構成がアプリケーションの設定に置き換えられ、RSLinx 通信のデバイスアドレスまたはドライバのプロパティに対する変更はすべて失われます。
6. OK を押して直前のダイアログボックスに戻ります。
7. OK を押して Terminal Settings に戻ります。

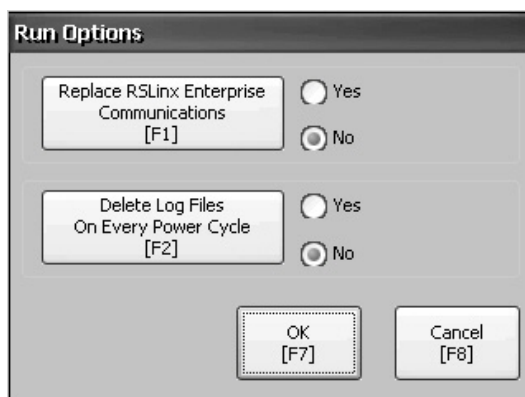
スタートアップ時のロード済みアプリケーションの実行

以下の手順に従って、スタートアップ時に現在ターミナルにロードされている FactoryTalk View .mer アプリケーションを実行してください。これは、クローズドシステム実行時の通常の動作です。

1. Terminal Settings → Startup Options の順に押します。



2. On Startup を押して Run Current Application を選択します。



アプリケーションがロードされていない場合、これらのオプションは無効になっています。

3. Replace RSLinx Enterprise Communications を押して、アプリケーションの実行時に使用する構成設定を指定します。
 - ターミナルの RSLinx 構成を使用する場合は No を選択します。
 - アプリケーションの構成を使用する場合は Yes を選択します。ターミナルの構成がアプリケーションの設定に置き換えられ、RSLinx 通信のデバイスアドレスまたはドライバのプロパティに対する変更はすべて失われます。
4. Delete Log Files On Every Power Cycle を押して、スタートアップ時のログファイルに対する処理を指定します。
 - アプリケーションを実行する前に、ターミナルで生成されたすべてのログファイル(データ、アラーム履歴、アラームステータス)を削除する場合は Yes を選択します。ファイルがシステムデフォルトの場所から削除されます。
 - すべてのログファイルを保持する場合は No を選択します。
5. OK を 2 回押して Terminal Settings に戻ります。

デスクトップへのアクセス

ターミナルで Windows デスクトップへのアクセスを許可または制限することができます。デスクトップでは、システムの操作やコントロールパネルの操作を実行したり、サードパーティのアプリケーションを実行したりできます。拡張機能を備えたターミナルでは、さらに、ビューワやメディアプレイヤーを実行したり、Web ブラウザを起動したりできます。また、特定のタスクを実行するために一時的にアクセスを許可した後で、許可されていない変更を防ぐためにデスクトップへのアクセスを無効にすることもできます。

通常、ターミナルでは、拡張機能が装備されていない限り、デスクトップへのアクセスは許可されません。

ヒント ターミナルはすべて、デスクトップへのアクセスが無効な状態で工場から出荷されます。

アクセスが制限されている場合は、最初にパスワードを入力する以外に、デスクトップへアクセスする方法はありません。工場出荷時に、ターミナルにはデフォルトのパスワードとユーザ確認のための質問が設定されていますので、変更することをお奨めします。

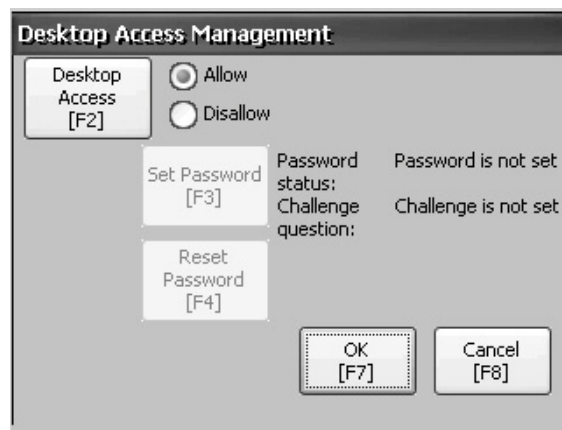
- デフォルトのパスワード = password(大文字と小文字を区別する)
- デフォルトのユーザ確認のための質問 = What is the opposite of lock?
- デフォルトのユーザ確認のための回答 = unlock(大文字と小文字を区別する)

デスクトップへのアクセスを許可するように設定されている場合は FactoryTalk View ME Station の構成モードで Exit を押してデスクトップにアクセスできます。

デスクトップへのアクセスの有効

以下の手順に従って、デスクトップへのアクセスを有効にしてください。

1. Terminal Settings → Desktop Access Setup の順に押します。
2. Desktop Access を押して、Allow を選択します。
Enter Password ダイアログボックスが開きます。
ヒント アクセスを Disallow(許可しない)から Allow(許可する)に変更するたびに、パスワードを入力するよう求められます。初期設定のパスワードは「password」です。
3. Password を押してパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。
4. もう一度 [Enter] キーを押して、Desktop Access Management に戻ります。



パスワードがクリアされていることに注意してください。

5. OK を押して Desktop Access Management を終了し、Close を押して Terminal Settings を終了します。
6. FactoryTalk View ME Station 構成モードで Exit を押して、デスクトップにアクセスします。
デスクトップへのアクセスを許可するように設定されている場合、パスワードの入力を求められることはありません。

デスクトップへのアクセスの無効

デスクトップへのアクセスを制限する場合は、FactoryTalk View ME Station のスタートアップオプションが以下のいずれかのオプションに設定されている必要があります。

- Go to Configuration Mode (デフォルト)
- Run Current Application

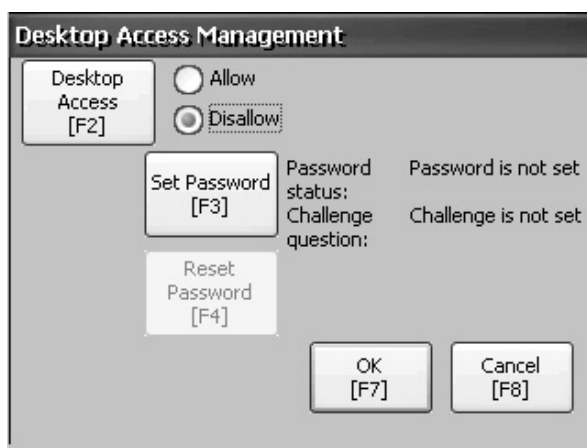
スタートアップオプションの変更方法については、[39 ページ](#)を参照してください。

また、以下の場合は、パスワードとユーザ確認のための質問を入力するよう求められます。

- Exit を押して FactoryTalk View ME Station の構成モードからデスクトップにアクセスするには、パスワードが必要とされます。
- Reset Password 機能によりパスワードを変更するには、ユーザ確認のための質問と回答が必要になります。

以下の手順に従って、デスクトップへのアクセスを無効にしてください。

1. Terminal Settings → Desktop Access Setup の順に押します。
2. Desktop Access を押して、Disallow を選択します。
Set Password ボタンが有効になります。



ヒント スタートアップオプションが Run Current Application または Go to Configuration Mode に設定されていなかった場合は、エラーが表示されます。

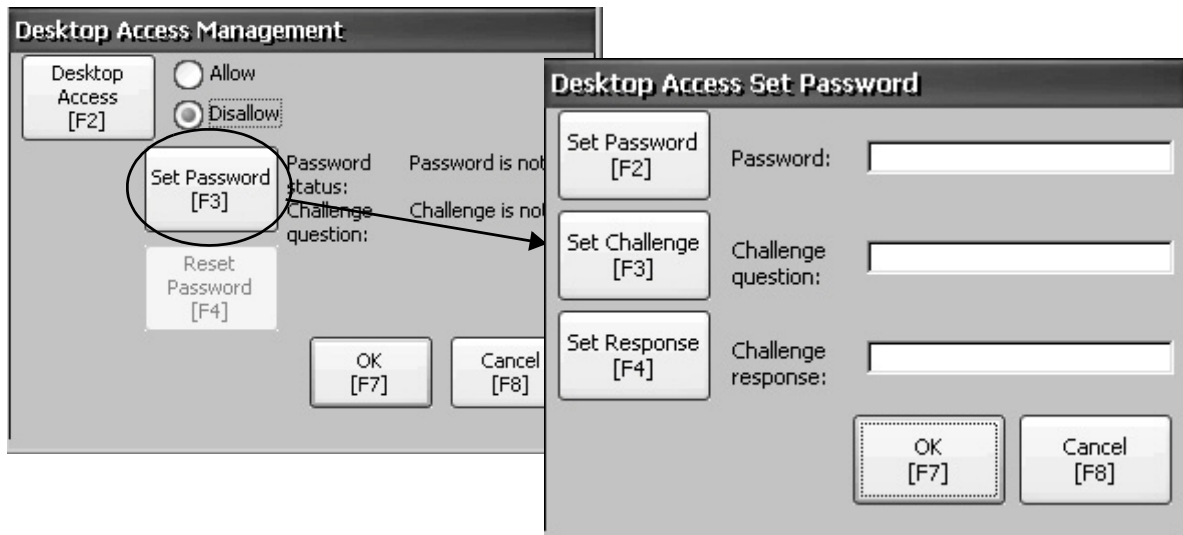
3. パスワードとユーザ確認のための質問を設定するには、[44 ページ](#)の「[デスクトップのパスワードの設定](#)」を参照してください。
デスクトップへのアクセスを無効にする場合はパスワードとユーザ確認のための質問を設定する必要があります。これを行なわないと、エラーメッセージが表示されます。

デスクトップのパスワードの設定

重要 デスクトップへのアクセスを許可しない、つまり、制限する場合は、パスワードとユーザ確認のための質問を設定するよう求められます。

以下の手順に従って、新しいパスワードを設定してください。

1. Desktop Access Management で Set Password を押します。



2. Set Password を押して、8 ～ 20 文字のパスワードを入力してから [Enter] キーを押します。

ヒント ユーザは、デスクトップにアクセスする前に、このパスワードを正確に入力する必要があります。

3. Set Challenge を押して質問を入力します。ユーザは、Reset Password ボタンを使ってパスワードを変更する前に、この質問に正しく回答する必要があります。
4. Set Response ボタンを押して、ユーザ確認のための質問に対する回答を入力してから [Enter] キーを押します。
5. OK を押します。

Desktop Access Management ダイアログボックスに、パスワードとユーザ確認のための質問が設定されたことが表示されます。

6. OK を押して Terminal Settings に戻ります。

重要 将来使うために、パスワードとユーザ確認のための質問を安全確実なものにしてください。パスワードをクリアして再設定するには、ユーザ確認のための質問に正しく回答する必要があります。回答を忘れた場合は、ターミナルを元の工場出荷時の初期設定に戻す以外に、パスワードをクリアする方法はありません。工場出荷時の初期設定に戻す方法については、[151 ページの「メンテナンス操作」](#)を参照してください。

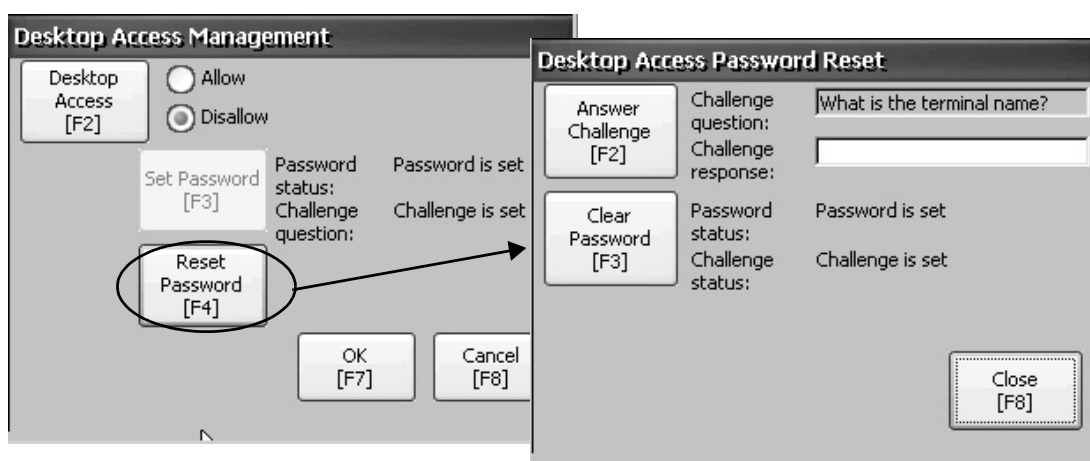
デスクトップのパスワードの再設定

現行のパスワードをクリアして新しいパスワードを再設定するには、最初に、現行のユーザ確認のための質問に正しく回答する必要があります。回答を覚えていない場合は、元の工場出荷時の初期設定にターミナルを戻す必要があります。詳細は、[151 ページの「メンテナンス操作」](#)を参照してください。

重要 デスクトップへのアクセスが制限されている、つまり、許可しないように設定されている場合は、パスワードとユーザ確認のための質問をクリアして再設定できます。

以下の手順に従って、デスクトップへのアクセス時のパスワードを再設定してください。

1. Desktop Access Management から、Reset Password を押します。



2. Answer Challenge を押して、現行のユーザ確認のための質問に対する正しい回答を入力します。
3. Clear Password を押して、現行のパスワードとユーザ確認のための質問をクリアします。

パスワードとユーザ確認のための質問のステータスが更新されます。

パスワードのステータス：パスワードは設定されていない
質問のステータス：質問は設定されていない

4. Close を押します。
5. [デスクトップのパスワードの設定の手順 \(44 ページ\)](#)に従って、新しいパスワードとユーザ確認のための質問を設定します。
パスワードを消去した後は、新しいデスクトップパスワードを設定するか、許可するデスクトップへのアクセスを変更する必要があります。

通信の設定

RSLinx Enterprise ソフトウェアを使用して、アプリケーションやコントローラに関する以下の通信設定を構成します。

- KEPServer シリアルポート ID にアクセスする。
- ご使用の .mer アプリケーションで使用されているプロトコル用のドライバ設定を編集します。
- ネットワーク上のコントローラのデバイスアドレスを編集します。

KEPServer シリアルポート ID の構成

KEPServer シリアル通信にアクセスするには、ターミナルに KEPServer Enterprise がインストールされていることが必要です。

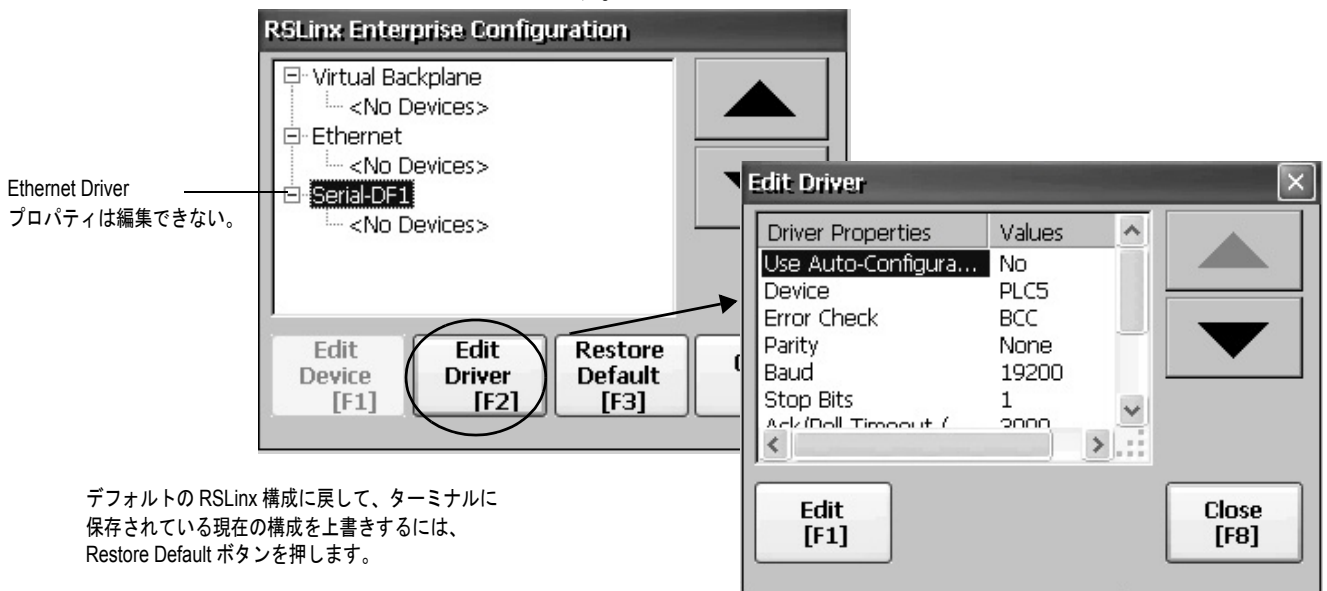
KEPServer Serial Port ID ダイアログボックスにアクセスするには、Terminal Settings → Networks を押してから Communications → KEPServer Serial Port IDs の順に押します。KEPServer Enterprise がインストールされていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

RSLinx 通信プロパティの構成

以下の手順に従って、ご使用のアプリケーションで使用されている通信プロトコル用のドライバ設定を構成してください。

1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → RSLinx Enterprise Communications の順に押します。

取付けられているカードおよびネットワーク構成がツリー表示されます。



2. ターミナルに取付けられている通信カードを選択します。
3. Edit Driver を押して、現在のドライバのプロパティを表示します。
4. 変更するプロパティを選択して、Edit を押します。
5. 設定を変更したら、[Enter] キーを押します。

直前のダイアログボックスに戻り、新たに入力されたデータが表示されます。

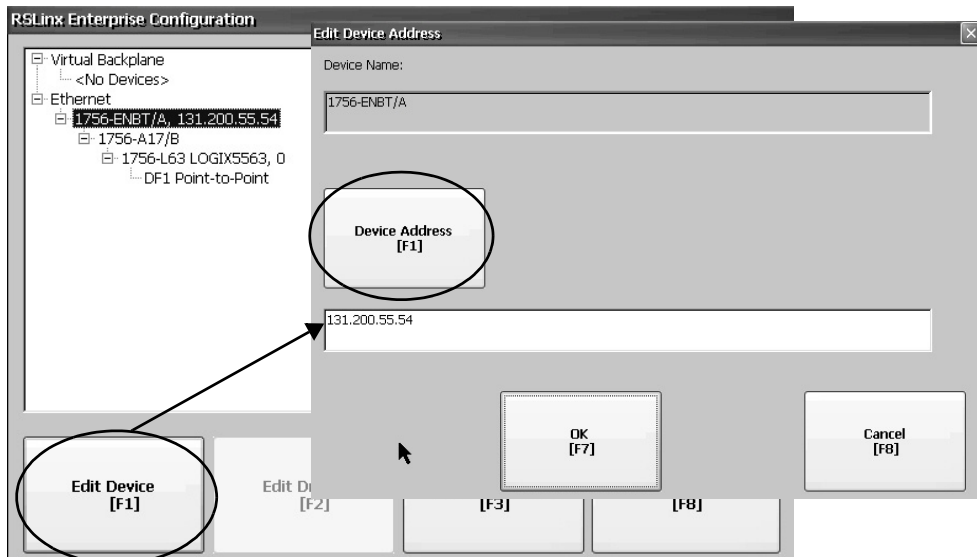
表 23 – 通信ドライバのプロパティ

フィールド	説明	有効な値
Serialプロパティ		
Use Auto Config	自動または手動で、通信速度、パリティ、およびエラーチェックの各パラメータを構成する。	Yes (自動構成) No (手動構成)
Device	ターミナルの接続先のシリアルデバイス	PLC-5 [®] 、SLC [™] 、MicroLogix [™] 、Logix Platform
Error Check	使用されるエラーチェックのタイプ。Use Auto ConfigがYesに設定されている場合、エラーチェックは自動的に構成される。	BCC、CRC
Parity	使用されるパリティのタイプ。Use Auto ConfigがYesに設定されている場合、パリティは自動的に構成される。	None、Odd、Even
Baud Rate	シリアルドライバの通信データレート。Use Auto ConfigがYesに設定されている場合、通信速度は自動的に構成される。	110、300、600、1200、4800、9600、19200、38400、57600、115200
Stop Bits	使用される停止ビットの数	1または2
Ack/Poll Timeout	Ack/Poll(確認/ポーリング)タイムアウト値(単位: msec)	20~60,000msec
Max Retries	シリアルドライバが機能しなくなるまでの試行回数	0~10
Station Number	個々のデバイスに基づくステーション番号	0~254
COM Port	ターミナルで使用される通信ポート	1~4
DH-485プロパティ		
Jumper ID	複数の通信カードがターミナルに取付けられている場合にカードを識別する。	0~3
Station Number	DH-485ネットワーク上におけるターミナル固有のステーション番号	0~31 (10進数)
Baud Rate	DH-485ネットワークの通信速度	9600 19200
MaxStationNumber	DH-485ネットワーク上の最大ステーション番号。この値はStation Number以上でなければならない。	0~31 (10進数)

デバイスアドレスの構成

以下の手順に従って、ロジックコントローラなどのデバイスのアドレスを編集してください。

1. RSLinx Configuration ダイアログボックスで、デバイスノードを選択します。
2. Edit Device を押して、デバイス名と現アドレスを表示します。



3. アドレスを変更するために Device Address を押します。
現アドレスが表示された入力パネルが開きます。
4. 入力パネルを使って、アドレスを変更したら、[Enter] キーを押します。
直前のダイアログボックスに戻り、新しいデータが表示されます。
5. OK を押します。

重要 変更後の設定は、ターミナルが再起動されるまで有効にはなりません。

イーサネットネットワーク接続

ターミナルにはイーサネットドライバが組み込まれています。ターミナル用に以下のイーサネット情報を構成できます。

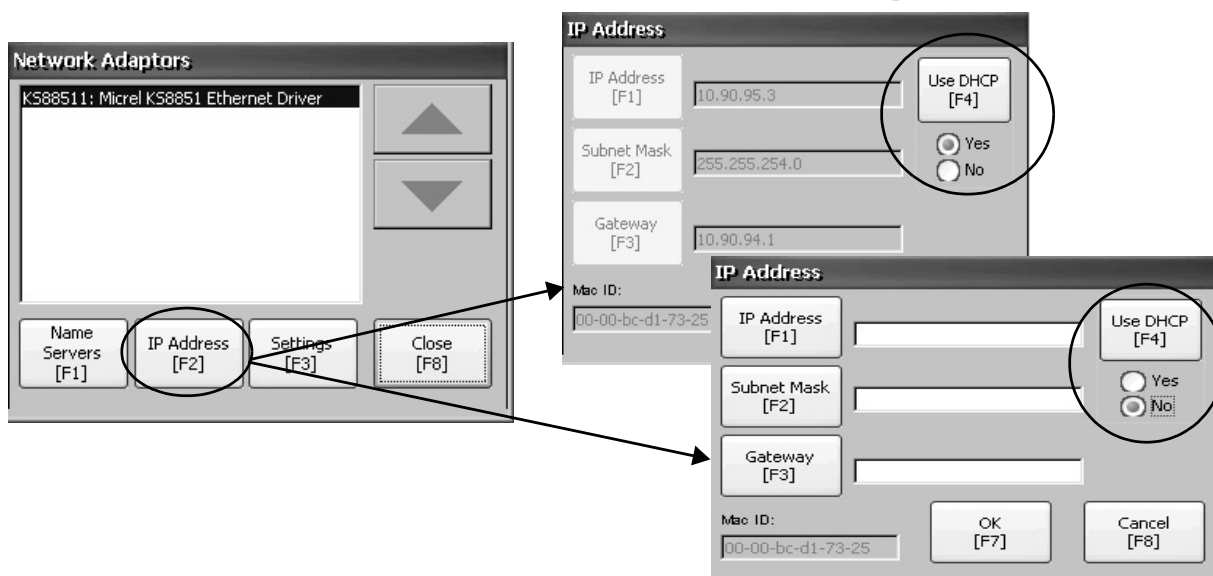
- ネットワーク上のターミナルの IP アドレス (リンク速度を含む)
- ネットワーク上でのターミナルを識別するデバイス名
- ネットワークリソースにアクセスするためのユーザ名とパスワード

ターミナルのイーサネット IP アドレスの設定

一部のネットワークでは、DHCP が有効になっている場合に IP アドレスが自動的にイーサネットデバイスに割付けられます。DHCP が有効でない場合は、IP アドレスを手動入力できます。

以下の手順に従って、ターミナルの IP アドレスを表示するか、入力してください。

1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → Network Connections → Network Adapters の順に押します。



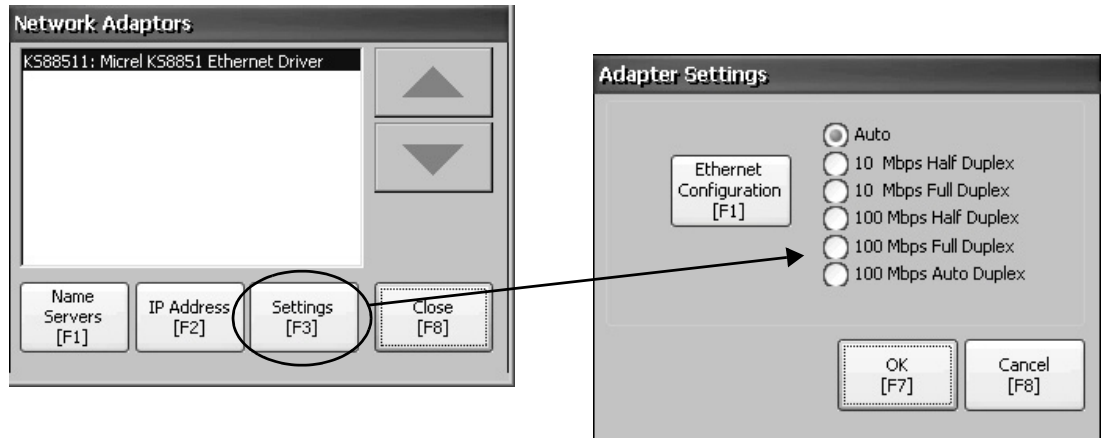
2. IP Address を押して IP アドレスを表示または変更します。
3. Use DHCP を押してアドレスの DHCP 割付けを有効または無効にします。
 - DHCP が有効になっている、つまり、Yes に設定されている場合は、IP アドレスが自動的に割付けられます。
 - DHCP が無効になっている場合は、IP アドレスを手動入力できます。IP address、Subnet Mask、および Gateway を押して IP 形式のアドレスを入力します。
4. 完了したら OK を押します。
デバイスをリセットするよう求めるメッセージが表示された場合は、FactoryTalk View ME Station 構成モード・ダイアログ・ボックスでデバイスをリセットします。
5. Close を押します。

フィールド	説明	有効な値
Use DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) 設定を有効または無効にする。DHCPは、ネットワーク上で新規に接続されたデバイスに対して、ネットワークデバイスおよび構成を自動的に割付ける。 <ul style="list-style-type: none"> • DHCP が Yes に設定された場合、ターミナルには、自動的に IP address、Subnet Mask、および Gateway が割付けられ、これらのフィールドは無効な状態になる。 • DHCP が No に設定された場合は、IP address、Subnet Mask、および Gateway アドレスをユーザが入力できる。 	Yes (デフォルト) No
IP Address	イーサネットネットワーク上でターミナルを識別する固有のアドレス	xxx.xxx.xxx.xxx 000.000.000.000 (デフォルト) <ul style="list-style-type: none"> • 最初の 10 進数のセットにおける値の範囲は 1 ~ 255 (すべてのフィールドが 000 に設定される場合を除く) • 最後の 3 つの 10 進数のセットにおける値の範囲は 0 ~ 255
Subnet Mask	アドレスはサーバのサブネットマスクと同一でなければならない。	xxx.xxx.xxx.xxx
Gateway	オプションのゲートウェイアドレス	xxx.xxx.xxx.xxx
Mac ID	読み取り専用フィールド	-

イーサネットリンク速度の設定

イーサネットリンクの速度と二重性の設定を設定できます。

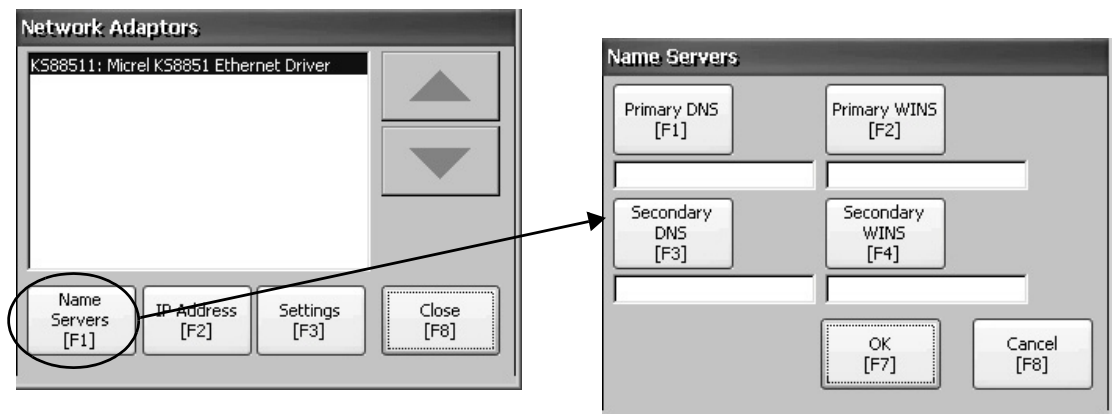
1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → Network Connections → Network Adaptors の順に押します。



2. Settings を押して、イーサネットリンク設定を表示または変更します。
3. Ethernet Configuration を押して、イーサネット接続用のイーサネット・リンク・オプションを選択します。
Auto オプションを選択すると、ネットワークへのターミナルの接続に基づきリンクオプションと速度が自動的に検知されます。

ネーム・サーバ・アドレスの定義

EtherNet/IP ネットワーク・アダプタに対してネーム・サーバ・アドレスを定義できます。DHCP がそのアダプタに対して有効になっている場合、これらのアドレスは自動的に割当てられます。



以下の手順に従って、ネーム・サーバ・アドレスを定義してください。

1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → Network Connections → Network Adapters の順に押します。
2. Name Servers を押します。
3. 次のフィールドを押して、ネーム・サーバ・アドレスを入力します。

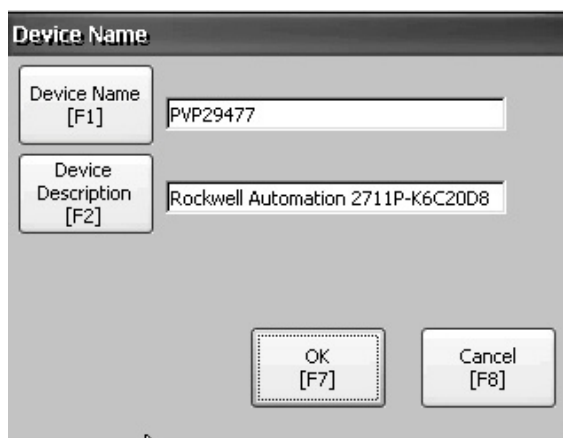
フィールド	説明	有効な値
Primary DNS	プライマリDNSレゾルバのアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
Secondary DNS	セカンダリDNSレゾルバのアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
Primary WINS	プライマリWINSレゾルバのアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
Secondary WINS	セカンダリWINSレゾルバのアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX

4. 完了したら OK を押します。

ターミナルのデバイス名の表示または変更

ターミナルごとに、ネットワーク上でそのターミナルを識別するために使用されるデフォルトのデバイス名と説明が用意されています。この情報を表示または変更することができます。

1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → Network Connections → Device Name の順に押します。



2. Device Name を押してデバイス名を入力または編集します。
3. Device Description を押してデバイスの説明を入力します。

フィールド	説明	有効な値
Device Name ⁽¹⁾	ネットワーク上の他のコンピュータに対してターミナルを識別する固有の名前	1~15文字 <ul style="list-style-type: none"> • 先頭の文字には a~z または A~Z を使用する。 • その他の文字には a~z、A~Z、0~9、または -(ハイフン) を使用する。
Device Description	ターミナルの説明を指定する。デフォルト値はロジックモジュールのカタログ番号	最大50文字

(1) ネットワーク管理者に問い合わせ有効なデバイス名を確認してください。

4. OK を押します。

ネットワークリソースにアクセスする際のターミナルの認証

ターミナルは、適正な識別情報によってネットワークリソースにアクセスできます。ユーザ名、パスワード、およびドメインがネットワーク管理者によって提供される必要があります。

1. Terminal Settings → Network を押してから、Communications → Network Connections → Network Identification の順に押します。

2. User Name、Password、および Domain を押して、ネットワーク管理者によって提供された情報を入力します。

フィールド	説明	有効な値
User Name	ネットワークに対してユーザを識別する。	最大70文字
Password	ユーザ名と併用することでネットワークへのアクセスを可能にする一連の文字	文字に関する制限なし
Domain Name	ネットワーク管理者によって提供される。	最大15文字

3. 完了したら OK を押します。

ファイル管理

ターミナルは、ターミナル上に格納されたファイルを管理するための操作をサポートしています。

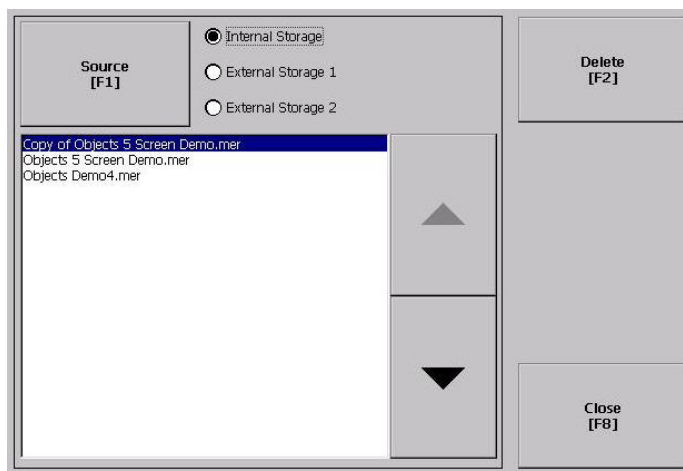
- アプリケーションの .mer ファイル、フォントファイル、または生成されたログファイルの削除
- 格納場所間でのアプリケーションファイルまたはフォントファイルのコピー

アプリケーションファイルまたはフォントファイルの削除

ターミナルの不揮発性メモリ、装着された USB ドライブ、または装着された SD カードに存在する FactoryTalk View ME Station の .mer ファイルまたはフォントファイルを削除することができます。アプリケーションファイルとフォントファイルの削除手順は同じです。

1. Terminal Settings → File Management → Delete Files → Delete Applications または Delete Fonts の順に押します。

2. Source を押して、削除するアプリケーションまたはフォントファイルの格納場所を選択します。
 - Internal Storage - ターミナルの不揮発性メモリ
 - External Storage 1 - ターミナルのカードスロットに装着された SD カード
 - External Storage 2 - USB ホストポートに接続された USB ドライブ



3. リストからファイルを選択します。
4. Delete を押します。
5. 選択したアプリケーションまたはフォントファイルを格納場所から削除するかどうかを確認するメッセージが表示されたら Yes または No を選択します。

ログファイルの削除

生成されたログファイル、アラーム履歴ファイル、およびアラーム・ステータス・ファイルをターミナルのシステムデフォルトの場所から削除できます。

1. Terminal Settings → File Management → Delete Files → Delete Log Files の順に押します。

以下に示すように、ファイルを削除することを確認するメッセージが表示されます。

Do you want to delete all of the FactoryTalk View ME Station Log Files?(FactoryTalk View ME Station ログファイルをすべて削除しますか?)

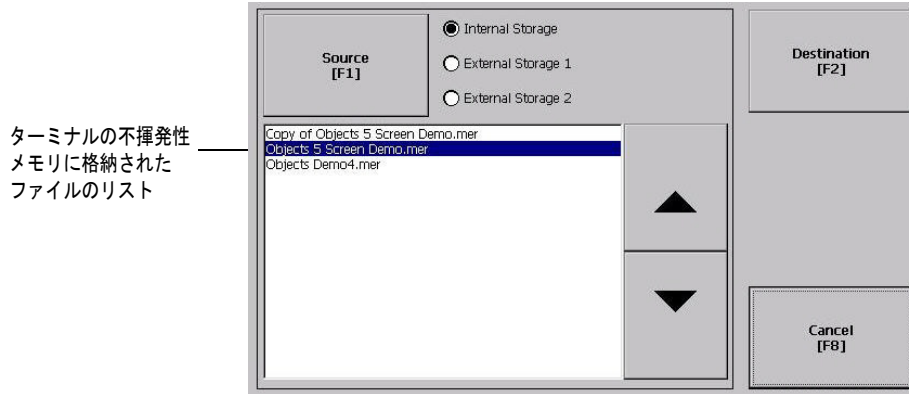
2. Yes または No を選択します。

システムデフォルトの場所がないログファイルは削除されません。

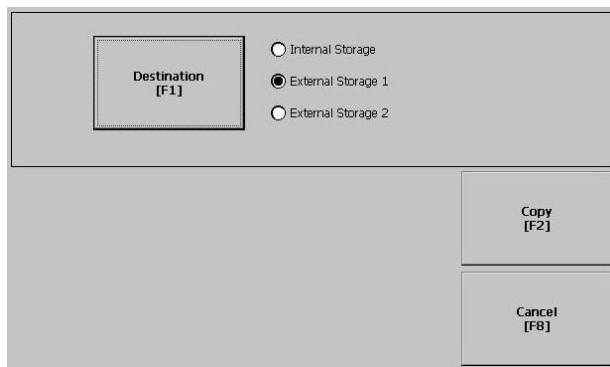
アプリケーションファイルまたはフォントファイルのコピー

FactoryTalk View ME Station アプリケーションの .mer ファイルまたはフォントファイルをターミナルの格納場所間でコピーできます。格納場所間でのアプリケーションファイルのコピー手順とフォントファイルのコピー手順は同じです。

1. Terminal Settings → File Management → Copy Files → Copy Applications または Copy Fonts の順に押します。



2. Source を押して、コピーするファイルの場所を選択します。
 - Internal Storage - ターミナルの不揮発性メモリ
 - External Storage 1 - ターミナルのカードスロットに装着された SD カード
 - External Storage 2 - USB ホストポートに接続された USB ドライブ
3. 格納場所からファイルを選択します。
4. 同じダイアログボックスの Destination を押します。



5. Destination を押して、ファイルをコピーする場所を選択します。コピー先はコピー元の場所と違っていなければなりません。
6. Copy を押して、選択したファイルをコピー先にコピーします。そのファイルがすでに存在する場合は、そのファイルを上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。
7. Yes または No を選択します。

ヒント FactoryTalk View ME Station ソフトウェアは、My Device\Application Data\Rockwell Software\RSViewME\Runtime\ フォルダ内にある .mer ファイルと \Rockwell Software\RSViewME\Fonts\ フォルダ内にあるフォントファイルを探します。

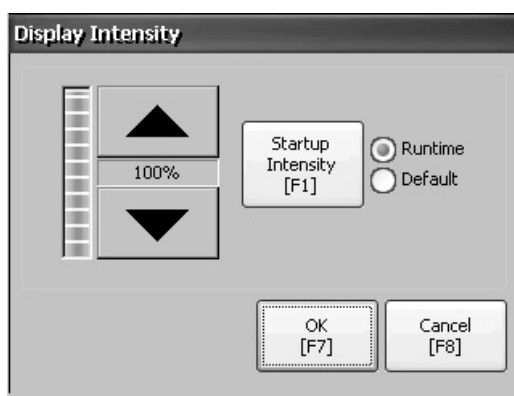
ディスプレイ設定

ターミナルディスプレイについては、輝度の調節、温度の表示、スクリーンセーバの構成、または画面上のカーソルを有効/無効にすることができます。

ディスプレイの輝度の調節

ターミナルのバックライトの輝度を変更できます。デフォルトの輝度である 100% を使用するか、実行時の操作用に輝度を変更できます。

1. Terminal Settings → Display → Display Intensity の順に押します。

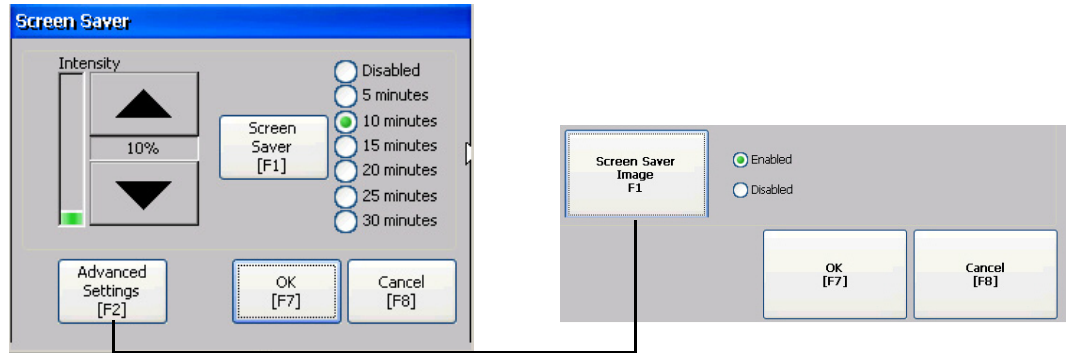


2. Startup Intensity を押して、輝度を Default と Runtime の間で切替えます。
 - Runtime を選択すると、スタートアップ画面では実行時の輝度を使用されます。
 - Default を選択すると、スタートアップ画面ではデフォルト設定である 100% が使用されます。
3. 上/下矢印キーを押して、実行時の操作用の輝度を増減します。
4. 完了したら OK を押して、輝度の変更を保存します。

スクリーンセーバの構成

ターミナルでは、一定の輝度においてアイドル期間が経過すると、スクリーンセーバがアクティブになります。アイドルタイムアウトのデフォルト値は10分です。スクリーンセーバのアイドルタイムアウトと輝度レベルを調節したり、スクリーンセーバを無効にしたり、スクリーンセーバのビットマップを有効/無効にすることができます。

1. Terminal Settings → Display → Screen Saver の順に押します。

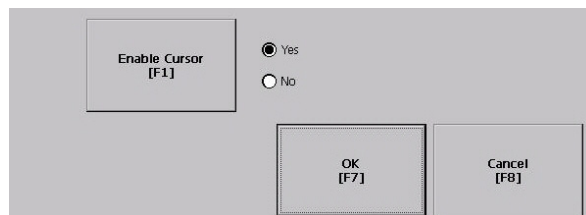


2. Screen Saver を押して、スクリーンセーバをアクティブにするためのアイドルタイムアウトを選択します。
スクリーンセーバを無効にする場合は、Disabled オプションを選択します。
3. 上/下カーソルボタンを押して、スクリーンセーバの輝度を増減します。
4. Advanced Settings を押して、ビットマップオプションにアクセスします。
 - a. Screen Saver Image を押して、スクリーンセーバのビットマップを有効または無効にします。ビットマップの設定方法については、[85 ページの「スクリーンセーバ」](#)を参照してください。
 - b. OK を押して直前のダイアログボックスに戻ります。
5. OK を押して終了し、Terminal Settings に戻ります。

画面上のカーソルの有効 / 無効

ターミナルでは、画面上のカーソルを有効または無効にすることができます。

1. Terminal Settings → Display → Cursor の順に押します。



2. Enable Cursor を押して、カーソルを有効または無効にします。
3. OK を押して終了し、Terminal Settings に戻ります。

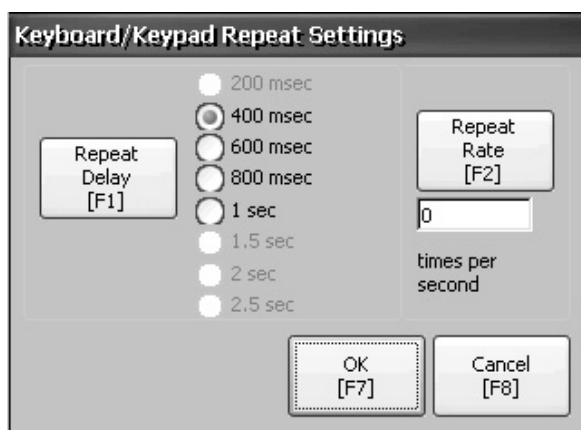
入力機器の設定

キーボード、接続されたキーボード、マウス、タッチスクリーン、文字列入力のポップアップなど、ターミナルで使用される入力機器の設定を調整できます。

キーボードまたはキーパッド設定の構成

接続されたキーボードまたはターミナルのキーパッド上のキーに関する設定を調整できます。

1. Terminal Settings → Input Devices → Keyboard/Keypad の順に押します。



2. Repeat Rate を押して、1つのキーを押し続けたときにキーが再入力される回数(1秒あたり)を指定します。
キーパッドの場合、有効な値は0および2～30です。キーボードの場合は装置に依存しますが、標準値は同じです。
3. Repeat Delay を押して、キーが再入力されるまでの待ち時間(1秒あたり)を選択します。
値はデバイスによって異なります。サポートされていない値は淡色表示されます。
4. 完了したら OK を押します。

マウスの感度の設定

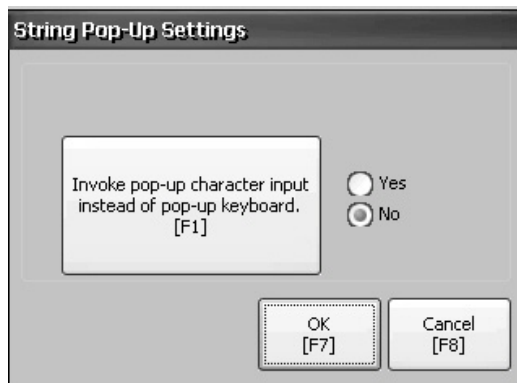
マウスをダブルクリックする間の速度と物理的距離の両方について感度を設定およびテストすることができます。このプロセスはタッチスクリーンのダブルタップの感度を設定する場合と同じです。[59 ページ](#)を参照してください。

マウスの感度を設定するには、Terminal Settings → Input Devices → Mouse の順に押します。

文字列入力用のポップアップの変更

データ入力用の標準の入力パネルを使用するか、文字列のポップアップを使用するかを指定できます。デフォルトは、ポップアップ形式キーボードです。

1. Terminal Settings → Input Devices → String Popup の順に押します。



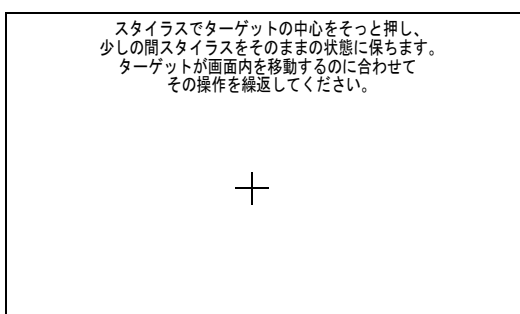
2. Invoke pop-up character input instead of popup keyboard を押して、文字列入力で優先される入力方式を選択します。
3. OK を押します。

タッチスクリーンのキャリブレーション

以下の手順に従って、タッチスクリーンをキャリブレーションしてください。

重要 タッチスクリーンが損傷することがないように、最小先端半径が 1.3mm (0.051 インチ) のプラスチック製スタイラスデバイスを使用してください。

1. Terminal Settings → Input Devices → Touch Screen → Calibration の順に押します。



2. 画面上の手順に従います。

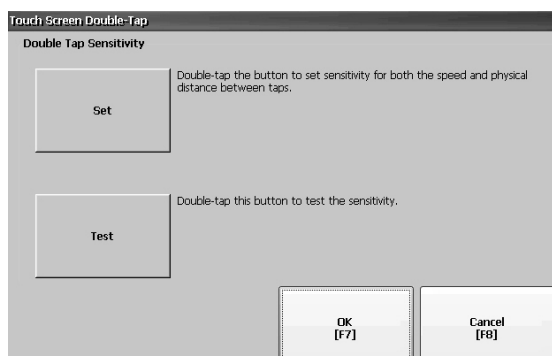
キャリブレーションが完了すると、新規のキャリブレーション設定が計測されたことを示すメッセージが表示されます。

タッチスクリーン付きターミナル	<ul style="list-style-type: none"> • 保存されたデータを登録するには画面を押す。 • 保存されたデータをキャンセルし現行の設定を保持するには 30 秒間待つ。
キーパッドとタッチスクリーンがあるターミナル	<ul style="list-style-type: none"> • 新しい設定を受入れるには [Enter] キーを押す。 • 古い設定を保持するには [Esc] キーを押す。

タッチスクリーンのダブルタップの感度の設定

タッチスクリーンをダブルタップする間の速度と物理的距離の両方について感度を設定およびテストすることができます。このプロセスはマウスのダブルクリックの感度を設定する場合と同じです。

1. Terminal Settings → Input Devices → Touch Screen → Double Tap Sensitivity の順に押します。



2. Set をダブルタップして、タッチスクリーンのタップの感度を設定します。
3. Test をダブルタップして、タッチスクリーンのタップの感度をテストします。
Test ボタンをダブルタップすると、Test ボタンの文字表示色と背景色が反転します。
4. 完了したら OK を押します。

印刷オプションの構成

ディスプレイ、アラームメッセージ、または FactoryTalk View ME Station アプリケーションからの診断メッセージを印刷するための設定を構成できます。ディスプレイとメッセージの印刷設定は同じですが、詳細設定は異なります。

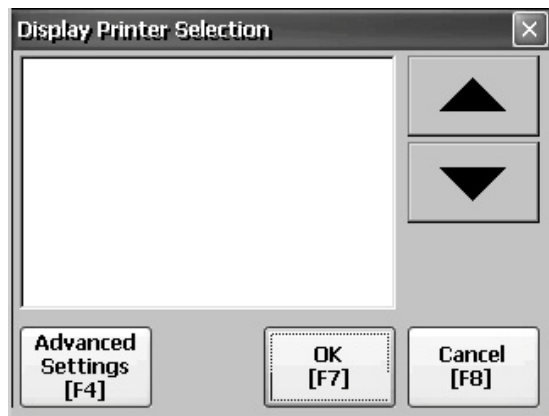
PanelView Plus 6 Compact ターミナルは、出荷時点で、キヤノン社、エプソン社、ヒューレット・パッカード社、およびブラザー社のプリンタから成る幅広い製品の選択肢に対応しています。プリンタのインストールの際は、既知のプリンタが適切なドライバに自動的にマッピングされるまで USB プラグ & プレイ機能が試されます。この印刷ソリューションでは、アプリケーションおよびユーザが、プリンタの基本的な詳細情報を認識することなくプリンタを選択・管理・共有することができます。自動的に適切なドライバに対応するように構成されないプリンタは手動でインストールできます。

以下の手順に従って、印刷設定にアクセスしてください。

1. Terminal Settings → Print Setup を順に押してから、以下のオプションを選択します。
 - Alarm Print Setup
 - Diagnostic Setup
 - Display Print Setup

Print Setup では、FactoryTalk View Machine Edition アプリケーションで利用可能なインストール済みのプリンタが表示されます。

出荷時にターミナルにはプリンタが事前に構成されていないため、最初はダイアログボックスに何も表示されません。このダイアログボックスの外観は、インストールするプリンタによって異なります。



2. インストール済みのプリンタを選択します。

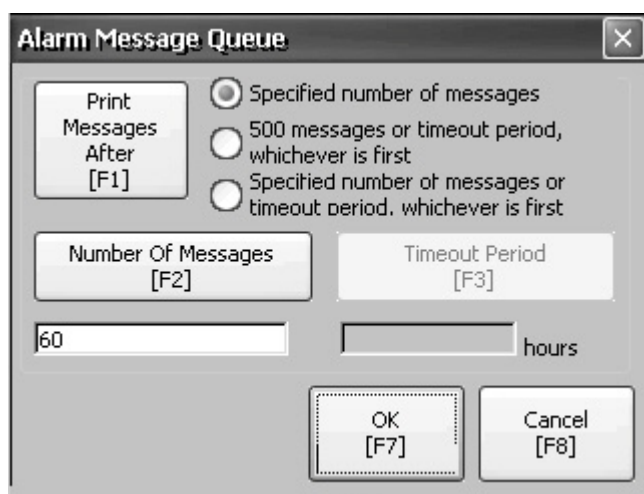
ヒント 選択するプリンタが、コントロールパネルの Printers に含まれている必要があります。

サポートされているプリンタのリストについては、ナレッジベース (<http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase>) にアクセスして ID 111636 を検索してください。

プリンタの自動インストール試行の失敗は、システム・イベント・ログに報告されます。

自動的にインストールされないプリンタは、Windows Explorer のコントロールパネルを使用して手動でインストールできます。

3. **Advanced** を押して、追加の設定にアクセスします。
- ディスプレイの印刷の詳細設定は以下の通りです。
 - Print orientation (portrait または landscape)
 - Draft mode (enable または disable)
 - Color (yes または no)
 - 診断メッセージとアラームメッセージの印刷の詳細設定では、ネットワークまたは USB ポートに送られたメッセージをいつ印刷するかを決定します。



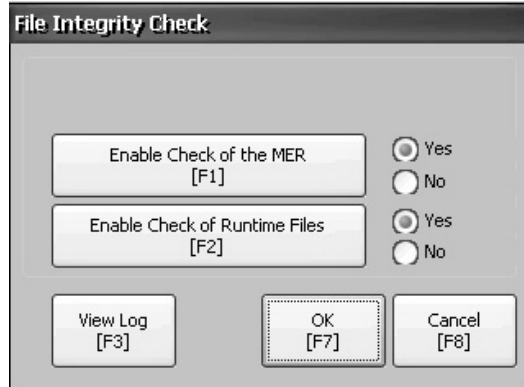
Print Messages After	デフォルト値	例
Specified number of messages	60件のメッセージ	キューに60件のメッセージが入っている場合、それらのメッセージは、キュー内に格納されていた時間に関わらず印刷される。 このメッセージ件数は変更できる。
500 messages or timeout period, whichever is first	168時間(7日)	168時間経過後にキューに350件のメッセージが入っている場合は、それらの350件のメッセージが印刷される。 このタイムアウト期間は変更できる。
Specified number of messages or timeout period, whichever is first.	60件のメッセージ 168時間(7日)	24時間経過後にキューに60件のメッセージが入っている場合は、それらの60件のメッセージが印刷される。 このメッセージ件数とタイムアウト期間は変更できる。 例えば、メッセージの件数が75に、タイムアウト期間が48時間に設定されているとする。 <ul style="list-style-type: none"> • 24時間経過後にキューに75件のメッセージが入っている場合は、設定された48時間のタイムアウト以前にそれらの75件のメッセージが印刷される。 • 48時間経過後にキューに15件のメッセージが入っている場合は、設定されたそのタイムアウト期間後にそれらの15件のメッセージが印刷される。

4. 完了したら **OK** を押します。
5. **OK** を押して **Terminal Settings** に戻ります。

アプリケーションファイルの整合性チェック

ターミナルにロードされている FactoryTalk View ME Station アプリケーションファイルとランタイムファイルの整合性チェックを定期的に行なうことをお奨めします。これらのファイルで生成されたエラー、警告、および情報メッセージはすべて、1つのファイルに記録されます。このログを定期的に表示して、すべての項目をログから消去することができます。

1. Terminal Settings → File Integrity Check の順に押します。



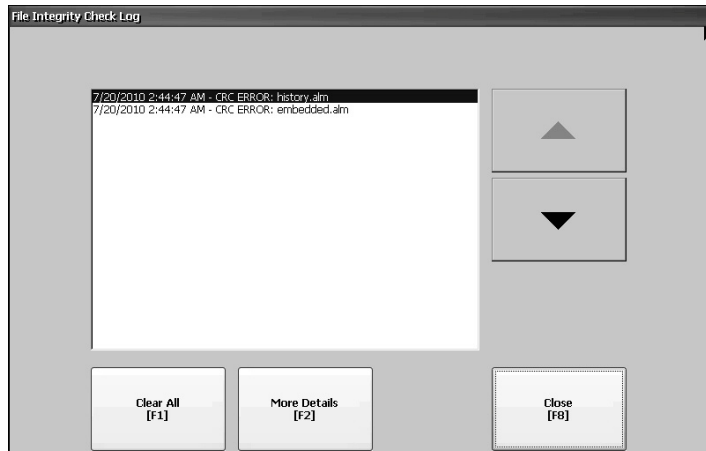
2. 以下のいずれかの Enable オプションを押して、ファイルの整合性チェックを有効または無効にします。
 - Enable Check of the MER
 - Enable Check of the Runtime Files

デフォルトで、アプリケーションの .mer ファイルとランタイムファイルに対して整合性チェックが自動的に実行されます。上記のいずれかの機能を無効にした場合は、それらのファイルに対してチェックは行なわれず、ログファイルも更新されません。

3. OK を押して変更を保存します。

以下の手順に従って、ファイルの整合性チェックログを表示してください。

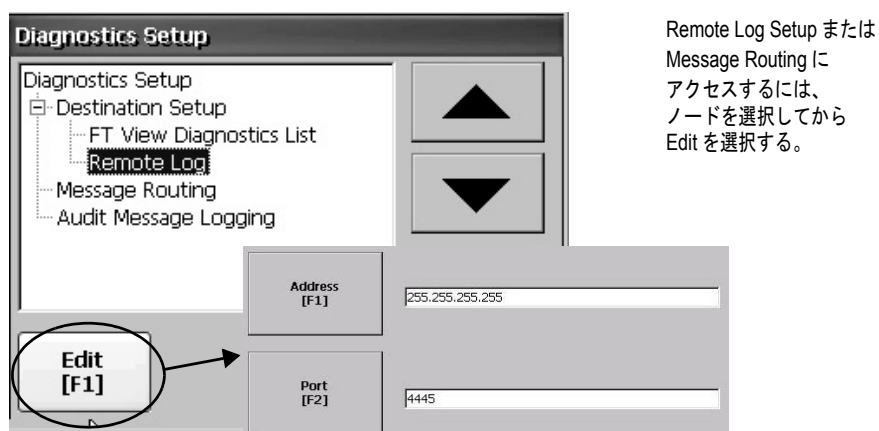
1. File Integrity Check ダイアログボックスの View Log を押します。



2. イベントを選択し、More Details を押して、特定のファイル・チェック・イベントの詳細を表示します。
3. Clear All を押して、ログからすべての詳細情報を消去します。
4. Close を押して直前のダイアログボックスに戻ります。

診断の構成

ターゲットコンピュータについて診断を構成できます。診断にアクセスするには、構成モード・ダイアログ・ボックスの Terminal Settings → Diagnostic Setup を押します。診断ノードがツリー表示されます。



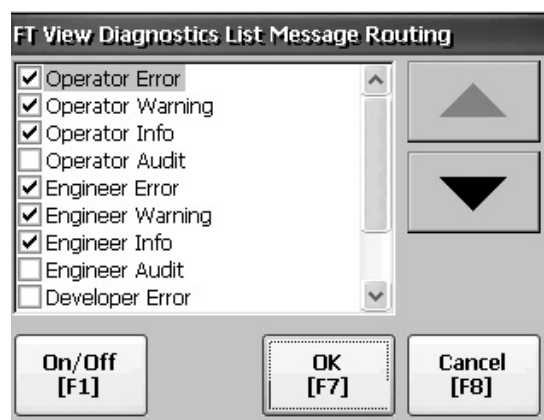
Remote Log Destination では、受信したメッセージを、診断を実行中の Windows コンピュータへ転送します。転送先の場所は IP アドレスとポート番号によって決まります。

フィールド	説明	有効な値
Address	リモート Windows コンピュータのアドレス	xxx.xxx.xxx.xxx
Port	リモート Windows コンピュータとの通信に使用されるポート	4445 (デフォルト)

Message Routing ダイアログボックスでは、以下のダイアログボックスにアクセスできます。

- Remote Log
- FactoryTalk View Diagnostics List

それぞれのダイアログボックスには、当該転送先に送信可能なメッセージのリストが表示されます。このリストには各メッセージタイプのステータスが表示されます。On/Off を押すと、メッセージタイプをオン/オフにすることができます。チェックボックスをチェックしているメッセージタイプは有効になっています。

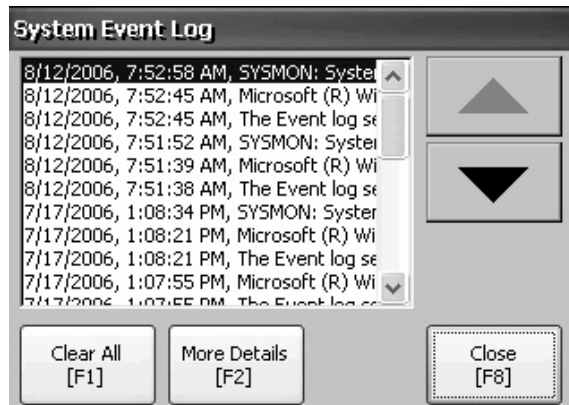


Audit Message Logging ダイアログボックスで Edit を押すと、メッセージを Audit または Information としてログに記録することができます。

システム・イベント・ログの表示と消去

System Event Log ダイアログボックスには、ターミナルでログに記録された警告、エラー、およびイベントが表示されます。このログは、各イベントの発生日時を示すタイムスタンプとイベントについての説明テキストを提供します。新たにイベントが発生したときにイベントログが満杯の場合は、その新規イベント用のスペースを確保するために最も古いエントリ項目が削除されます。

1. Terminal Settings → System Event Log の順に押します。



2. イベントを選択し、More Details を押して、そのイベントのログ詳細を表示します。
3. Clear All を押して、ログからすべてのイベントを消去します。
4. Close を押します。

システム情報

ターミナル情報と、ターミナルにインストールされているソフトウェアのファームウェアリビジョン情報を表示できます。これらの情報はトラブルシューティングを行なうときに役立ちます。

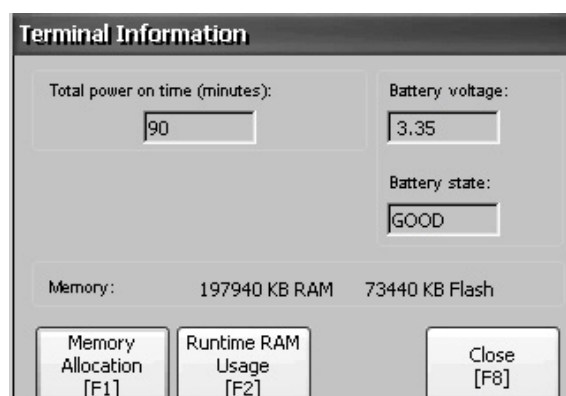
ターミナル情報の表示

ターミナルについて、以下の読取り専用情報が提供されます。

- 総稼働時間 (分)
- バッテリ電圧およびバッテリーの状態
- ターミナルに割当てられ使用されたメモリ
- 実行時に使用された RAM メモリ

以下の手順に従って、ターミナル情報を表示してください。

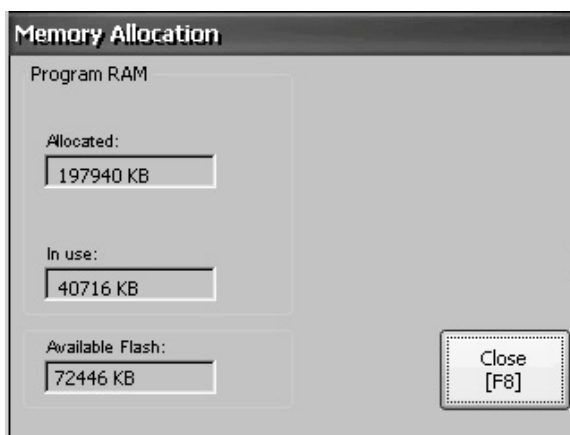
1. Terminal Settings → System Information → Terminal Information の順に押します。



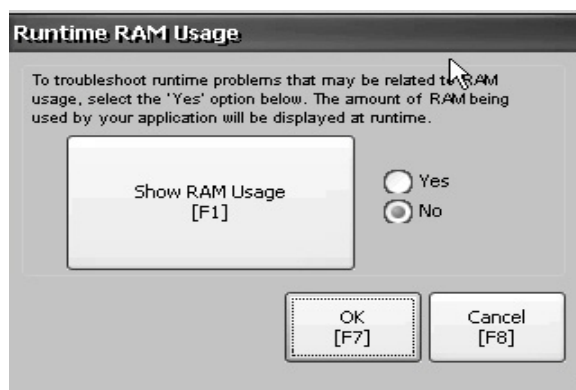
- CPU 温度は 95°C(203°F) 未満でなければならない。
- バッテリ電圧は DC2.75V 以上でなければならない。

バッテリーの状態	説明
Good	適正なバッテリーの状態
Failing	バッテリーの電圧低下。バッテリーを交換する。
Bad	バッテリーが検出されないか、不良状態である。バッテリーを交換する。

2. Memory Allocation を押して、以下のメモリデータを表示します。
 - 割当てられたプログラムメモリの量
 - 使用中のプログラムメモリの量
 - 使用可能な不揮発性メモリの量



3. Close を押して直前のダイアログボックスに戻ります。
4. Runtime RAM Usage を押して、実行時にアプリケーションで使用された RAM の量を表示することで実行時の異常に対するトラブルシューティングを実行します。

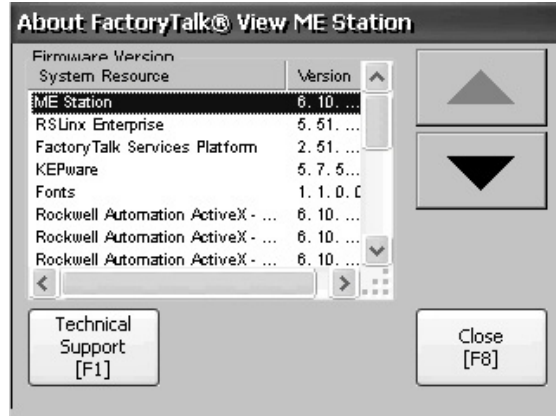


5. OK を押して直前のダイアログボックスに戻ります。
6. Terminal Settings に戻るまで Close を押します。

FactoryTalk View ME Station 情報の表示

ターミナルにインストールされているシステムコンポーネントのファームウェアおよびバージョン情報と技術サポート情報を表示できます。

1. Terminal Settings → System Information → About FactoryTalk View ME Station の順に押します。

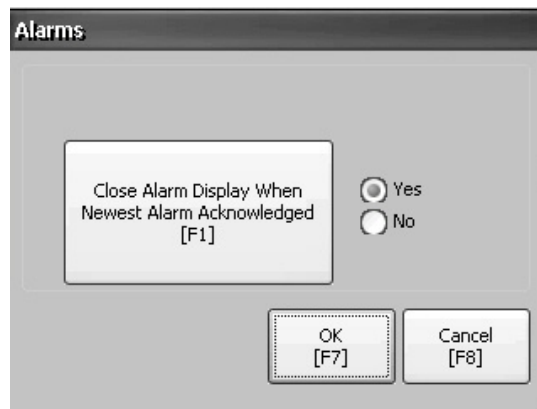


2. Technical Support を押して、ターミナルのサポート用の電話番号と Web サイトを表示します。
3. Terminal Settings に戻るまで Close を押します。

アラームディスプレイの有効 / 無効

ターミナルで新規のアラームが発生するたびに、そのアラームがアラームディスプレイまたはバナーに表示されます。最新のアラームがオペレータによって確認されたときは、アラームディスプレイを閉じるか、そのまま開いておくかを選択できます。デフォルトでは、アラームディスプレイが閉じられます。

1. Terminal Settings → Alarms の順に押します。



2. Yes または No を押します。
 - デフォルトオプションである Yes を選択すると、オペレータが最新のアラームを確認するたびにアラームディスプレイが閉じます。
 - No を選択すると、オペレータが最新のアラームを確認した後もアラームディスプレイは開いたままになります。
3. OK を押します。

時刻と日付の設定

ターミナルの操作の日付、時刻、タイムゾーン、および地域に関する設定を変更できます。

ターミナルの操作の日付の変更

以下の手順に従って、ターミナルの操作の日付を調整してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Date の順に押します。

現在の日付が Year、Month、および Day フィールドに表示されます。

2. Year、Month、および Day を押して値を変更します。

フィールド	説明	有効な値
Year	4桁形式の現在の年	1980~2099
Month	現在の月	1~12
Day	現在の日。月の特定の日が有効とされる。	0~31

3. 完了したら OK を押します。

ターミナルの操作の時刻の変更

以下の手順に従って、ターミナルの操作の時刻を調整してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Time の順に押します。

現在の時刻が Hour、Minute、および Second フィールドに分かれて 24 時間形式で表示されます。

2. Hour、Minute、および Seconds を押して値を変更します。

フィールド	説明	有効な値
Hour	24時間形式の現在の時間	0~23
Minute	24時間形式の現在の分	0~59
Seconds	24時間形式の現在の秒	0~59

3. 完了したら OK を押します。

ターミナルの操作のタイムゾーンの変更

ターミナルにインストールされている現在のタイムゾーンを表示または変更できます。タイムゾーンは、オペレーティングシステムの一部としてインストールされます。タイムゾーンを変更して、新しいタイムゾーンに一致するように現在の時刻と日付を調整することができます。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Time Zone の順に押します。



2. 上/下カーソルを押してタイムゾーンを選択します。

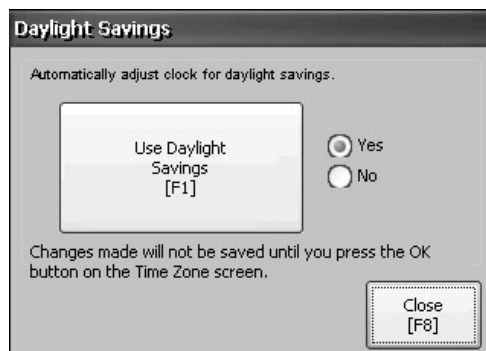
言語	デフォルトのタイムゾーン
英語	(GMT -05:00) Eastern Time (US and Canada)
フランス語	(GMT +01:00) Brussels, Copenhagen, Madrid, Paris
ドイツ語	(GMT +01:00) Amsterdam, Berlin, Bern, Rome, Stockholm, Vienna
日本語	(GMT +09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo

選択したタイムゾーンで夏時間がサポートされている場合は、Daylight Savings を押すことができます。

3. 選択したタイムゾーンの夏時間を有効または無効にするには、Daylight Savings を押します。

夏時間がサポートされていない日本を除くすべてのタイムゾーンでは、Daylight Savings が Yes に設定されています。夏時間の変更は、Time Zone ダイアログボックスを閉じるまでは永続的に適用されません。

4. Use Daylight Savings を押して Yes または No を選択します。



5. 完了したら Close を押します。
6. OK を押して直前のダイアログボックスに戻ります。

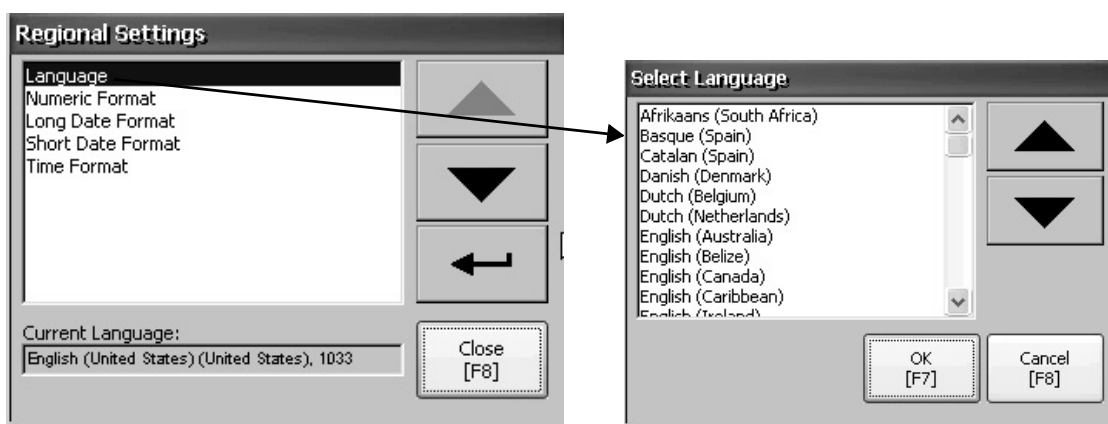
地域の設定

日付、時刻、数値の形式など、ターミナルにインストールされている特定の言語の地域の設定を調整できます。地域の設定にアクセスするには、Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings の順に押します。現在の言語が Regional Settings ダイアログボックスの下部に表示されます。

言語の選択

言語の地域の設定を変更する前に、ターミナルにインストールされている言語を選択する必要があります。言語は、オペレーティングシステムの一部としてインストールされます。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Language の順に押します。

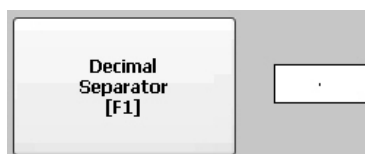


2. 上 / 下カーソルキーを使って言語を選択します。
3. OK を押します。
選択した言語が Regional Settings ダイアログボックスの Current Language の下に表示されます。

数値形式の小数点の記号の変更

現在の言語の数値で使用されている小数点の記号を変更できます。デフォルトの小数点の記号はピリオドです。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Numeric Format の順に押します。

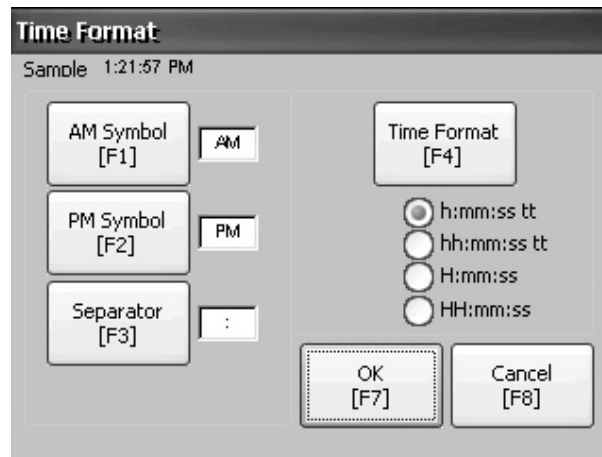


2. 新しい小数点の記号 (最大3文字) を入力し、OK を押します。

言語の時刻形式の変更

以下の手順に従って、選択した言語の時刻形式を変更してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Time Format の順に押します。



現在の時刻が、現在選択されている形式で表示されます。

2. 適切な選択項目を押して形式を調整します。

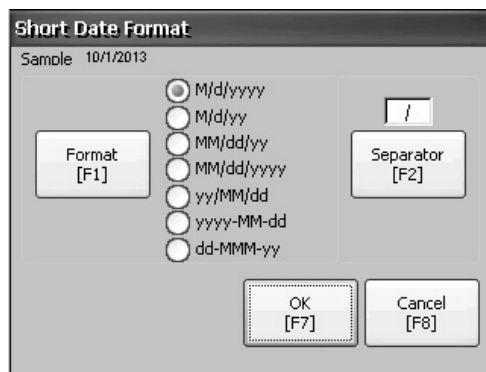
フィールド	説明	例
Time Format	h:mm:ss tt (デフォルト) h = 時間、先頭のゼロなし tt = AMまたはPM記号	7:23:02 AMまたは1:13:31 PM 11:43:59 AM
	hh:mm:ss tt hh = 時間、先頭のゼロあり tt = AMまたはPM記号	07:23:02 AMまたは01:13:31 PM 11:43:59 PM
	H:mm:ss H = 24時間形式の時間、先頭のゼロなし	7:03:42または1:13:32 23:43:59
	HH:mm:ss HH = 24時間形式の時間、先頭のゼロあり	07:03:42または01:13:22 23:43:59
AM Symbol	AM(午前)を示すための文字。時刻形式がh:mm:ss ttまたはhh:mm:ss ttに設定されている場合は、AM記号を変更できる。	AM (デフォルト) 最大12文字
PM Symbol	PM(午後)を示すための文字。時刻形式がh:mm:ss ttまたはhh:mm:ss ttに設定されている場合は、PM記号を変更できる。	PM (デフォルト) 最大12文字
Separator	時刻形式のフィールドの区切り文字	: (デフォルト) 最大3文字

3. OK を押します。

言語の短い日付形式の変更

以下の手順に従って、選択した言語の短い日付形式を変更してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Short Date Format の順に押します。



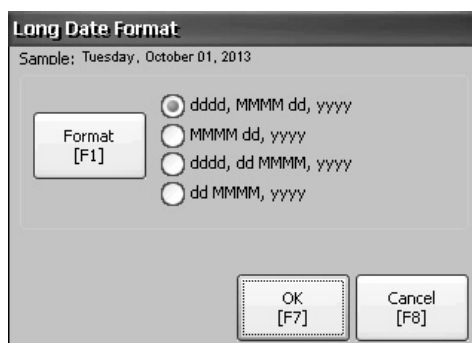
現在の日付が **Sample** エリアに選択した形式で表示されます。

2. **Format** を押して、使用可能な形式を選択します。
選択に伴い **Sample** エリアの日付が更新されます。
3. **Separator** を押して、日付要素の区切り文字を変更します。
区切り文字には、最大3文字を使用できます。デフォルトの区切り文字は - または / です。
4. 完了したら **OK** を押します。

言語の長い日付形式の変更

以下の手順に従って、選択した言語の長い日付形式を変更してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Long Date Format の順に押します。



現在の日付が **Sample** エリアに選択した形式で表示されます。

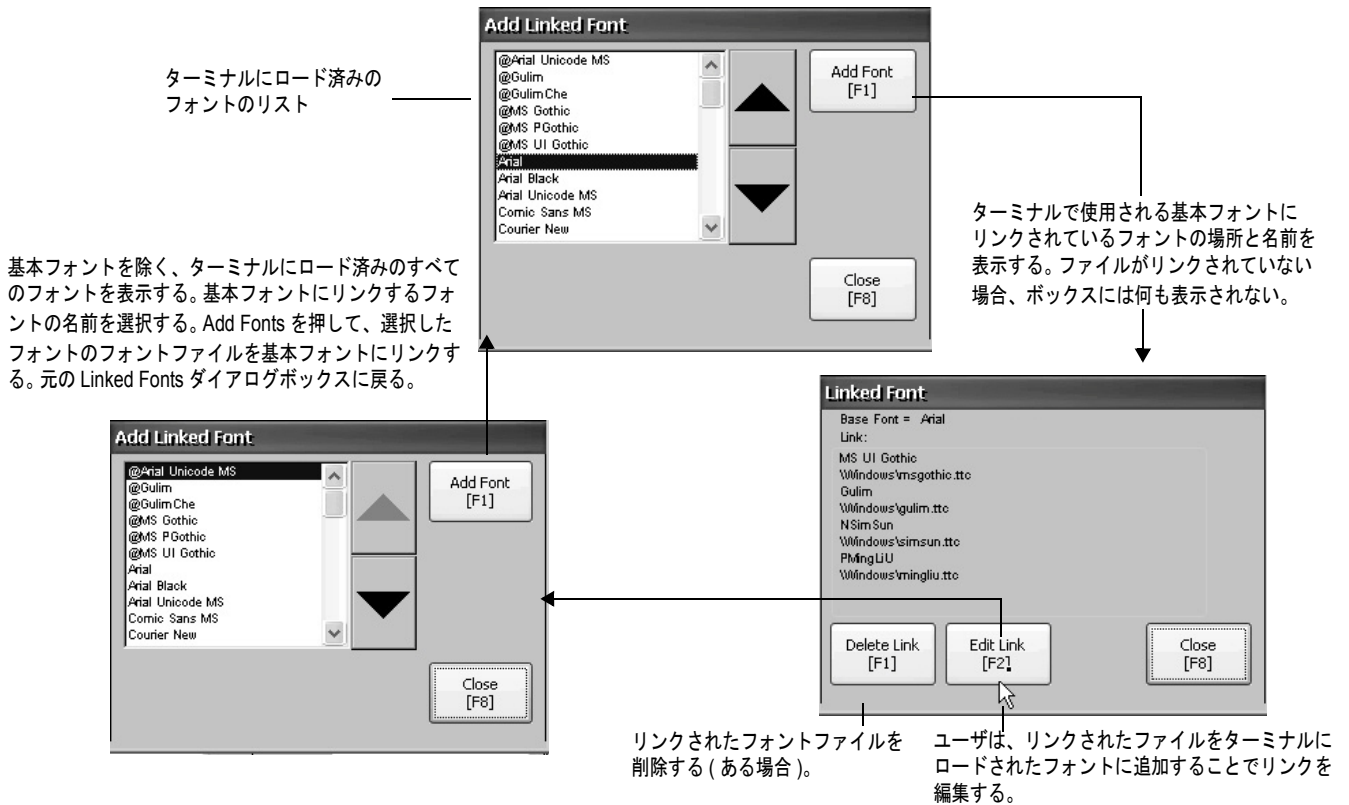
2. **Format** を押して、使用可能な形式を選択します。
選択に伴い **Sample** エリアの日付が更新されます。
3. 完了したら **OK** を押します。

フォントのリンク

フォントのリンクを使うと、フォントファイルを基本フォントにリンクする(中国語フォントファイルを基本フォントの Arial にリンクするなど)ことで、ターミナルで変換されたアプリケーションを実行できます。

事前にインストールされているターミナル用フォントとダウンロード可能な追加のフォントの詳細は、[155 ページの「ターミナルの常駐フォント」](#)を参照してください。

この機能にアクセスするには Terminal SettingsFont Linking の順に選択します。



Windows CE オペレーティングシステム

項目	参照ページ
Windows CE 6.0の機能	73
Windows Explorer	76
タスクバー	76
入力パネル	76
Windowsのコントロールパネル	77
バックアップおよび復元	78
ハードウェアモニタ	81
タッチプロパティ	83
キーボードプロパティ	83
ディスプレイプロパティ	84
ロゴマネージャ	86
システム情報	87
ユーザアカウント	90
サービス	91
ネットワークサーバ構成	92
プリンタのサポート	101
PDFリーダー	104

Windows CE 6.0 の機能

ターミナルは、以下のシェルおよびユーザインターフェイス機能を備えている Windows CE 6.0 オペレーティングシステム (OS) を実行します。

- コマンドシェル
- コマンドプロセッサ
- コンソールウィンドウ
- Windows Explorer シェル
- マウスとタッチスクリーンのサポート
- 共通ダイアログボックス
- コントロールパネル
- ネットワーク・ユーザ・インターフェイス
- ソフトキーボード入力パネル
- Adobe PDF リーダ

- VNC サーバ/クライアントビューワ
このプラットフォームでは、2つの VNC クライアントビューワが配布されます。
 - Windows CE ターミナル (PanelView Plus 6 Compact) の接続、表示、制御用に、ターミナルの \Windows フォルダにある Vncviewer.exe をパーソナルコンピュータに導入できます。
 - 2つの PanelView Plus 6 Compact ターミナル間で VNC コネクションを確立するために、もう1つの VNC ビューワをターミナルで利用できます。この VNC クライアントにアクセスするには、Start → Programs → VNC Viewer の順に選択します。

ヒント Windows Explorer シェルは右クリック機能をサポートしています。タッチスクリーンを1秒以上押し続けると、右クリック機能を実行できます。

アプリケーションのサポート

Windows CE 6.0 オペレーティングシステムは、OS とソフトウェア開発キット (SDK) の両方で以下のアプリケーションをサポートしています。

- .Net Compact Framework (Ver. 3.5 以降)
- C++ ライブラリおよびランタイム
- DCOM/COM/OLE コンポーネントサービス
- メッセージキューイング用 MSMQ
- MSXML(バージョン 3.0 以降)
- デバイス用 MFC (Ver. 9.0 以降)
- ATL
- ActiveSync
- CAB ファイルインストーラ/アンインストーラ
- Toolhelp API
- エラーレポート (ジェネレータ、転送ドライバ、制御パネル)

スクリプトのサポート

Windows CE 6.0 オペレーティングシステムは以下のスクリプト機能をサポートしています。

- バッチ/コマンド (BAT ファイルと CMD ファイル)
- JScript
- VBScript
- CSScript

ネットワークのサポート

Windows CE 6.0 オペレーティングシステムは以下のネットワーク機能をサポートしています。

- Winsock のサポート
- ネットワークユーティリティ - ipconfig、ping、route
- ネットワーク・ドライバ・アーキテクチャ (NDIS)
- Windows ネットワーキング API/ リダイレクタ
- ワイヤード・ローカル・エリア・ネットワーク、802.3、802.5

サーバのサポート

以下の表に、Windows CE 6.0 オペレーティングシステムでサポートされているサーバのリストを示します。

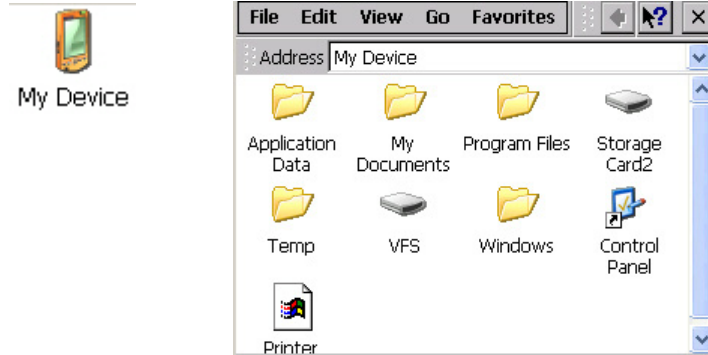
表 24 – Windows CE 6.0 でのサーバのサポート

サーバ	デフォルトの状態	説明
Webサーバ	有効	Webサーバは、Web上でHTTPプロトコルを使用して、Webページなどのコンテンツを配信する。
FTPサーバ	有効	ファイル転送プロトコル(FTP)は、インターネット(TCP/IPベースのネットワーク)上でファイルを交換するための標準のネットワークプロトコル
UPnP サーバ	有効	Universal Plug and Play (UPnP)は、機器の取付け後にネットワークへのシームレスな接続を可能にするネットワーキングプロトコルのセット
ファイルサーバ	有効	ネットワーク上のコンピュータ間でファイル、プリンタ、シリアルポート、および各種通信への共有アクセスを可能にするネットワークプロトコル
VNCサーバ	無効	Virtual Network Computing (VNC)は、別のコンピュータを遠隔操作で制御するために使用されるグラフィカルデスクトップ共有システムであり、キーボード/マウスのイベントをネットワーク上のコンピュータ間で送信する。
ViewPointサーバ	有効	ターミナルで実行中のFactoryTalk View Machine Edition HMIアプリケーションへの、Webブラウザを介したリモート・ユーザ・アクセスを可能にするWebサーバベースのアプリケーション。ViewPointソフトウェアはロックウェル・オートメーションの製品です。

Windows Explorer

デスクトップから Windows Explorer にアクセスするには、複数の方法があります。

- デスクトップで My Device アイコンを開く。
- Start → Settings → Control Panel の順に選択する。



標準のシステムフォルダだけではなく、いくつかのフォルダに、PanelView Plus 6 Compact プラットフォームに固有の項目が格納されています。

フォルダ	コンテンツ
Application Data	FactoryTalk View Machine Edition アプリケーションファイルが格納される。 パス: \Application Data\Rockwell Software\RSViewME\Runtime
VFS (仮想ファイルシステム)	ファームウェアファイル、および現在のシステムイメージのバックアップ/復元ファイルが格納される。 パス: \VFS\Platform Firmware

タスクバー

タスクバーには、Start メニュー、ターミナルの IP 情報、現在の言語と時刻、デスクトップ、入力パネル、および開いているプログラムにアクセスするためのアイコンがあります。



タスクバーの表示 / 非表示を切替えるには、Start → Settings → Taskbar and Start Menu の順に選択し、Auto Hide チェックボックスをオン / オフします。

ヒント タッチスクリーンターミナルでは、ディスプレイの最下部をタッチすると、Auto Hide モードのタスクバーが元の位置に表示されます。

入力パネル

データの入力には、異なるソフトキーボードまたは入力パネルを使用できます。これらの入力パネルにはタスクバーからアクセスできます。



- キーボードと拡大キーボード
- CHT Chajei (中国語)
- CHT Phonetic (中国語)
- MS Kana (日本語)
- MS Roma (日本語)
- IM なし - 入力方法が選択されていない (デフォルト)

ヒント No IM オプションを選択すると、タスクバーの入力パネルを非表示にできます。

Windows のコントロールパネル

Windows のコントロールパネルは、ターミナル構成用のデスクトップインターフェイスです。ネットワーク構成、スクリーンセーバの構成、タッチスクリーンのキャリブレーションなど、システム全体およびターミナルのプロパティを設定することができます。

ヒント ほとんどのターミナル設定は、FactoryTalk View ME Station の構成モードで変更できます。

コントロールパネル項目の言語は、オペレーティングシステムで設定された言語に基づいています。デフォルト値は English (英語) です。

コントロールパネルにアクセスするには、複数の方法があります。

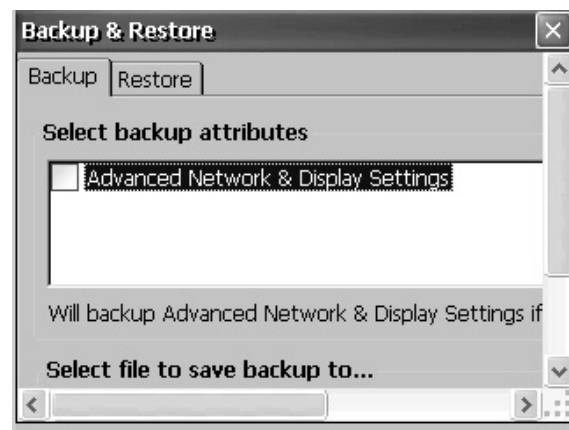
- Start → Settings → Control Panel の順に選択する。
- デスクトップで My Device を開いてから、Control Panel を開く。



この章では、ターミナルに固有のコントロールパネルのダイアログボックスについてのみ説明します。

ヒント View メニューでは、アイコンのサイズを変更したり、各アイコンの短い説明を表示することができます。

ヒント 多くのコントロールパネルのダイアログボックスには、小さなディスプレイに情報を表示するためのスクロールバーがありますが、ほとんどの例は、わかりやすさを考慮して全画面表示で示されています。



バックアップおよび復元



Backup Restore ダイアログボックスを使うと、HMI ターミナルの現在のシステムイメージをバックアップして、そのイメージを同じターミナルに復元するか、他のターミナルにクローニングできます。この機能は、ターミナルイメージをバックアップして、そのイメージを複数のターミナルに複製またはコピーする機械装置メーカ (OEM) を対象にしています。

通常のバックアップには以下のものが含まれます。

- ファイルシステム
- ファームウェアイメージ
- Windows レジストリ

Advanced Network & Display Settings (ネットワークおよびディスプレイの高度な設定) チェックボックスをオンにした場合は、追加のユーザ構成データもバックアップ対象に含まれます。

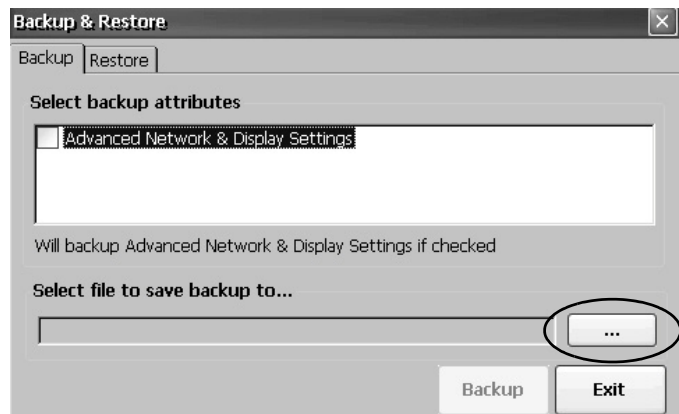
表 25 – ネットワークおよびディスプレイの高度な設定

ネットワークパラメータ	ターミナル固有のパラメータ
Ethernet network	<ul style="list-style-type: none"> • DHCP対応IPアドレスまたは固定IPアドレスおよびサブネットマスクとゲートウェイ • プライマリおよびセカンダリDNS • プライマリおよびセカンダリWNS • 速度および二重設定
USB network	USB IPアドレスとサブネットマスク、ゲートウェイ、DHCP対応IPアドレスまたは固定IPアドレス
Network	デバイス名
Display	<ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイの輝度 • スクリーンセーバのディママーのタイムアウト

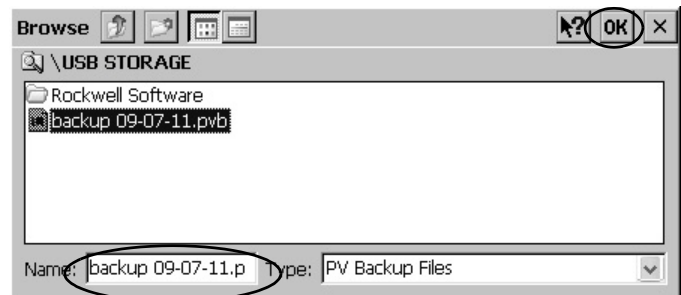
ターミナルイメージを USB ドライブまたは SD カード上のファイルにバックアップすることができます。

以下の手順に従って、バックアップを行なってください。

1. USB ドライブまたは SD メモリカードをターミナルの適切なスロットに挿入します。
2. コントロールパネルで、Backup & Restore アイコンをダブルクリックします。
3. Backup タブのブラウズ (...) ボタンをクリックします。



4. バックアップファイルの場所を選択します。
 - USB ドライブ使用時は USB Storage
 - SD カード使用時は Storage Card2
 - ターミナルにバックアップする場合はターゲットフォルダ
5. バックアップファイルの名前を入力します。
バックアップファイルはすべて、.pvb ファイルタイプになります。

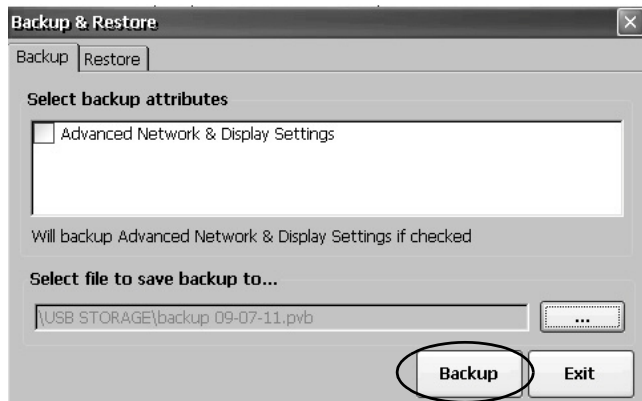


6. OK をクリックします。

7. Backup をクリックしてプロセスを開始します。

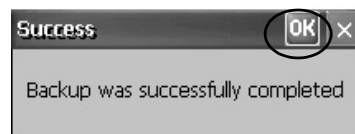
プログレスバーに、バックアップのステータスが表示されます。

バックアップには数分かかることがあります。バックアップが正常に完了すると、通知を受信します。



8. OK をクリックします。

そのファイルがすでに存在する場合は、現在のファイルを上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

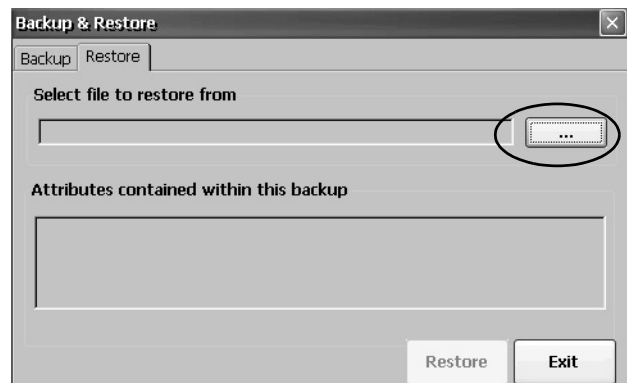


9. Exit をクリックして Backup Restore ダイアログボックスを閉じます。

ヒント pvb ファイルが正常に作成されたことを確認するには、My Device をダブルクリックしてバックアップの保存場所を選択します。

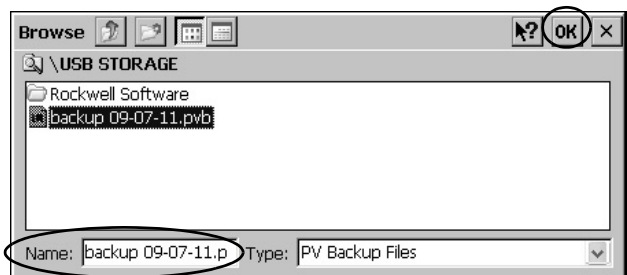
以下の手順に従って、バックアップイメージを USB ドライブまたは SD カードからターミナルに復元または複製してください。

1. USB ドライブまたは SD メモリカードをターゲットターミナルの適切なスロットに挿入します。
2. コントロールパネルで、Back & Restore アイコンをダブルクリックします。
3. Restore タブをクリックします。
4. 復元するバックアップファイルを選択するためにブラウズ (...) ボタンをクリックします。



5. バックアップファイルの場所を選択します。
 - USB ドライブ使用時は USB Storage
 - SD カード使用時は Storage Card2
 - pvb ファイルが格納されている、ターミナル上のターゲットフォルダ

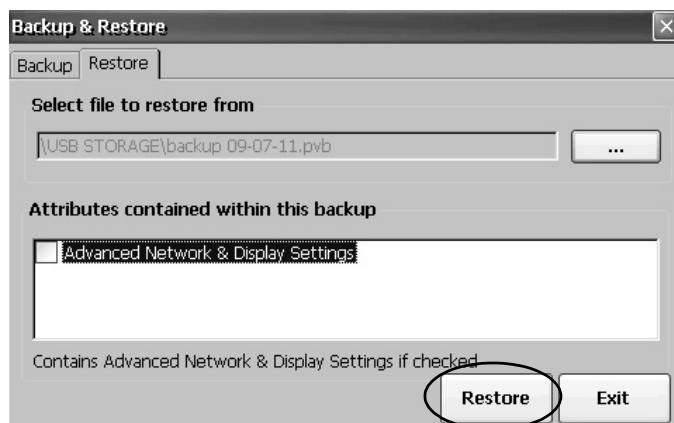
この例では、保存場所として \USB Storage が表示されています。



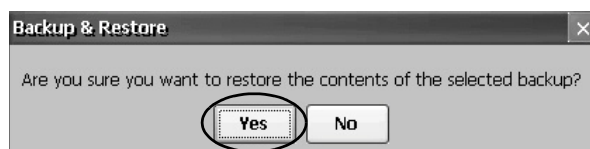
6. 復元する .pvb バックアップファイルを選択します。
7. OK をクリックします。

8. Restore をクリックします。

バックアップを実行したときに Advanced Network and Display Settings オプションのボックスをチェックしている場合は、詳細なネットワークおよびディスプレイ設定が自動的に復元対象に含まれます。



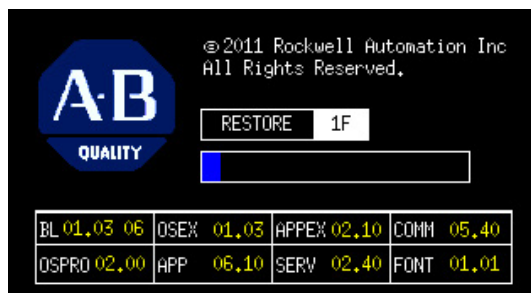
9. Yes をクリックして復元を開始します。



ターミナルで復元プロセスが開始されます。数分かかる場合があります。

重要

復元中に USB ライブまたは SD カードを取り外したり、ターミナルの電源を接続しないでください。これを行なうと、ファームウェアが破損する恐れがあります。復元に失敗した場合は、メンテナンスメニューからターミナルをリセットする必要があります。詳細は、を参照してください。



復元が正常に完了すると、ターミナルが再起動します。

ハードウェアモニタ



Hardware Monitor

PanelView Hardware Monitor では、実行中のプロセス、システム・イベント・ログの詳細、バッテリー電圧 / 温度 / システムの使用状況 (CPU とメモリの負荷など) のモニタをはじめとする、ターミナルのステータスおよびトラブルシューティング情報を提供します。

プロセス

Hardware Monitor の Processes タブには、ターミナルで現在実行中のすべてのプロセスと各プロセスのメモリ使用率が表示されます。

ProcessName	ProcessId	Thr	BaseAddr	He
NK.EXE	00400002	92	80023000	340
udevice.exe	01F70006	7	00010000	195
udevice.exe	0103000A	1	00010000	435
udevice.exe	02230002	1	00010000	495
udevice.exe	02910006	1	00010000	145

Memory load 3444432896/105897984 [7%]

システム・イベント・ログ

PanelView Hardware Monitor の System Event Log タブには、ターミナルでログに記録された警告、エラー、およびイベントが表示されます。

Type	Date	Time	Category	Ms
Information	8/12/2006	7:52:58 AM	PVP	167
Information	8/12/2006	7:52:45 AM	None	655
Information	8/12/2006	7:52:45 AM	None	655

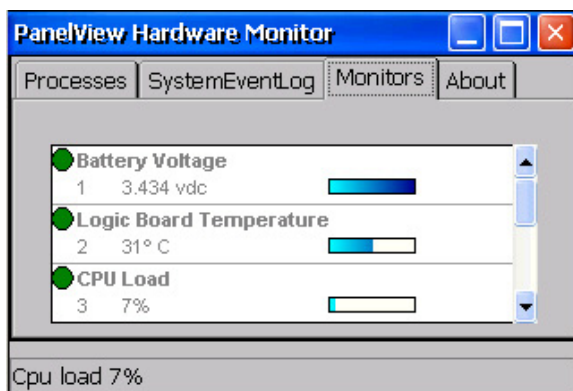
Cpu load 4%

このログは、各イベントの発生日時を示す日付とタイムスタンプおよびイベントについての説明テキストを提供します。このログの最大サイズは 1MB (約 4,000 のレコード) です。ログが 1MB を超えると、最も古い 512KB の情報が削除されます。

- Export Log ボタンをクリックすると、デフォルトのファイル名 SystemLog.csv を使用して、イベント・ログを \Windows フォルダ内の CSV ファイル (*.csv) にエクスポートできます。
- Clear Log ボタンをクリックすると、ログからすべてのイベントを消去できます。
- Details ボタンをクリックすると、選択したイベントの詳細を表示できます。

モニタ

PanelView Hardware Monitor の Monitors タブでは、ターミナルの継続的な電圧、温度、および負荷情報を提供します。



バッテリー電圧

Monitors タブでは、リアルタイムクロック用のバッテリーのステータスおよび電圧の読取り値がグラフで表示されます。バッテリー電圧は、電源投入時に更新されてから、毎時更新されます。

表 26 – バッテリーの状態

条件	バッテリー
Depleted	2.0V未満はバッテリーの故障またはバッテリー切れを示す。
Low	2.0~2.74V
Normal	2.75V以上

Low または Depleted のバッテリーは、システム・イベント・ログに記録されます。

温度

Monitors タブでは、ターミナルのロジックボードのステータスと現在温度が視覚化されます。温度は 10 秒おきに更新されます。

表 27 – 温度の状態

条件	ロジックボード
Low	-
Normal	25~94°C (77~201°F)
High	95°C (203°F)以上

故障した温度センサはシステム・イベント・ログに記録されます。

キーパッドプロパティ

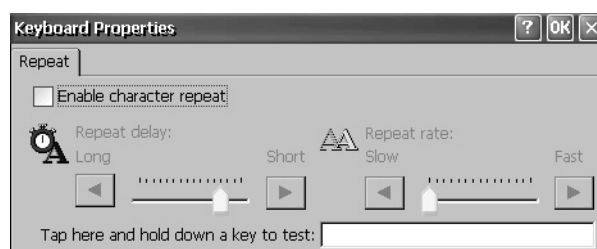


Keypad および Keyboard ダイアログボックスを使用して、ターミナルのメンブレインキーパッドまたは接続された USB キーボードの設定を調整できます。Keyboard アイコンは常に表示されています。キーパッドはターミナルにキーパッドがある場合にのみ表示されます。

Repeat タブ

Keypad Properties または Keyboard Properties ダイアログボックスの Repeat タブでは、キーパッドまたは接続されたキーボード上のキーの文字再入力動作を有効または無効にします。

文字再入力を有効にすると、キーの再入力までの待ち時間と再入力の間隔を設定できます。テスト用編集ボックスでキーを押して、設定を確認します。



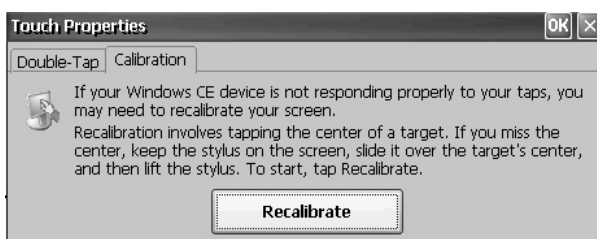
タッチプロパティ



Touch Properties は、タッチスクリーンを備えた機器でのみアクセスできます。このアプレットを使用すると、タッチスクリーンのキャリブレーションとタッチスクリーンのタップ感度の設定を行なえます。

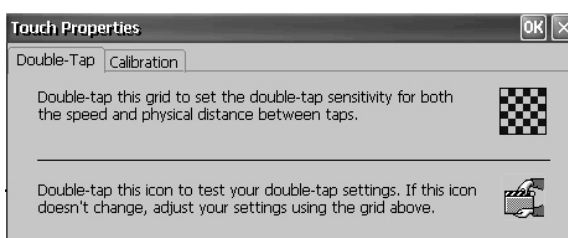
キャリブレーション

Calibration タブでは、タップしても機器が適正に応答しない場合にタッチスクリーンを再調整できます。ダイアログボックスの指示に従って再調整してください。



ダブルタップ

Touch Properties ダイアログボックスの Double-Tap タブを使用すると、タッチスクリーンのダブルタップの感度を設定およびテストできます。



ディスプレイプロパティ



Display Properties は、デスクトップの背景の画像と外観、バックライトの輝度、およびスクリーンセーバ設定を制御するために使用します。

デスクトップの背景

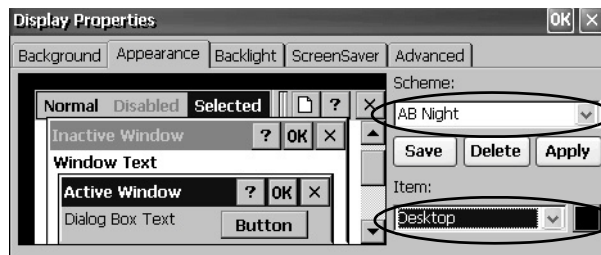
Display Properties の Background タブでは、デスクトップの背景ビットマップを制御します。デフォルトのビットマップは abclocknight です。



プルダウンメニューから別の画像を選択することも、システムを参照してビットマップ画像を選択することもできます。カスタム画像は \Windows フォルダ内にあります。

デスクトップの外観

Display Properties の Appearance タブでは、デスクトップおよび他のウィンドウ要素の表示スタイルおよび色を制御します。

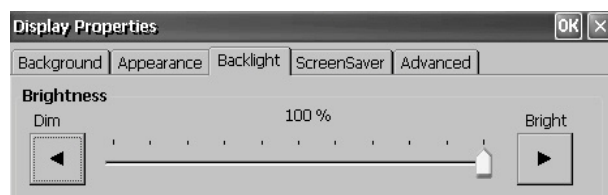


日中または夜間での表示のために2つのカスタム配色とカスタム画像が用意されています。配色を変更するときは、Background タブで画像も変更することを忘れないでください。

配色	デスクトップの色	背景ロゴ
AB Day	青色	abclocknight
AB Night	黒色	abclockday

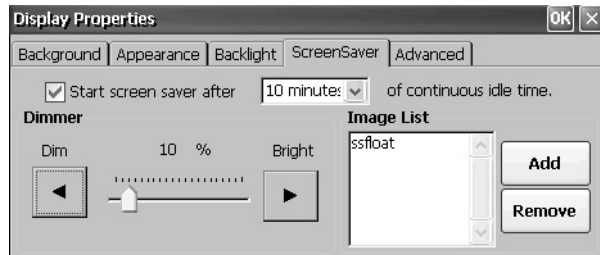
バックライトの輝度

Display Properties の Backlight タブでは、ディスプレイの輝度レベル (1 ~ 100%) を設定できます。1% に設定すると、ディスプレイの明るさは最低になります。



スクリーンセーバ

スクリーンセーバは、ターミナルがアイドル状態のときにバックライトを減光することでディスプレイの寿命を延ばします。スクリーンセーバは、連続アイドル時間が経過するとアクティブになり、低減された輝度レベルで動画ビットマップが表示されます。スクリーンセーバが非アクティブ化されると、ディスプレイの輝度は通常のレベルに戻ります。



Display Properties の Screen Saver タブでは以下の操作を実行できます。

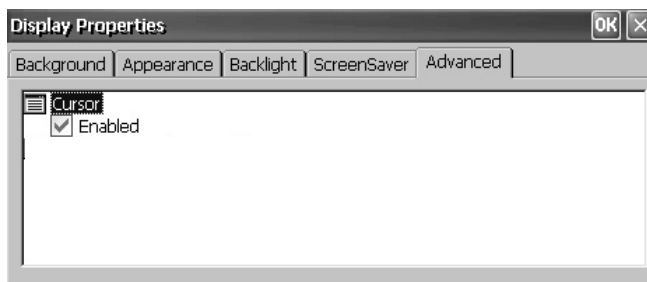
- 指定のアイドルタイムアウトを使ってスクリーンセーバを有効にします。デフォルトのアイドル時間は 10 分です。

スクリーンセーバがアクティブにされると、ディマーによってバックライトの輝度レベルが制御されます。ディマーの輝度レベルの設定範囲は 0 ~ 100% であり、デフォルトのディマーの輝度は 10% です。0% に設定すると、バックライトが消灯し、ディスプレイが真っ暗になります。

- システムを参照し、0% 以外の輝度レベルでスクリーンセーバに表示されるビットマップを選択します。デフォルトのスクリーンセーバは SSFloat.bmp です。スクリーンセーバのビットマップを変更するには、Add または Remove をクリックします。システムは \Windows フォルダに格納されているビットマップを認識します。
- Start screen saver チェックボックスのチェックを解除して、スクリーンセーバを無効にします。

カーソル

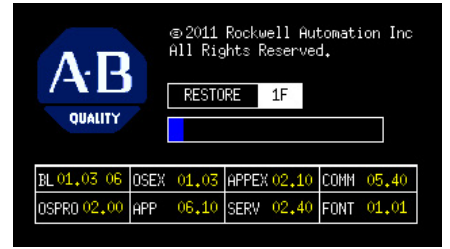
Display Properties の Advanced タブでは、ディスプレイ上に表示されるカーソルを有効または無効にすることができます。デフォルトでは、カーソルが表示されます。



ロゴマネージャ



Logo Manager (ロゴマネージャ) を使うと、起動時にスプラッシュ画面に表示されるロゴとデフォルトのスクリーンセーバの画像を変更できます。デフォルト画像はアレン・ブラドリーのロゴ (ablogo.bmp) です。



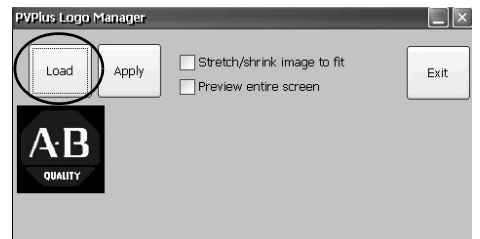
ロゴは .bmp、.jpg、.gif、.png 画像のうちのいずれかです。最適な結果を得るには、90x90 ピクセルの 16 ビットカラー画像でロゴを作成してください。

新しいロゴを適用する前に、以下の操作を行なえます。

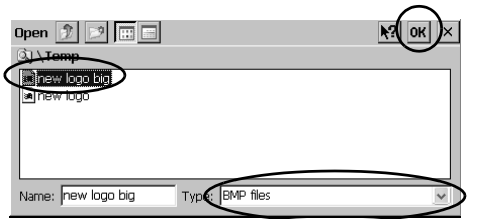
- スプラッシュ画面上でロゴをプレビューする。
- スプラッシュ画面上の固定領域に合わせて画像のサイズを変更する。

以下の手順に従って、新しいロゴをスプラッシュ画面およびスクリーンセーバに適用してください。

1. Logo Manager アイコンをダブルクリックします。
Logo Manager が開き、現在のロゴが表示されます。
2. Load をクリックします。

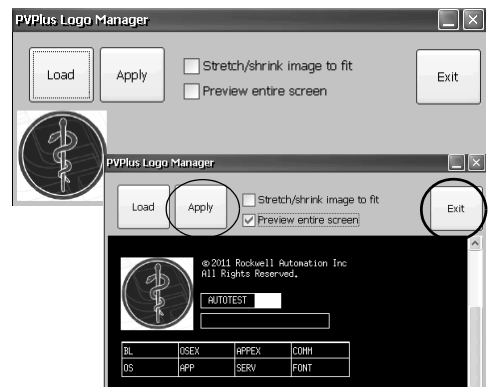


3. ロードする新しい画像の場所を選択します。
 - フォルダ
 - Storage Card2 - SD カード
 - USB Storage - USB ドライブ
4. ロードする画像ファイルを選択します。
5. ファイルタイプが正しいことを確認します。
6. OK をクリックします。



7. Preview entire screen のボックスをチェックして、スプラッシュ画面上にロゴを表示します。

ロゴが一部欠けて表示されるか、小さすぎる場合は、Stretch/shrink image to fit をチェックして、領域内に収まるようにロゴのサイズを変更します。



8. プレビューしてみて問題がない場合は、Apply をクリックします。
スプラッシュ画面が正常に更新されたことがダイアログボックスに示されます。デフォルトのスクリーンセーバである ssfloat.bmp もまた、新しい画像とともに更新されます。
9. OK をクリックし、Exit をクリックして Logo Manager を閉じます。

システム情報



System

System Information (システム情報) ダイアログボックスは、ご使用のターミナルに関するシステム全体のプロパティを表示および設定できるタブを備えています。

全般情報

System Information ダイアログボックスの General タブには、ターミナル上の Windows CE オペレーティングシステムの現在のバージョン、プロセッサのタイプと速度、および RAM メモリが表示されます。



スタートアップオプション

System Information ダイアログボックスの Startup Options タブでは、スタートアップ時に以下のオプションを設定できます。

- バッテリーの警告の表示 / 非表示
- プラットフォームのオープンシステムまたはクローズドシステムとしての起動
- セーフモード要求の無効または有効
- システム・ウォッチドッグ・エラーの表示 / 非表示



バッテリーの警告

バッテリーが電力低下しているか、検出されないか、故障している場合は、ターミナルが起動するたびに警告が表示されます。

- ヒント**
- ターミナルは、時刻と日付が正確である必要がない場合、バッテリーなしでも動作可能です。
 - バッテリーを交換するときは、デスクトップのコントロールパネルまたは FactoryTalk View ME Station 構成モードのターミナル設定からシステムの日付と時刻が正しいことを確認できます。



バッテリーの警告を処理するために3つのオプションが用意されています。

バッテリーの警告に関するスタートアップオプション	説明
Always show at startup (continue with startup)	スタートアップ時に、FactoryTalk View ME Stationソフトウェアがバックグラウンドで実行されている状態でバッテリーの警告を表示する。これがデフォルト値
Always show at startup (halt startup)	スタートアップ時にバッテリーの警告を表示するが、起動またはブートプロセスは、OKを押すまで停止する。
Never show at startup	スタートアップ時にバッテリーの警告を非表示にする。

シェルオプション

Shell オプションを使用すると、スタートアップ時にオープンデスクトップまたはクローズドデスクトップを起動したり、ボタンコントロールの外観を設定したりできます。



シェル・スタートアップ・オプション	説明
System Type	スタートアップ時にターミナルをオープンシステムまたはクローズドシステムとして起動する。 <ul style="list-style-type: none"> • Open - スタートアップ時にWindows CEデスクトップを起動する。 • Closed (デフォルト) - スタートアップ時にFactoryTalk View ME Stationの構成モードを起動する。 また、Terminal Settings→Desktop Access Setupの順に押し、FactoryTalk View ME Stationの構成モード内でデスクトップへのアクセスを許可または制限することもできます。 42ページの「デスクトップへのアクセス」 を参照してください。
User Interface Button Controls	スタートアップ時のコントロールボタンの外観を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> • Windows XP Style (デフォルト) • Windows 95 Style

ブートオプション

Boot オプションは、スタートアップ時にセーフモードに入ることを可能にします。



セーフモードのオプション	説明
Do not detect Safe mode request at startup	スタートアップ時にセーフモードの検出を無効にする。これがデフォルト値
Detect safe mode request at startup	スタートアップ中にターミナルディスプレイの左下隅に小さな白いボックスを表示し、ユーザはこのボックスをタッチするか、[F1]キーを押してセーフモードに入ることができる。これにより、ロードされたFactoryTalk View MEアプリケーションを介さずに直接、構成モードに入ることができる。[F1]キーも押さず白いボックスもタッチしなければ、システムは通常通り起動する。 セーフモードに入るもう1つの方法は、メンテナンスモードにアクセスすることです。 151ページの「メンテナンス操作」 を参照してください。

ウォッチドッグエラー

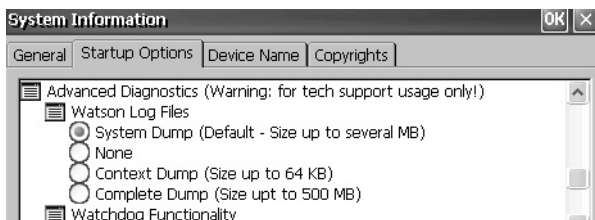
スタートアップ時にウォッチドッグエラーを表示するか、非表示にすることができます。



ウォッチドッグエラーのオプション	説明
Always show watchdog errors at startup	スタートアップ時に重大なウォッチドッグエラー(エラー 02)を表示し、通常のブートプロセスを停止する。これがデフォルト値 システムでは、ウォッチドッグエラーが表示されたメンテナンスウィンドウが起動される。ユーザはこのウィンドウからブート処理を続行できる。詳細は、 151ページ の「メンテナンス操作」を参照してください。エラーはシステム・イベント・ログに記録される。
Never show watchdog errors at startup	スタートアップ時にエラーを非表示にし、エラーをシステム・イベント・ログに記録する。

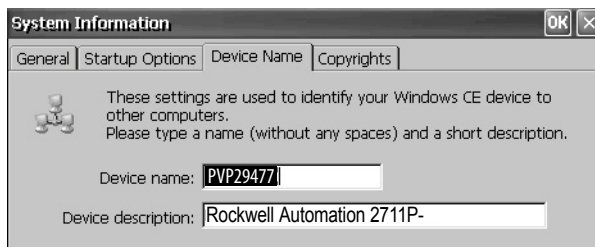
高度な診断

Advanced Diagnostics (高度な診断) は、システムのエラーを診断して解決するための技術サポートで使用されます。通常のプロダクション環境で使用するためのものではありません。



デバイス名

System Information ダイアログボックスの Device Name タブでは、デバイス名とデバイスの説明を指定することで、ネットワーク上の他のデバイスに対してユーザのターミナルを識別します。



重要 デバイス名は固有のものでなければなりません。重複する名前を指定すると、競合状態になり、ネットワークの問題が発生します。

ユーザアカウント



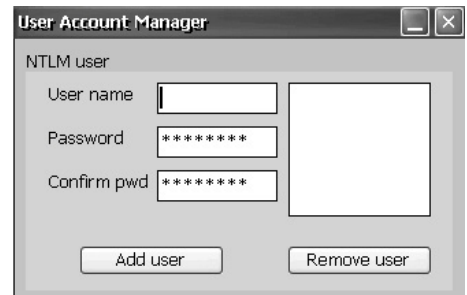
User Accounts (ユーザアカウント) を使うと、FTP サーバ、Web サーバ、およびファイルサーバ使用時のクライアント接続の認証に使用できる NTLM ユーザアカウントを設定できます。

ヒント NTLM は、Windows オペレーティングシステムを実行するネットワークで使用される認証プロトコルです。

ユーザアカウントはユーザ名とパスワードから構成されます。

以下の手順に従って、ユーザアカウントを追加してください。

1. User Accounts アイコンをダブルクリックします。



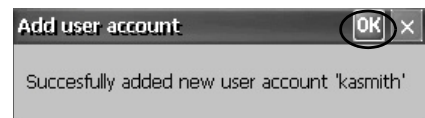
2. User Name フィールド内をクリックして名前を入力します。

3. Password フィールド内をクリックして、フィールドをクリアしパスワードを入力します。
パスワードを入力していくと、アスタリスク (*) が表示されます。



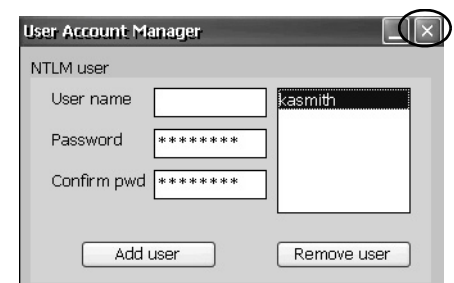
4. Confirm pwd フィールドにパスワードを再度入力します。
5. Add user をクリックします。

6. OK をクリックして、新しいユーザアカウントを承認します。



新しいユーザ名がユーザリストに追加されます。

7. さらにユーザアカウントを追加するには、ステップ 1～6 を繰り返します。
8. 完了したら、X をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

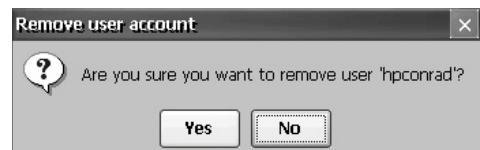


以下の手順に従って、ユーザアカウントを削除してください。

1. ユーザ名のリストで名前を選択します。
2. Remove user をクリックします。



3. Yes をクリックして、選択したユーザアカウントの削除を確定します。



ユーザアカウントが永続的にユーザ・アカウント・リストから削除されます。

4. X をクリックして User Account Manager を閉じます。

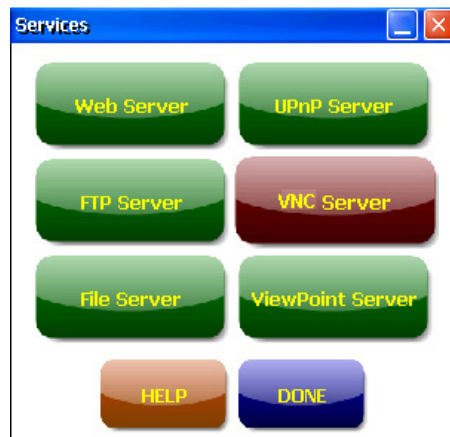
ヒント ユーザアカウントが削除されると、FTP サーバ、Web サーバ、またはファイルサーバ構成の認証リストに入力されているユーザが削除されます。

サービス



Services

Services ダイアログボックスには、ターミナルでサポートされているサーバが表示され、ユーザは各サーバを有効 (起動) または無効 (停止) にできます。



ボタンはグレースケールのターミナル以外、以下のように色分けされています。

- 緑色は、サーバが現在実行中であり、システムの起動時に自動的に起動されることを示す。
- 赤色は、サーバが現在実行されていないことを示す。
- 灰色は、サーバがプラットフォーム上で使用不可であることを示す。

サーバを有効または無効にするには、対応するボタンを押します。ボタンの色がそれに応じて変化します。

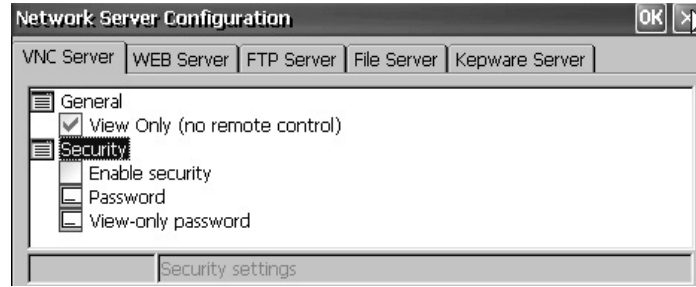
ネットワークサーバ構成



コントロールパネルの Server Config ダイアログボックスでは、イーサネットネットワーク上での VNC、FTP、Web、KEP Server、およびファイルサーバのアクティビティ用の設定を構成できます。

VNC サーバ構成

Network Server Configuration (ネットワークサーバ構成) ダイアログボックスの VNC Server タブでは、VNC コネクションを介してターミナルを表示または制御するためにクライアントデバイスで使用される設定を構成します。VNC サービスは2つのクライアント同時接続をサポートします。



ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

ターミナルでは、2つの VNC クライアントビューワが提供されます。

- ターミナル上の VNC サーバの接続、表示、制御用に、Vncviewer.exe をパーソナルコンピュータに導入できます。このビューワは \Windows フォルダ内にあります。
- 2つの PanelView Plus 6 ターミナル間で VNC コネクションを確立するために、もう1つの VNC ビューワをターミナルで利用できます。このクライアントにアクセスするには、Start → Programs → VNC Viewer の順に選択します。

表 28 – VNC Server パラメータ

VNCパラメータ	説明	デフォルト
General		
View Only	VNCコネクションを介したターミナルディスプレイの表示をユーザに許可する場合はこのオプションのボックスをチェックする。 VNCコネクションを介したターミナルディスプレイの制御と表示を両方ともユーザに許可する場合は、このオプションをチェック解除する。 セキュリティが無効になっている場合は、ターミナルへの接続時にユーザは、パスワードの入力を求められない。	表示のみが有効
Security		
Enable Security	ターミナルへのVNCコネクションでパスワード保護を必要とする場合は、このオプションのボックスをチェックする。つまり、ユーザは、ターミナルディスプレイを表示または制御する前に有効なパスワードを入力する必要がある。セキュリティを有効にしている場合は、以下のいずれかのパラメータとしてパスワードを指定する必要がある。 • Password - 動作の制御と表示を行なう場合 • View-only password - 表示専用の動作を行なう場合	無効(チェック解除)
Password	ターミナルディスプレイの制御のためのVNCコネクションを確立するときにユーザが入力する必要があるパスワードを指定する。ボックスをチェックしてから、ダイアログボックスの下部にあるフィールドにパスワードを入力する。このパスワードは最大7文字。 Password保護は、以下の場合にターミナルディスプレイの制御が必要とされる。 • View Onlyボックスのチェックを解除している(制御アクセスを許可)。 • セキュリティが有効になっている。	パスワードなし
View-only password	ターミナルディスプレイの表示のためのVNCコネクションを確立するときにユーザが入力する必要があるパスワードを指定する。ボックスをチェックしてから、ダイアログボックスの下部にあるフィールドにパスワードを入力する。このパスワードは最大7文字。 ヒント: View Onlyパラメータのチェックを解除している場合は、ターミナルへの制御アクセスと表示アクセスを持つことになる。制御アクセスが有効な状態においては、View-only passwordを指定することで、一人以上のユーザを表示のみアクセスに制限することができる。 View-only password保護は、セキュリティが有効になっている場合にターミナルディスプレイの表示が必要とされる。 • View Onlyボックスをチェックまたはチェック解除している。 • セキュリティが有効になっている。	パスワードなし

表示専用の動作にパスワードが必要な VNC コネクション

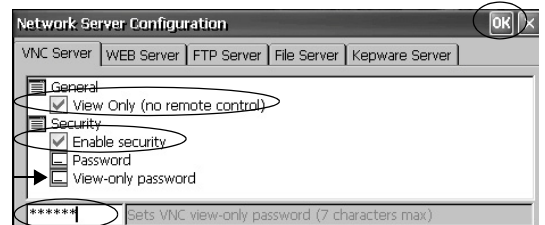
デフォルトの VNC 構成では、ターミナルの表示専用 (view-only) のアクセスが有効な状態で、パスワードは不要です。この設定は、ターミナル上にある VNC ビューワとユーザがコンピュータに導入可能なビューワに適用されます。

この例では、HMI ターミナルに接続されるコンピュータに導入されている VNC ビューワが使用されています。

ヒント ターミナルの \Windows フォルダにある vncviewer.exe をご使用のコンピュータにコピーして、TightVNC ソフトウェアをインストールしてください。

以下の手順に従って、ターミナルの動作を表示するためにパスワードを必要とする VNC コネクションを構成してください。

1. VNC Server タブで、以下のオプションボックスをチェックします。
 - View Only
 - Enable security

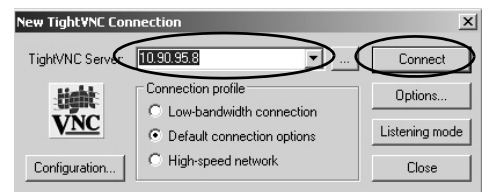


2. View-only password を選択し、表示されたフィールドに7文字のパスワードを入力します。
3. OK をクリックし、サービスを再起動して新しい設定を適用します。

以下の手順に従って、ターミナルの動作を表示するための VNC コネクションを起動してください。

1. コンピュータから Start → Programs → TightVNC → TightVNC Viewer の順に選択します。

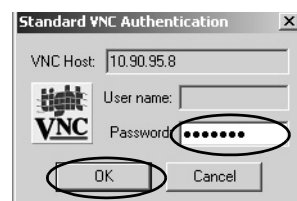
2. ご使用のターミナルの IP アドレスを入力し、Connect をクリックします。
システムトレイにあるネットワーク接続アイコンをクリックして IP アドレスを表示します。



ヒント セキュリティが無効になっている場合、パスワードは必要ありません。

3. VNC 構成で定義された View-only password を入力し、OK をクリックします。

PanelView VNC Server が開き、デスクトップ上の HMI ターミナルの現在のビューが表示されます。ユーザはターミナルの動作を見ることができますが、制御することはできません。



4. 完了したら、PanelView VNC サーバを閉じます。

動作の表示と制御を行なうために別々のパスワードを使用する VNC コネクション

表示専用と動作の制御を行なうために別々のパスワードを必要とするように VNC サーバを構成できます。

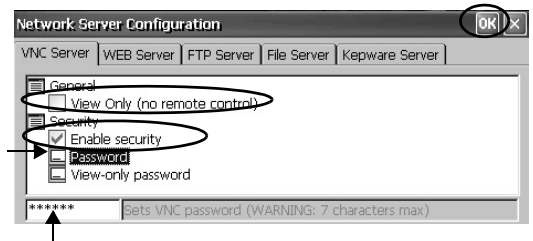
この例では、HMI ターミナルに接続されるコンピュータに導入されている VNC ビューワが使用されています。

ヒント ターミナルの \Windows フォルダにある vncviewer.exe をご使用のコンピュータにコピーして、TightVNC ソフトウェアをインストールしてください。

以下の手順に従って、表示専用と動作の制御を行なうためのパスワードを必要とするように VNC サーバを構成してください。

1. VNC Server タブで、以下の操作を行ないます。

- View Only ボックスのチェックを解除する。
- Enable security ボックスをチェックする。



2. Password を選択して、制御特権用のパスワードを入力します。パスワードは最大7文字です。

3. View-only password を選択して、表示専用の特権用のパスワードを入力します。

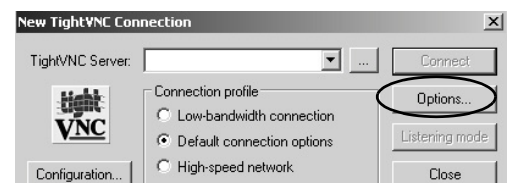
4. OK をクリックし、サービスを再起動して新しい設定を適用します。



以下の手順に従って、ターミナルの制御を有効にするための VNC コネクションを起動してください。

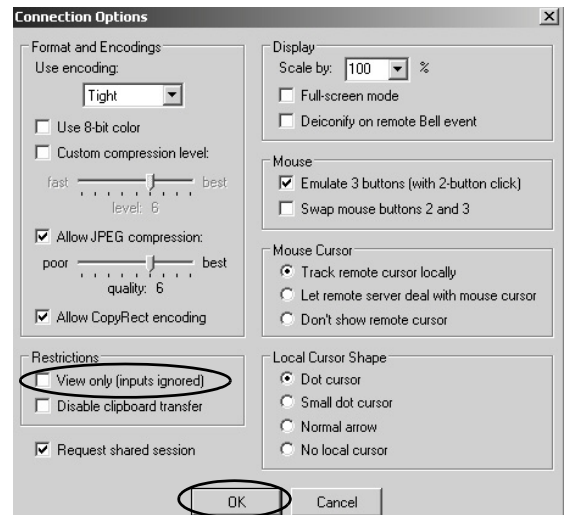
ヒント 表示のみの操作を行なうためのパスワード保護を必要とする VNC コネクションをコンピュータから開始する場合は、[93 ページの「表示専用の動作にパスワードが必要な VNC コネクション」](#)を参照してステップ1~4を実行してください。

1. コンピュータから Start → Programs → TightVNC → TightVNC Viewer の順に選択します。
2. Options をクリックします。



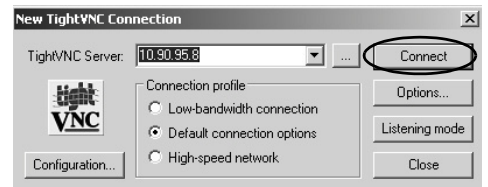
3. View only (inputs ignored) ボックスのチェックを解除します。

4. OK をクリックします。



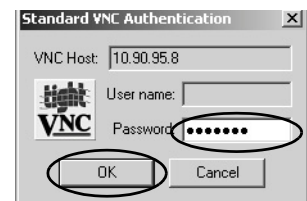
5. ご使用のターミナルの IP アドレスを入力し、Connect をクリックします。

IP アドレスを表示するには、システムトレイにあるネットワーク接続アイコンをクリックします。



Standard VNC Authentication ダイアログボックスが開きます。

6. ターミナルの VNC 構成ダイアログボックスで定義された制御用パスワードを入力し、OK をクリックします。



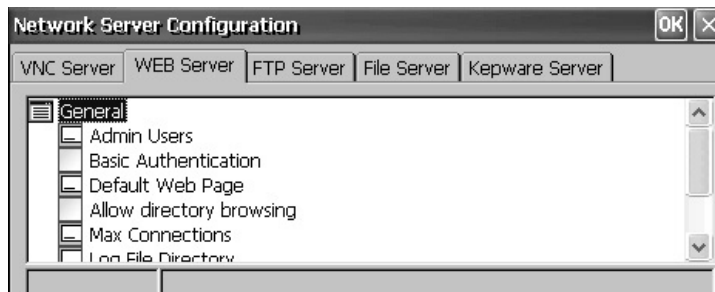
PanelView VNC ビューワが開きます。

7. コンピュータで、いくつかの操作を実行して、ターミナルを制御できていることを確認します。

8. 完了したら、PanelView VNC サーバを閉じます。

Web サーバの構成

Network Server Configuration ダイアログボックスの Web Server タブでは、HTTP Web アクティビティ用の設定を構成します。これらは標準の Microsoft Windows CE のパラメータです。



ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

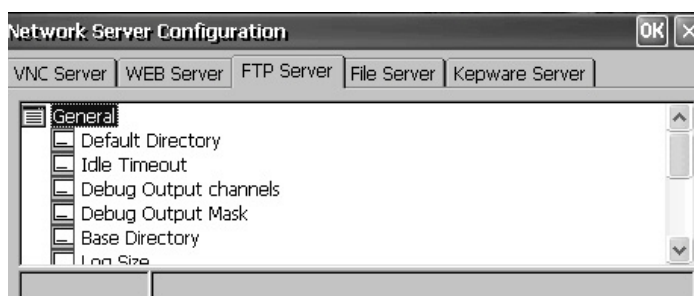
表 29 – Web Server パラメータ

パラメータ	説明	デフォルト
Admin Users	Web アクティビティの管理が許可されているユーザのリストを指定する。 チェックボックスがオンになっている場合は、ダイアログボックスの下部に表示されるフィールドに、ユーザ名のリストをセミコロンで区切って入力できる。	ADMIN
Basic Authentication	Webサーバへのアクセスでユーザ名とパスワードを必要とする場合はこのオプションのボックスをチェックする。	無効(チェック解除)
Default Web Page	ユーザがアクセスできるデフォルトのWebページを指定する。	default.htm;index.htm
Allow Directory Browsing	Webサーバ上のディレクトリをユーザが参照できるようにする場合はこのオプションのボックスをチェックする。	無効(チェック解除)
Max Connections	着信Web接続の最大数を指定する。	256
Log File Directory	ログファイルの格納先のパスを指定する。このファイルにはWebアクティビティが記録される。	\\windows\www
Max Log Size	ログ・ファイル・ディレクトリに格納されるログファイルの最大サイズを指定する。 現在のログファイルが最大サイズに達すると、新しいログファイルが作成される。	32768バイト
NTLM Authentication	Webサーバへのアクセスで有効なユーザ名とパスワードを必要とする場合は、このオプションのボックスをチェックする。 NTLM Authenticationが有効になっている場合は、Admin Usersフィールドに有効なユーザ名を入力する必要がある。 NTLMユーザアカウントは、コントロールパネルのUser Account Managerで定義される。	有効(チェックする)

FTP サーバ構成

Network Server Configuration ダイアログボックスの FTP Server タブでは、ネットワーク上でのファイル交換用の設定を構成します。これらは標準の Microsoft Windows CE のパラメータです。

デフォルトの FTP 構成では、すべてのユーザが、匿名でログインして FTP デフォルトディレクトリ (\Temp) からファイルをダウンロードすると、HMI ターミナルへの FTP コネクションを確立することができます。



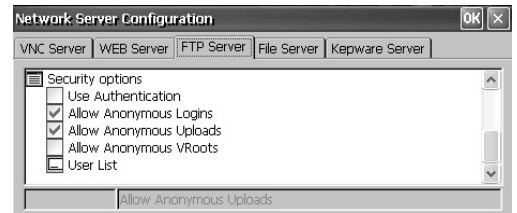
ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

表 30 – FTP Server パラメータ

FTPパラメータ	説明	デフォルト
General		
Default Directory	ファイルを転送するためにHMIターミナル上のファイルの格納場所を指定する。 ユーザが最初にFTPサーバに接続するときにアクセスするディレクトリ	\Temp\
Idle Timeout	データの転送中に非アクティブな状態の制御コネクションを閉じるまでの待ち時間(秒)を指定する。FTPセッションでは、ファイルの転送中に1つの制御コネクションと1つのデータコネクションが必要とされる。 タイムアウトを設定しないと、対応するクライアントが制御コネクションを閉じずにクラッシュした場合にFTPサーバプロセスがいつまでも待ち状態のまま放置される可能性がある。	300秒 (5分)
Debug Output Channels	デバッグ出力チャンネルの数を指定する。	2
Debug Output Mask	デバッグで使用される出力マスクのポート番号を指定する。	23
Base Directory	FTPログファイルと他のサポートファイルの格納先のパスを指定する。	\Windows
Log Size	FTPアクティビティを記録するファイルの最大サイズを指定する。ログファイルはベースディレクトリに格納される。 現在のログファイルが最大サイズに達すると、新しいログファイルが作成される。	4096バイト
Securityパラメータ		
Use Authentication	FTPサーバへのアクセスで有効なNTLMユーザ名とパスワードを必要とする場合はこのオプションのボックスをチェックする。 認証が有効になっている場合は、User Listフィールドに1つ以上の有効なユーザ名を入力する必要がある。 NTLMユーザアカウントは、コントロールパネルのUser Account Managerで定義される。	有効(チェックする)
Allow Anonymous Logins	すべてのユーザに、FTPサーバへの接続を許可する場合はこのオプションのボックスをチェックする。匿名ログインでは、ユーザ名とパスワードは必要とされない。	有効(チェックする)
Allow Anonymous Uploads	匿名でログインしているユーザがファイルをFTPサーバ(またはデフォルトディレクトリ)にアップロードする(書き込む)ことを許可する場合はこのオプションをオンにする。 チェックしていない場合、匿名でログインしているユーザは、サーバからファイルをダウンロード(コピー)できる。	無効(チェック解除)
Allow Anonymous Uploads	匿名でログインしているユーザが仮想ルートにアクセスすることを許可する場合はこのオプションのボックスをチェックする。	無効(チェック解除)
User List	FTPサーバにアクセスしてデフォルトディレクトリとの間でファイルを交換することを許可されるNTLMユーザを指定する。 チェックボックスがオンになっている場合は、ダイアログボックスの下部に表示されるフィールドに、NTLMユーザ名のリストをセミコロンで区切って入力できる。ユーザ名とパスワードは、コントロールパネルのUser Account Managerで定義される。	なし

FTP 匿名ログインとアップロード

以下の手順に従って、匿名ログインを許可し、ターミナル上のデフォルト FTP フォルダとの間でファイル転送を可能にすることで、ターミナルへの FTP 接続を確立してください。



ヒント Allow Anonymous Uploads ボックスをチェックしていない場合、ターミナル上のデフォルト FTP フォルダからファイルをコピーすることはできても、そのフォルダへファイルをコピーすることはできません。

1. Web ブラウザまたはコンピュータ上の任意のフォルダを開きます。

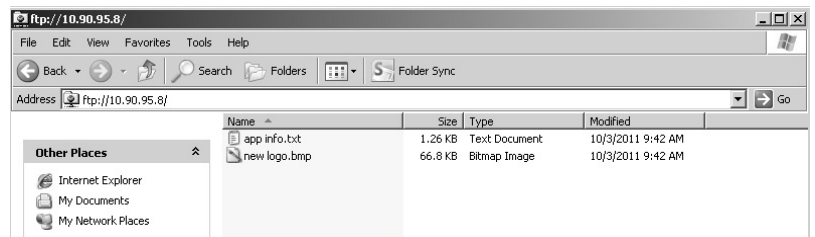


ヒント FTP コネクションを確立するには、ご使用の HMI ターミナルの IP アドレスが必要になります。IP アドレスを表示するには、システムトレイにあるネットワーク接続アイコンをクリックします。

2. 構文 `ftp://ipaddress_of_hmi_terminal` を使用して、アドレスフィールドにターミナルの IP アドレスを入力します。

`ftp://10.90.95.8`

ターミナル上の FTP デフォルトディレクトリである `\Temp` フォルダに対して匿名コネクションが確立します。このフォルダ内には2つのファイルが表示されます。



FTP コネクションをブラウザから起動する場合は、以下のようなビューが表示されることがあります。

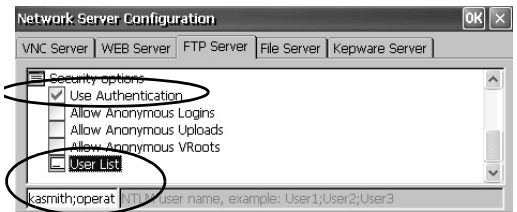


フォルダビューを表示するには、**Page** をクリックしてから、**File** メニューの **Open FTP site in Windows Explorer (Windows のエクスプローラで FTP サイトを開く)** を選択します。

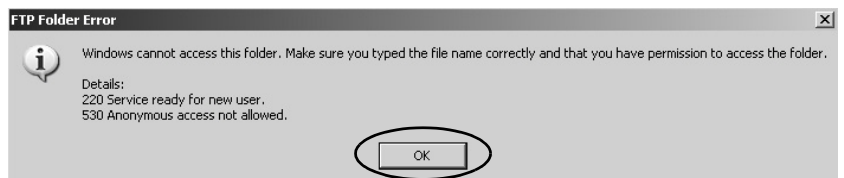
3. コンピュータと FTP フォルダ間でファイル転送を行ないます。
 - ファイルを FTP フォルダからコンピュータへドラッグまたはコピーする。
 - ファイルをコンピュータから FTP フォルダへドラッグまたはコピーする。

ユーザ認証を必要とするFTP コネクション

以下の手順に従って、最初に有効なユーザ名とパスワードを入力することで、ターミナルへのFTP コネクションを確立してください。



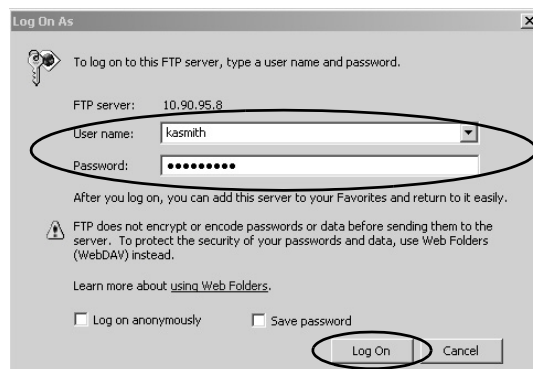
1. Web ブラウザまたはコンピュータ上の任意のフォルダを開きます。
2. 構文 `ftp://ipaddress_of_hmi_terminal` を使用して、アドレスフィールドに HMI ターミナルの IP アドレスを入力します。
`ftp://10.90.95.8`
3. FTP Folder Error ダイアログボックスが表示されたら OK をクリックします。



ブラウザからFTP コネクションを起動した場合は、Internet Explorer でこの Web ページを表示できないというメッセージが表示されることがあります。Windows Explorer で、Page → File → Open FTP の順に選択します。

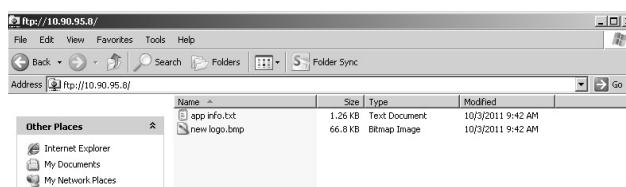
4. File メニューで、Login As を選択します。

User name フィールドには、FTP 構成の User List に入力されている最初のユーザ名が表示されます。



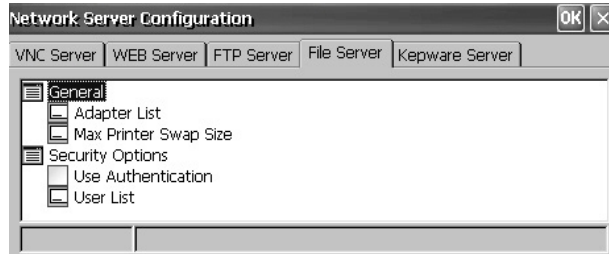
ヒント 入力するユーザ名は、FTP 構成の User List に含まれている必要があり、コントロールパネルの User Accounts で有効なアカウントとして事前に設定済みでなければなりません。

5. 有効なユーザ名とパスワードを入力し、Log On をクリックします。ターミナル上のデフォルト FTP ディレクトリが開きます。このフォルダとの間でファイル転送を行なうことができます。



ファイルサーバ構成

Network Server Configuration ダイアログボックスの File Server タブでは、ネットワーク上のコンピュータ間でファイル、プリンタ、シリアルポート、および各種通信への共有アクセスを可能にするための設定を指定します。これらは標準の Microsoft Windows CE のパラメータです。



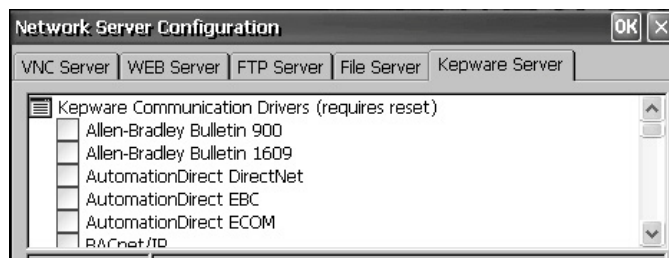
ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

表 31 – ファイルサーバ構成

パラメータ	説明	デフォルト
General		
Adapter List	有効なアダプタのリストを示す。	*(すべてのアダプタ)
Max Printer Swap Size	プリンタのスワップファイルの最大サイズを指定する。	4096バイト
Security Options		
Use Authentication	ファイルサーバへのアクセスで有効なNTLMユーザ名とパスワードを必要とする場合はこのオプションをオンにする。 認証が有効になっている場合は、User Listフィールドに1つ以上の有効なユーザ名を入力する必要がある。 NTLMユーザアカウントは、コントロールパネルのUser Account Managerで定義される。	無効(チェック解除)
User List	ファイルサーバへのアクセスを許可されている有効なNTLMユーザのリストを指定する。 チェックボックスがオンになっている場合は、ダイアログボックスの下部に表示されるフィールドに、NTLMユーザ名のリストをセミコロンで区切って入力できる。ユーザ名とパスワードは、コントロールパネルのUser Account Managerで定義される。	なし

KEPServer 構成

Network Server Configuration ダイアログボックスの KEPServer タブでは、接続されたデバイス用の Kepware 通信ドライバを選択できます。



ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。ユーザはさらに、ターミナルをリセットする必要もあります。

プリンタのサポート

ターミナルは、キヤノン社、エプソン社、ヒューレット・パッカード社、ブラザー社などの選択された USB プリンタに対応しています。適切なプリンタドライバが使用可能な場合は、プラグ & プレイ機能を使用したプリンタの自動インストールがサポートされ、また手動インストールもサポートされます。プリンタは、ターミナル上の USB ホストポートに接続できます。

サポートされているプリンタについては、ナレッジベース (<http://www.rockwellautomation.com/support/>) にアクセスし、Search Answers ボックスで ID 111636 を検索してください。



プリンタを構成および管理するには、ターミナルデスクトップのコントロールパネルにある Printers を使用します。プリンタのタイプごとのウィザードがサポートされています。

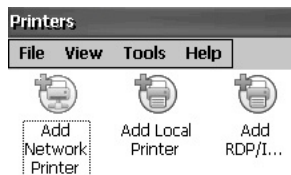


表 32 – プリンタのサポート

プリンタのタイプ	説明
Local USB	JETCETがサポートされているプリンタをUSBホストポートに接続できる。USBホストポートに接続されているプリンタは、リモートターミナル上のネットワークプリンタとして構成されている場合、そのリモートターミナルとの共有が可能である。
Network	ターミナルは、イーサネットポートを介してネットワークに接続されているリモートプリンタをサポートしている。この種のプリンタは、デバイス名またはIPアドレスによってアドレス指定できる。
RDP /ICA	ターミナル上のRDP (Remote Desktop Protocol)セッションで実行されているWindowsサーバアプリケーションに対してローカルプリンタを使用可能にすることができる。 ⁽¹⁾

(1) 拡張機能を備えた PanelView Plus 6 ターミナルのみに適用されます。

プリンタを構成し終わったら、デスクトップアプリケーションや FactoryTalk View ME Station の構成モードから Terminal Settings → Print Setup の順に押して、そのプリンタにアクセスできます。また、アプリケーションではプリンタの選択と共有を行なうこともできます。

プリンタの自動インストール

以下の手順に従って、Windows デスクトップからプラグ & プレイプリンタをインストールしてください。プリンタの手動インストールについては、[103 ページ](#)を参照してください。

ヒント この手順では、例として、ヒューレット・パッカード社の HP deskjet 5650 プリンタの自動プラグ & プレイインストールを取り上げます。

1. プリンタをターミナル上の USB ホストポートに接続します。
2. プリンタの電源コードをコンセントに差し込んで、プリンタの電源を投入します。

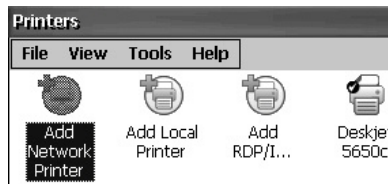
Windows がプラグ & プレイプリンタを検出したら、ほとんどの場合、ユーザによる選択操作を必要とせずにプリンタがインストールされます。

プリンタの印刷準備が完了します。

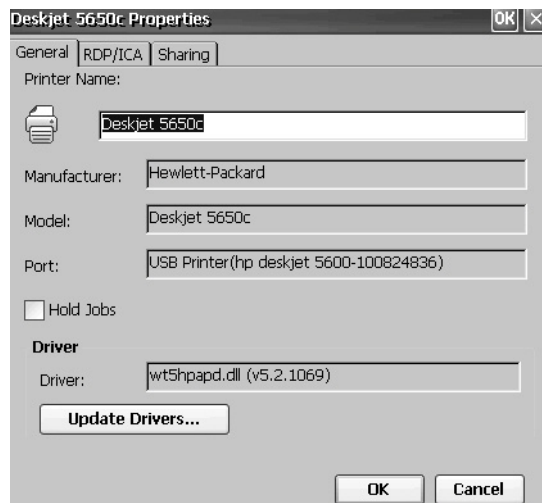
重要 自動プラグ & プレイインストールがプリンタでサポートされていない場合は、以下のエラーが、Hardware Monitor のシステム・イベント・ログに記録されます。
 'JETCET PRINT was unable to auto-configure printer. To manually configure printer, go to the Printers folder from the Control Panel.' (JETCET PRINT はプリンタを自動構成できませんでした。プリンタを手動で構成するには、コントロールパネルから Printers フォルダにアクセスしてください。)

3. デスクトップのコントロールパネルから Printers を開いてプリンタのインストールを確認します。

Deskjet 5650C プリンタのアイコンが表示されます。チェックマークは、このプリンタがデフォルトプリンタであることを示しています。



4. File メニューから、Properties を選択してプリンタのプロパティを表示します。

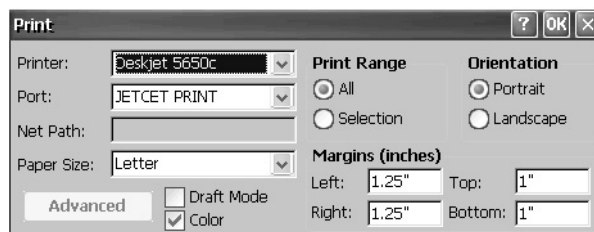


プリンタ構成には、プリンタ名、メーカー名とモデル、プリンタドライバ、およびポート固有のパラメータが含まれます。

- ヒント**
- 新しいプリンタ構成は、電源を切断後に再投入しても保持されます。
 - デスクトップのコントロールパネルを通じたプリンタ設定は、FactoryTalk View ME Station の構成モードで Terminal Settings → Print Setup の順に押すことでも実行できます。

5. プリンタを右クリックし、テストページを印刷してインストールを確認します。

WordPad などのアプリケーションから印刷するとき、必要に応じて印刷設定を調整できる Print ダイアログボックスが開きます。



プリンタの手動インストール

以下の手順に従って、サポートされているプリンタを手動で設定してください。

1. プリンタを USB ポートに接続します。
2. プリンタの電源コードをコンセントに差し込んで、プリンタの電源を投入します。
3. デスクトップのコントロールパネルから、Printers を開きます。
4. Add Local Printer をクリックします。



5. Add Local Printer Wizard の手順に従ってプリンタを構成します。
 - a. 接続されたプリンタが USB プリンタポート上に表示されることを確認します。
 - b. JETCET プリンタのメーカー名とモデルを選択します。
 - c. デフォルトのプリンタ名をそのまま使用するか、別の名前を入力します。
 - d. テストページを印刷して、インストールされたプリンタを確認します。
 - e. ネットワーク上でプリンタを共有するかどうかを指定します。

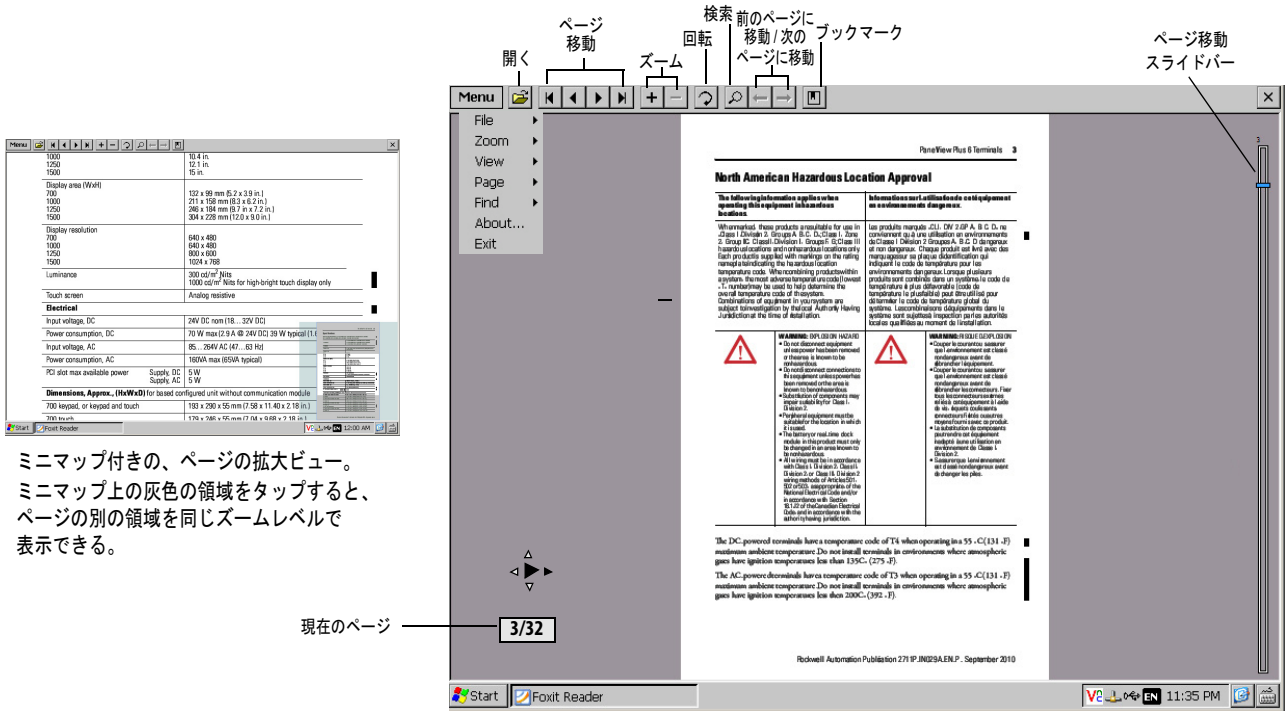
PDF リーダ



PDF リーダは、すべての PanelView Plus 6 ターミナルで使用でき、標準の PDF 表示および検索機能を備えています。PDF リーダは、Windows デスクトップまたはコマンドプロンプトから実行できます。

PDF ドキュメントを表示するときは、メニューまたはツールバーから機能を開始できます。オリジナルの PDF で作成されたしおりが Bookmarks に表示されます。

図 9 - PDF リーダのワークスペース



ミニマップ付きの、ページの拡大ビュー。ミニマップ上の灰色の領域をタップすると、ページの別の領域を同じズームレベルで表示できる。

現在のページ 3/32

ヒント キーボードが接続されている場合は、ページの移動に [Page Up] キーおよび [Page Down] キーを使用できます。キーパッドターミナルでは、Alt キーを押したまま、上/下カーソルキーを押します。

タッチスクリーンターミナルではタップまたはドラッグによって一部の表示機能を開始できます。

表 33 - タッチスクリーンでの操作

機能	操作	インジケータ
ズームインまたはズームアウト	ズームインを行なうには画面を1回タップする。 ズームアウトを行なうには画面をもう1回タップする。 メニューでView→Minimapの順に選択すると、ページの縮小ビューがワークスペースの右下に表示される。灰色の領域に触れてビューを変更できる。	
ページの移動	<ul style="list-style-type: none"> 次のページまたは前のページを表示するには、スタイラスまたは指を右方向/左方向にドラッグする。インジケータによって、ドラッグしている方向が表示される。ボックスに、現在のページ/総ページ数が表示される。 画面を上方向/下方向にドラッグして、右側にあるページ移動バーをアクティブにする。ページ移動を行なうには、スライドバーを上方向または下方向に動かす。 	 3/32 図8のページ移動バーを参照してください。
回転	ページを回転させるには、時計回りまたは反時計回りの回転方向にドラッグする。	

コマンド・プロンプト・パラメータ

PDF リーダを Windows コマンドプロンプトから実行するには、Start → Programs → Command Prompt の順に選択して、[表 34](#) に示されたコマンドパラメータを実行します。

コマンドプロンプトの構文

Foxitreader “ファイルパス/ファイル名 .pdf” パラメータ パラメータ値

- ファイルパスとファイル名を二重引用符で囲んで入力し、スラッシュを使用して、ファイル・パス・ディレクトリとファイル名を区切ります。
- パラメータとファイル、およびパラメータとオプションのパラメータ値を区切るには、スペースを使用します。

コマンドプロンプトの例

Foxitreader “windows/desktop/example.pdf” -p 4

このコマンドプロンプトは、Foxit Reader で example.pdf のページ 4 を開きます。

表 34 - コマンド・プロンプト・パラメータ

パラメータ	パラメータの機能	例	説明
-p	ページに移動	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -p 2	PDFファイルのページ2を開く。
-zw	画面幅に合わせる	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -zw	PDFファイルを開き、ページを画面幅に合わせて表示する。
-zp	画面にページ全体を表示する	Foxitreader “ファイル名.pdf” -zp	PDFファイルを開き、ページ全体を表示する。
-z	拡大/縮小	Foxitreader “ファイル名.pdf” -z 150	PDFファイルを開き、150%に拡大する。
複数のパラメータ	パラメータとパラメータ値の間にスペースを入力する。	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -p 2 -zw	PDFファイルのページ2を開き、ページを画面幅に合わせて表示する。
-b	ブックマークに移動	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -b “ブックマーク1”	Bookmark1内の指定された場所に移動してPDFファイルを開く。
-d	指定されたジャンプ先へ移動	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -b “Destination1”	Destination1内の指定された場所に移動してPDFファイルを開く。
G	メニューのFile→OpenコマンドおよびOpenフォルダボタンを無効にする。	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -g	PDFファイルを開き、メニューのFile→OpenコマンドとOpenボタンを淡色表示にする。

Notes:

コンポーネントの取付けおよび交換

項目	参照ページ
ロジックモジュールの取付けおよび交換	108
通信モジュールの取付けおよび交換	109
ディスプレイモジュールの交換	111
ベゼルの交換	112
バックライトの交換	114
バッテリーの交換	117
AC電源モジュールの取付け	119
製品IDラベルの除去	122
SDカードのロード	122
ディスプレイの清掃	123



注意：静電防止対策

この機器は、静電気の影響を受けやすいため、静電気によって内部が損傷し、通常の動作に影響が出ることがあります。

この機器を取り扱うときは以下のガイドラインに従ってください。

- 接地した物体に触れて、体内の静電気を放電してください。
- 適切に接地されたりリストバンドを着用してください。
- コンポーネントのボード上のコネクタまたはピンには触れないでください。
- 機器内部の回路部品には触れないでください。
- 静電気対策が取られているワークステーションを使用してください（入手可能な場合）。
- 機器を使用しない間は、適切な静電気対策が取られている梱包材に包んで保管してください。



感電の危険：コンポーネントの取付けまたは交換の前に、ターミナルからすべての電源を切断してください。電源を切断しないと、感電またはターミナルの損傷が発生する恐れがあります。

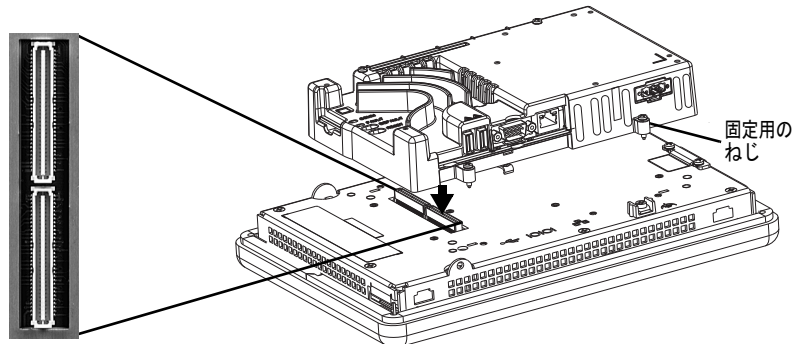
必要な工具

コンポーネントの一部を交換するために #1/#2 プラスドライバーが必要です。

ロジックモジュールの取付けおよび交換

1000 ターミナルのディスプレイモジュールとロジックモジュールは、現場での設置状況に応じて個別にコンポーネントを注文することができます。モジュールを個別にご注文いただく場合は、パネル取付け前にロジックモジュールをディスプレイモジュールに取付けてください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. きれいに片付いた安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてディスプレイモジュールを置きます。
3. ロジックモジュールとディスプレイモジュールのコネクタの位置を合わせて、ロジックモジュールをディスプレイモジュールの背面に置きます。



4. ロジックモジュールをしっかりとはまるまで押し込みます。
5. ロジックモジュールをディスプレイモジュールに固定するために、4つの固定用のねじを0.58Nm (5～7ポンドインチ)のトルクがかかるように締めます。

通信モジュールが取付けられている場合は、ロジックモジュールを交換する前に、先に通信モジュールを取り外す必要があります。

以下の手順に従って、ロジックモジュールを交換してください。

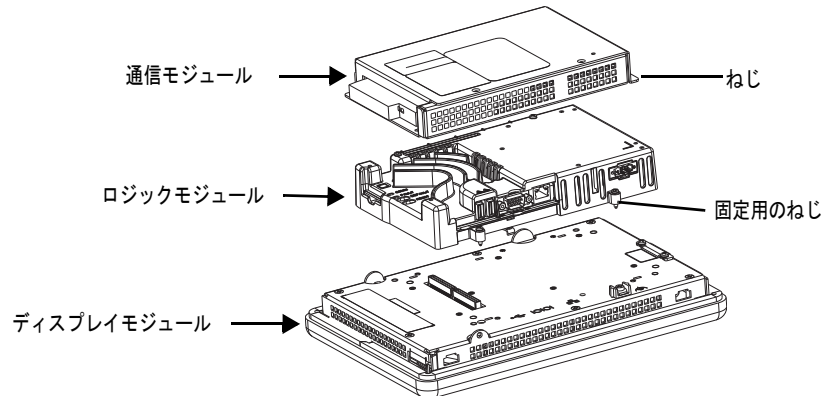
1. ターミナルの電源を切断します。
2. すべての電源ケーブルおよび通信ケーブルを切り離します。



警告：この機器またはネットワーク上の機器に電力が印加されている状態で、通信ケーブルの取付けまたは取り外しを行わないでください。危険な環境で取付けを行なうと、電氣的なアークによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されているか、または周辺が危険ではないことを確認してください。

3. きれいに片付いた安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてディスプレイモジュールを置きます。

- 通信モジュールが取付けられている場合は、4つの固定用のねじを外して通信モジュールをロジックモジュールから取り外し、別の場所に保管しておきます。



- ロジックモジュールをディスプレイモジュールに固定している4つの固定用のねじを緩めます。
- ロジックモジュールをディスプレイモジュールの背面から注意して持ち上げます。



注意：ロジックモジュール内部の電子部品に触るときは、適切に接地されたESDリストバンドを着用して作業してください。

- 新しいロジックモジュールを取付け、4つの固定用のねじを0.58Nm (5～7ポンドインチ)のトルクがかかるように締めます。
- 必要に応じて、通信モジュールを取付け、0.58Nm (5～7ポンドインチ)のトルクで4つのねじを締めます。

通信モジュールの取付け および交換

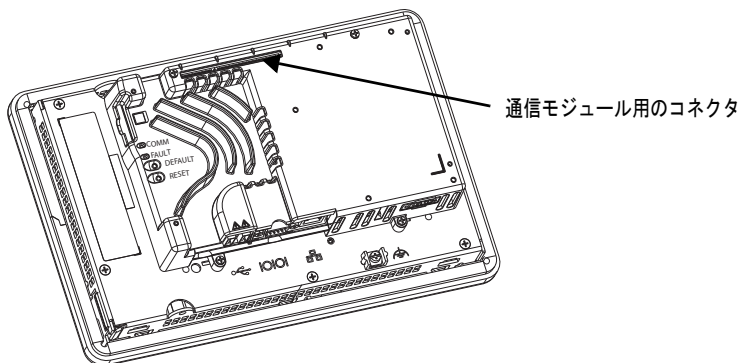
通信モジュールはロジックモジュールの上を取付けられます。1000ターミナルの通信モジュールは、現場での設置状況に応じて個別のカタログ番号でご注文いただけます。

ヒント 通信モジュールを取付ける前に、ロジックモジュールをディスプレイモジュールに取付けてください。

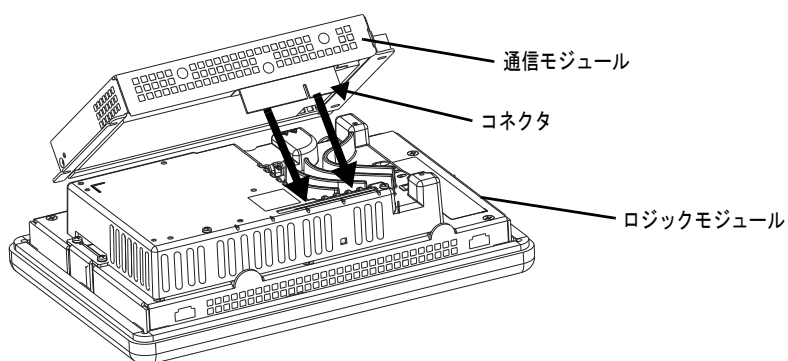
以下の手順に従って、通信モジュールを取付けてください。

- ターミナルの電源を切断します。

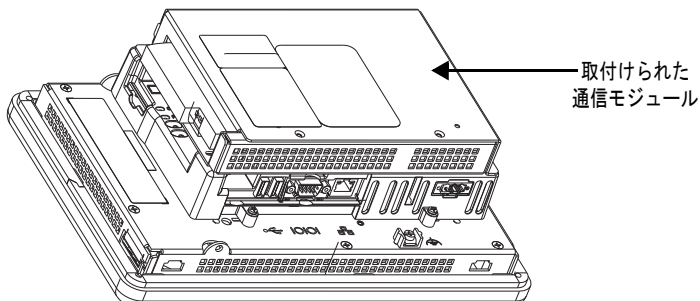
2. ディスプレイモジュールがパネルから取り外されている場合は、きれいに片付いた安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてターミナルを置きます。



3. 通信モジュールの底面にあるコネクタとロジックモジュールのコネクタの位置を合わせて、通信モジュールをロジックモジュールの上に置きます。
4. モジュールとモジュールの間で発生する ESD を防止するために、通信モジュールをロジックモジュールに接触させてから、接続を行なってください。



5. コネクタがしっかりと固定できるまで、通信モジュールを押し付けます。
6. 通信モジュールをロジックモジュールに固定するために、4つのねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。



以下の手順に従って、通信モジュールを交換してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. モジュールから通信ケーブルを外します。

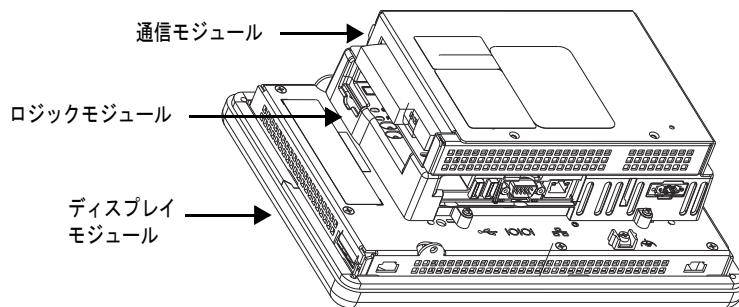


警告：この機器またはネットワーク上の機器に電力が印加されている状態で、通信ケーブルの取付けまたは取り外しを行わないでください。危険な環境で取付けを行なうと、電気的なアークによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されているか、または周辺が危険ではないことを確認してください。

3. 通信モジュールを固定している4個のねじを外します。
4. 通信モジュールをロジックモジュールから注意して持ち上げて外します。
5. [109 ページの「通信モジュールの取付けおよび交換」](#)のステップ4～6に従って、新しい通信モジュールを取付けます。

ディスプレイモジュールの交換

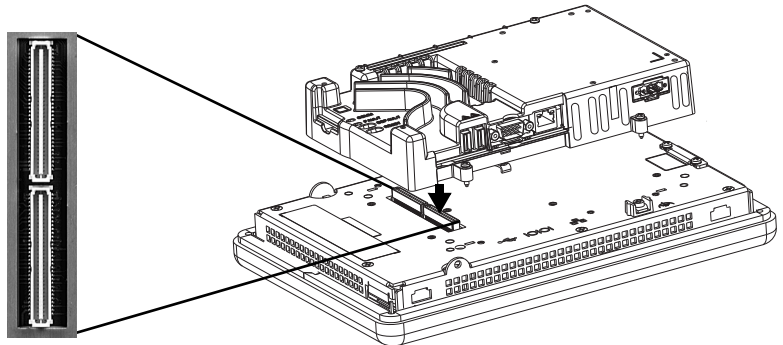
以下の手順に従って、1000 ディスプレイモジュールを交換してください。



以下の手順に従って、ディスプレイモジュールを交換してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. パネルからターミナルを取り外します。
3. 通信モジュールが取付けられている場合は、通信モジュールをロジックモジュールに固定している4つのねじを取り外します。
4. ロジックモジュールをディスプレイモジュールに固定している4つの固定用のねじを緩めます。
5. ロジックモジュールをディスプレイモジュールから注意して持ち上げます。
6. ディスプレイモジュールを別の場所に保管しておきます。

7. コネクタの位置を合わせて、ロジックモジュールを新しいディスプレイモジュールの上に置きます。



8. しっかりとハマるまでロジックモジュールを押し込みます。
9. ロジックモジュールをディスプレイモジュールに固定するために、4つの固定用のねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。
10. 必要に応じて、通信モジュールを取付けて、4つのねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。

ベゼルの交換

1000 ターミナルではベゼルを交換できます。700 タイプのターミナル以外では、ベゼルを取り外す前にロジックモジュールまたは通信モジュールを取り外す必要はありません。

ディスプレイモジュールのベゼルの取り外し

以下の手順に従って、ディスプレイモジュールのベゼルを取り外してください。

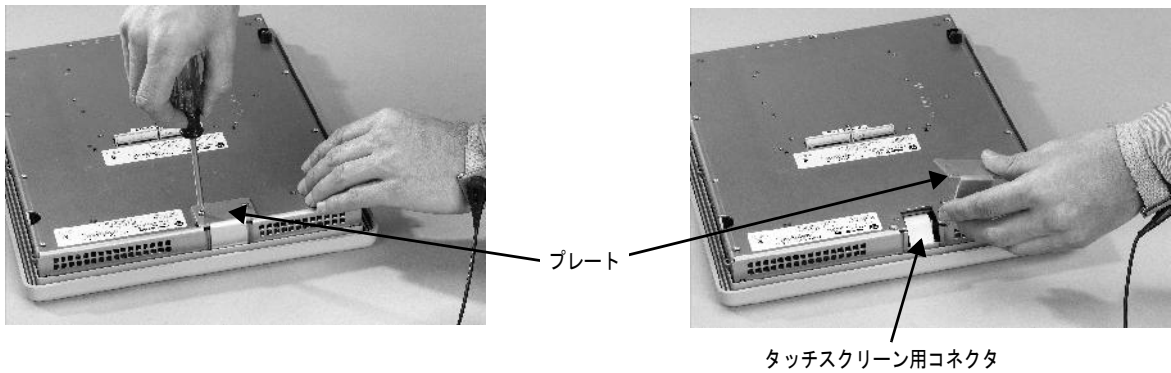
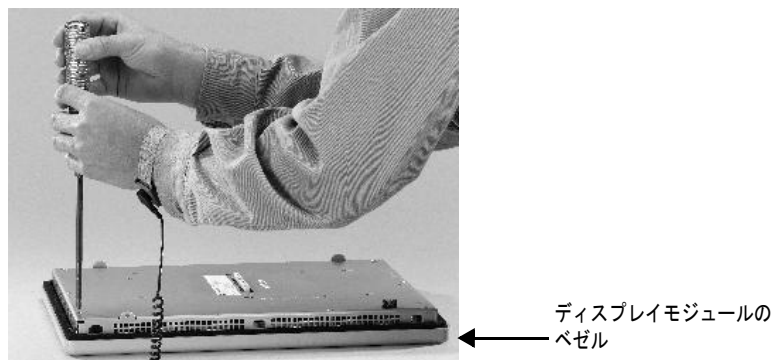
1. ターミナルの電源を切断します。
2. 安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてターミナルを置きます。



注意：ロジックモジュール内部の電子部品に触るときは、適切に接地された ESD リストバンドを着用して作業してください。

3. タッチスクリーンのみを備えているターミナルでは、小さな金属板をディスプレイモジュールの背面に固定している 2 つのねじを外します。

4. タッチスクリーン用コネクタを切り離します。

5. ディスプレイモジュールの背面のねじを外します。
ねじの数はターミナルのタイプごとに異なります。

6. シーリングガスケットを取り除きます。



7. ディスプレイモジュールの背面部をベゼルから持ち上げます。
ディスプレイをほこり、キズ、損傷から保護するために、きれいに片付いた安定した平らな場所で作業を行なってください。
8. コネクタを取り外します。
 - ファンクションキー用コネクタ
 - キーパッドまたはキーパッド/タッチユニットのコネクタ
9. ベゼルを別の場所に保管しておきます。

ディスプレイモジュールのベゼルを元通り取付けます。

以下の手順に従って、ディスプレイモジュールのベゼルを交換してください。

1. 取付ける前に、ベゼルにほこりやキズが付いていないことを確認します。
2. コネクタを取付けます。
 - ファンクションキー用コネクタ
 - キーパッドまたはキーパッド/タッチユニットのコネクタ
3. ディスプレイモジュールの背面部をベゼルの上に置きます。
ケーブルをはさまないように注意してください。タッチスクリーン用コネクタがアクセス用の開口部から突き出るようにします。
4. タッチスクリーン用コネクタを接続します。
5. 新しいシーリングガスケットを元通り装着します。
6. ディスプレイモジュールをベゼルに固定するために、ねじを 1.35 ~ 1.58Nm (12 ~ 14 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。
7. タッチスクリーンターミナルでは、ディスプレイモジュールの背面に小さな金属板を元通り取付け、2つのねじを 0.58 Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。

バックライトの交換

1000 CCFL ディスプレイモジュールには、交換可能なバックライトが搭載されています。交換用バックライトは、LED ディスプレイには利用できません。

表 35 – 交換用 CCFL バックライト⁽¹⁾

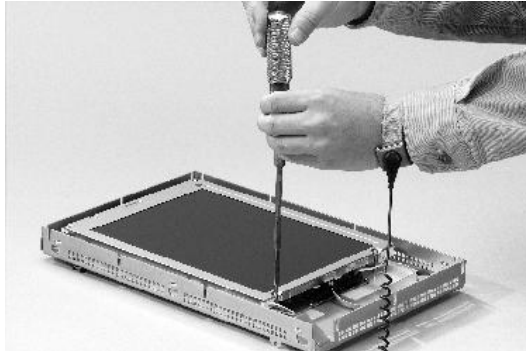
使用するCat. No.	PanelView Plus 6 ディスプレイ モジュールのサイズ	シリーズ	CCFLバックライトの数
2711P-RL10C	1000	A	1
2711P-RL10C2		BおよびC	1

(1) これらの交換用 CCFL バックライトのカタログ番号は、LED ディスプレイには当てはまりません。

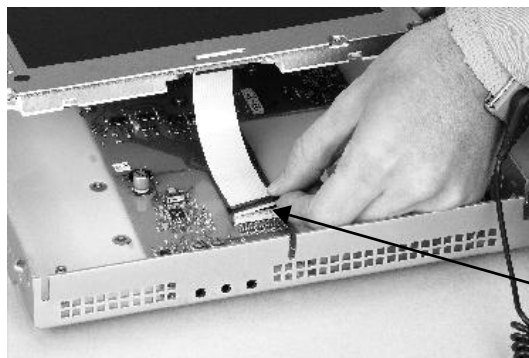
重要 廃棄：上記の製品のバックライトには水銀が含まれています。廃棄する場合は、適用される法規に従ってください。

以下の手順に従って、バックライトを交換してください。

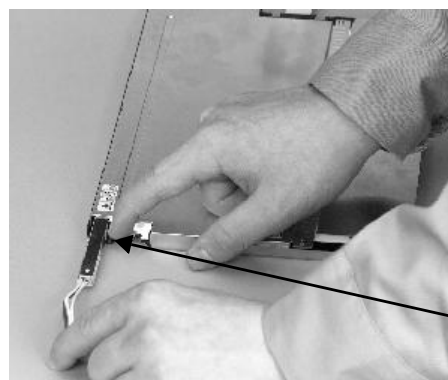
1. ターミナルの電源を切断します。
2. ディスプレイモジュールのベゼルを取り外します。
3. LCD ディスプレイを固定している4つのねじを外します。



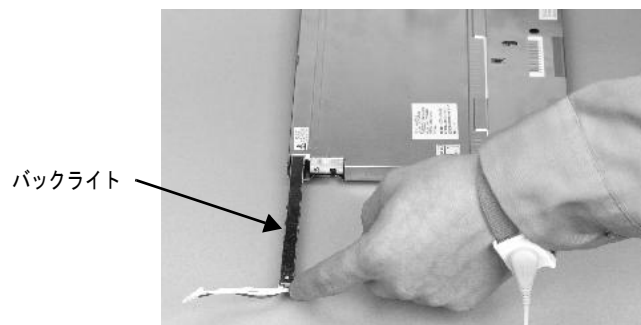
4. LCD ディスプレイを持ち上げて、回路基板からディスプレイ用コネクタを取り外します。



5. 回路基板からバックライト用コネクタを取り外します。
6. バックライトを固定している固定タブを押して、バックライトを引き出します。



7. 新しいバックライトを差し込みます。



8. 新しいバックライトを差し込み、前の手順で外した同じねじを 0.117Nm (1.04 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めて各バックライトを固定します。
9. LCD ディスプレイ用コネクタを回路基板に取付けます。
[ステップ 4](#) を参照してください。
10. バックライト用コネクタを回路基板に取付けます。
[ステップ 5](#) を参照してください。
11. 4 つのねじで LCD ディスプレイを固定します。
ねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。
12. ディスプレイモジュールのベゼルを元通り取付けます。

バッテリーの交換

製品には、リアルタイムクロックで使用されるリチウムバッテリーが内蔵されています。このバッテリーはバックアップまたは記憶には使用されません。



この製品には、製品のライフサイクル中に交換が必要となる密閉型リチウムバッテリーが含まれています。

本製品に含まれるバッテリーが使用済みになった際は、分別されない一般のごみとは別に回収される必要があります。

バッテリーの回収とリサイクルは、環境の保護に役立つとともに、貴重な資源を再利用することで天然資源の保全に役立ちます。



感電の危険：適切な安全対策に従わないと、重大な感電事故が起きたり、ターミナルが損傷する恐れがあります。



警告：この製品内のリチウムバッテリーまたはリアルタイム・クロック・モジュールを誤った方法で交換すると、爆発の危険があります。電源を切断し、周辺に危険がないことを確認するまでは、バッテリーまたはリアルタイム・クロック・モジュールを交換しないでください。

Cat.No. 2711P-RY2032 のバッテリーまたは同等のコイン型バッテリー CR2032 を使用してください。

リチウムバッテリーまたはリアルタイム・クロック・モジュールを火に投げ入れたり、焼却炉に廃棄してはなりません。使用済みのバッテリーは、地域で定められた規則に従って廃棄してください。

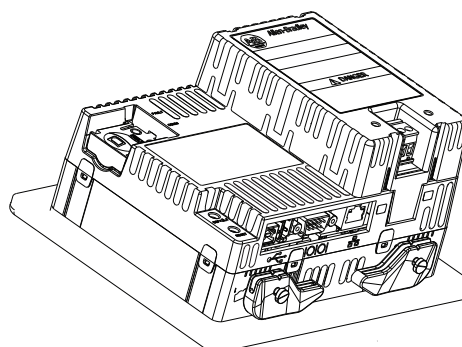
液漏れしているバッテリーの取扱いと廃棄をはじめとする、リチウムバッテリーの取扱いに関する安全情報は、『Guidelines for Handling Lithium Batteries』(Pub.No. [AG 5-4](#)) を参照してください。

400 および 600 ターミナル

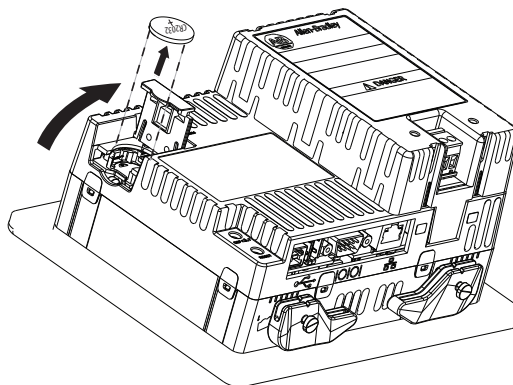
バッテリーはターミナルをパネルに取付けた状態で交換できます。バッテリーを取り外すのに、特別な工具は必要ありません。

以下の手順に従って、400 または 600 ターミナルのバッテリーを交換してください。

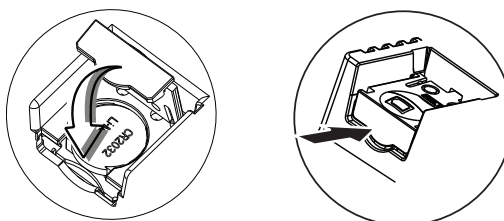
1. ターミナルの電源を切断します。
2. バッテリーカバーを手前に引き出してラッチを外します。



3. カバーを持ち上げます。
4. バッテリーを取り外します。



5. プラス (+) 極を上向きにして新しいバッテリーを取付け、カチッと音がしてバッテリーがはまるまで軽く押します。

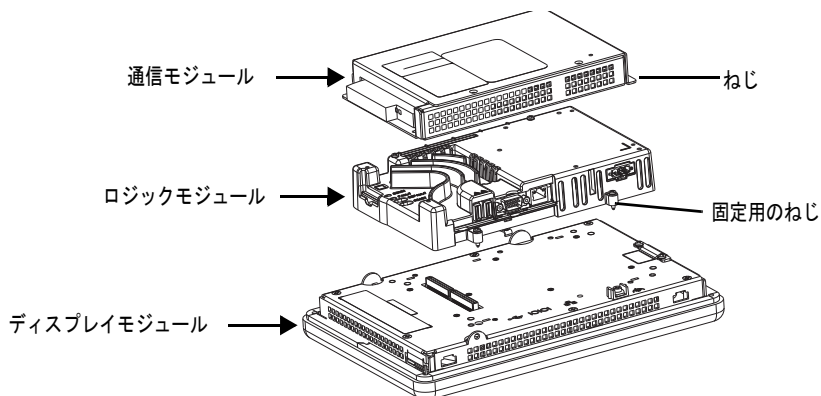


6. バッテリーカバーを閉めて、カチッという音がするまで端を押し込みます。

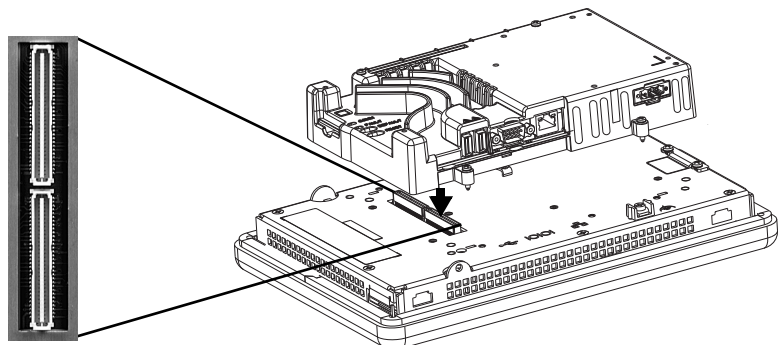
1000 ターミナル

以下の手順に従って、バッテリーを交換してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. 安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてターミナルを置きます。
3. 通信モジュールが取付けられている場合は、通信モジュールをロジックモジュールに固定している 4 つのねじを取り外します。
4. ロジックモジュールをディスプレイに固定している 4 つの固定用のねじを緩めます。



5. ロジックモジュールをターミナルから注意して持ち上げて、裏返してサーキットボードが見えるようにします。
6. 回路基板上のバッテリーの位置を確認します。
7. バッテリーの側面を持ち上げてバッテリーを外します。
バッテリーを外しても、約 15 秒間は時計やカレンダーのデータは失われません。
8. 新しいバッテリーを差し込みます。
9. ロジックモジュールの底面にある 2 つのコネクタとディスプレイモジュールの背面にあるコネクタの位置を合わせて、ロジックモジュールを元通り取付けます。



10. ロジックモジュールをしっかりとはまるまで押し込みます。
11. ロジックモジュールを固定するために、4 つの固定用ねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。
12. 必要に応じて、通信モジュールを取付け、0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクで 4 つのねじを締めます。

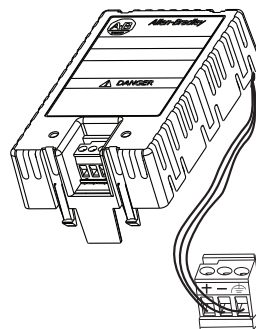
AC 電源モジュールの取付け

AC 電源モジュール (Cat. No. 2711P-6RSA) を DC 電源ターミナルの後ろ側に取付けると、ターミナルは DC 電源から AC 電源に変換されます。

表 36 – AC 電源定格

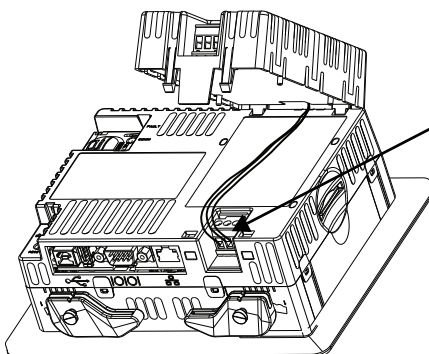
入力電圧	消費電力
AC100~240V (50~60Hz)	最大35VA

AC モジュールは、ターミナルがパネルに取付けられた状態のまま取付けることができます。特別な工具は必要ありません。

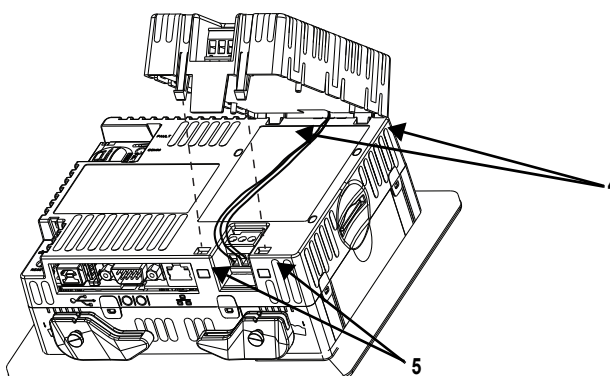


以下の手順に従って、AC 電源モジュールを接続し配線してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. ターミナルに現在取付けられている DC 電源端子台を取り外します。
[26 ページの「電源端子台の取り外しおよび取付け」](#)を参照してください。
3. AC 電源モジュールに接続されている DC 電源端子台をターミナルに差し込みます。



4. AC モジュールの 2 つの短いツマミをターミナルの裏面のスロットに挿入します。



5. 2 つの長いツマミがターミナルの反対側のスロットにパチッと止まるまでモジュールを押し下げます。
 モジュールがしっかり接続され、電源ワイヤがモジュールとターミナルの間に挟まっていないことを確認します。

以下の手順に従って、AC 電源を AC モジュールの端子台モジュールに接続してください。

1. AC 電源ワイヤを電源端子台のマークが付いている端子 (L1 および L2N) に固定します。

表 37 - 電源端子台のワイヤ仕様

ワイヤタイプ	デュアルワイヤのサイズ ⁽¹⁾	シングルワイヤのサイズ	剥く長さ	ねじの締め付けトルク
より線またはソリッド Cu 90°C(194°F)	0.3~1.3mm ² 22~16AWG	0.3~2.1mm ² (22~14AWG)	7mm (0.28 インチ)	0.45~0.56Nm (4~5ポンドインチ)

(1) 端子当たり最大 2 線

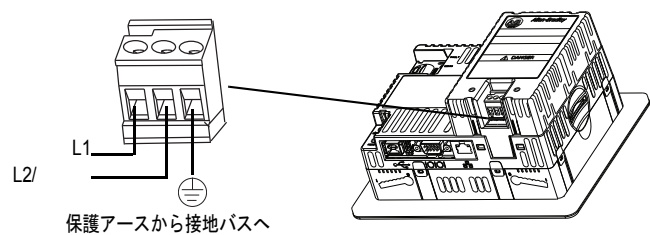
2. 保護アース / グラウンドワイヤを電源端子台のマークされた位置に接続します。



注意：保護アース端子は、低インピーダンスのアース / グラウンドに接続する必要があります。保護アースのグラウンド接続が義務付けられており、安全を確保し、法規制を遵守するために必要です。

表 38 – 保護アースのワイヤ仕様

記号	ワイヤタイプ	ワイヤゲージ	端子ねじの締め付けトルク
⊕	より線またはソリッド Cu 90°C(194°F)	2.1~3.3mm ² (14~12AWG)	0.45~0.56Nm (4~5ポンドインチ)



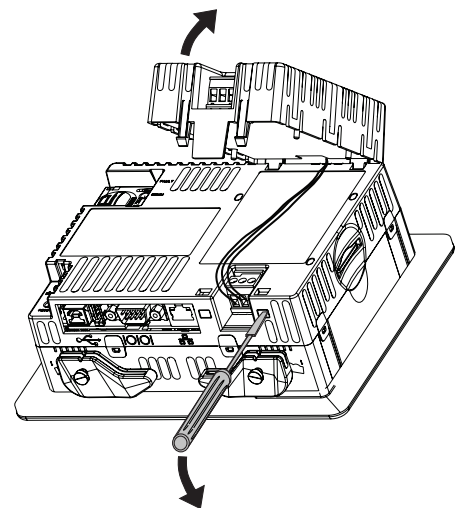
注意：電源端子台の配線を誤ると、通信コネクタシェルに電圧がかかることがあります。

すべての配線を接続するまで、ターミナルに電源を投入しないでください。これに従わない場合は、感電の恐れがあります。

3. ターミナルの電源を投入します。

以下の手順に従って、AC 電源モジュールを取り外してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. AC 電源端子台から電源ワイヤを取り外します。
3. 小型のマイナスドライバーを AC モジュールの下にある 2 つのスロットの 1 つに差し込んで、タブを押し上げてスロットから取り外します。
4. モジュールの前側を持ち上げて、後ろ側のタブを解除します。
5. DC 電源端子台と配線をターミナルから取り外します。



製品 ID ラベルの除去

ターミナルの製品 ID ラベルをカスタムラベルと交換します。

1. 指またはピンセットでアレン・ブラドリーのラベルをはがします。



2. ぬれた布またはイソプロピルアルコールで貼り付け場所を拭きます。
3. 新しいラベルの接着面をはがし、同じ場所に貼ります。

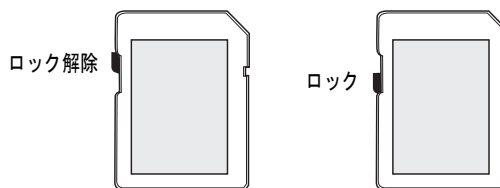
SD カードのロード

セキュアデジタル (SD) カードを SD カードスロットに差し込むと、格納容量を追加できます。サポートされているカードには Cat.No. 1784-SDx などがあります。SD カードはホットスワップ可能なので、ターミナルが動作中でも挿入したり、取り外したりすることができます。

SD カードスロットには内側から、またはターミナルが設置されているパネルの後ろからアクセスできます。

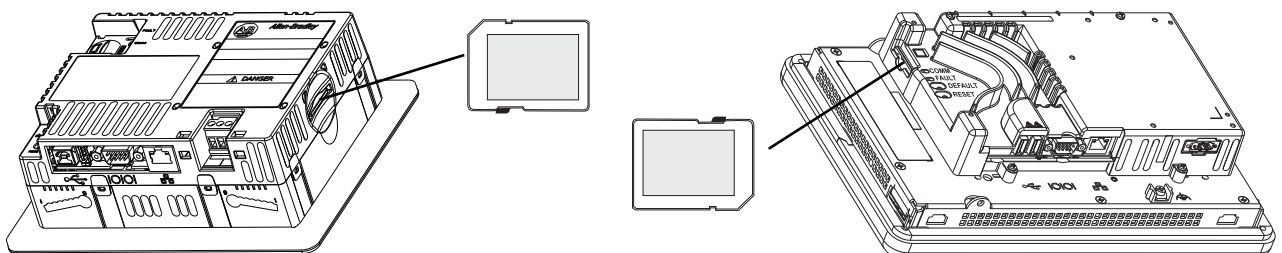
以下の手順に従って、SD カードをカードスロットに取付けてください。

1. 希望の運用に応じて SD カードがロックまたはロック解除されていることを確認します。
 - ロックが解除されている場合、ターミナルはカードのデータを読み書きできます。
 - ロックされている場合、ターミナルはカードのデータを読み取るのみ可能です。



注意: スロットに挿入する前に SD カードを正しい向きにする。スロットにカードを無理やり押し込むと、カードやターミナルが損傷することがある。

2. カチッというまで SD カードをスロットにしっかり挿入します。



カードをスロットから取り出すには、SD カードを押して外します。

- ヒント**
- SD カードのボリューム名は Storage Card2、Storage Card3... のようになります。
 - SD カードのボリュームと物理的特性は、他の PanelView Plus 製品で使用されている CompactFlash カードに適合しています。CompactFlash カード内のアプリケーションは SD カードに移行することができます。

ディスプレイの清掃

保護用の反射防止オーバーレイを使用すると、ディスプレイの画面を清掃しやすくなります。



注意：研磨性の洗浄剤や溶剤は、ディスプレイを損傷させることがあります。ディスプレイをごしごし磨いたり、ブラシを使用したりしないでください。

以下の手順に従って、ディスプレイの画面を清掃します。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. 清潔なスポンジまたは柔らかい布と、低刺激性の石けんまたは洗剤を使用して、ディスプレイを清掃します。
3. セーム皮または湿ったセルローススポンジでディスプレイを拭いて、水濡れを防ぎます。

イソプロピルアルコール (70% の濃度) で軽く拭いて乾かす前に、新たに付いた塗料のはねやグリースを拭き取ってください。その後で、低刺激性の石けんまたは洗剤を使用してディスプレイを洗浄し、きれいな水ですすぎます。

Notes:

接続および通信

項目	参照ページ
USBポート	126
イーサネット接続	127
シリアル接続	129
コントローラ接続	132



注意：配線および安全に関するガイドライン

デバイスの配線を行なう場合は、NFPA 70E 『Electrical Safety Requirements for Employee Workplaces』、IEC 60364 『Electrical Installations in Buildings』、または設置する国の他の適合する配線の安全要件を参照して使用してください。NFPA ガイドラインの他に、以下の点にもご注意ください。

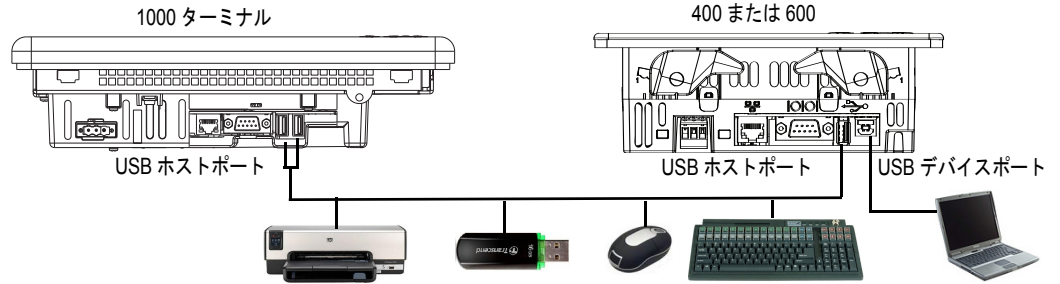
- 通信ケーブルは、入力電源とは異なる経路で機器まで配線してください。同じ配線管内で信号配線と電源配線を行なわないでください。
- 電力線および通信線を交差しなければならないときは、垂直交差になるようにしてください。
- 通信線は、低レベル DC I/O 回線 (10V 未満) と同じ配線管に入れることができます。
- 電磁干渉 (EMI) を防止するために、ケーブルを適切にシールドし、接地してください。接地処理は、EMI によるノイズを最小限に抑える手段であり、電気設備における安全対策です。

推奨される接地方法については、米国消防協会 (NFPA) が公表する米国電気工事規定 (NEC) を参照してください。

USB ポート

すべてのターミナルには 1 つの USB 2.0 ホストポートがあり、400 および 600 ターミナルには 1 つの USB 2.0 デバイスポートがあります。

図 10 – USB ポート



重要 USB ホストおよびデバイスポートは一時的な利用のみを目的としており、実行時の操作には使用されません。

表 39 – USB 機器のサポート

USBポートタイプ	サポートされているUSB機器	ヒント
ホストポート (タイプA)	<ul style="list-style-type: none"> キーボードまたはマウス、ネイティブ・デバイス・ドライバのあるHIDデバイス 外付けストレージ用のUSBドライブ サポートされているプリンタ カメラ、モデム、バーコードリーダー 	互換性のあるデバイスのリストについては、ナレッジベース (http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase) にアクセスしてID 115072を検索してください。USBドライブのボリューム名はUSB Storage、USB Storage2、... のようになります。USBドライブのパーティションは、コントロールパネルのStorage Managerによって管理されます。
デバイスポート (タイプB、400および600ターミナルのみ)	USBリモートRNDISネットワーク・デバイス・ドライバがインストールされているホストコンピュータ	コンピュータにUSBリモートNDISドライバをインストールして、USB接続用にターミナルを構成する方法については、ナレッジベース (http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase) にアクセスしてID 115608を検索してください。

重要 USB ホストポートと USB 周辺機器を危険な領域で使用する場合は、[19 ページ](#)の情報を参照してください。

USB ポートは USB アイコンによって識別されます。各 USB ホストポートは、DC5V のときに 0.5A をサポートします。接続された USB デバイスがこの電力負荷を超えないようにしてください。

表 40 – USB コネクタのピン配列

USBアイコン	USBポート	ピン	信号	説明
		1	VCC	+5V
		2	D-	データ-
		3	D+	データ+
		4	GND	グラウンド(接地)

エラーなく伝送するには、高速 USB 2.0 認定のケーブルのみを使用してください。



警告: USB ポートから電源を供給されていない USB デバイスは、ターミナルと同じエンクロージャ内に取付ける必要があります。USB 機器はターミナルと同じ接地システムに接続し、ガルバニ絶縁を提供する USB ハブと使用する必要があります。

ターミナルには外部電源から給電される USB ハブのみを使用します。USB ハブにデバイスを取付ける前に、電源アダプタが接続され電源が投入されていることを確認してください。

イーサネット接続

イーサネットポートは、標準イーサネットおよびネットワーク接続を使用して EtherNet/IP ネットワーク上のコントローラに接続します。イーサネットポートは、アプリケーション転送と印刷もサポートしています。

ヒント 別のイーサネットポートが必要な場合は、2711P-RN20 イーサネット通信モジュールを 1000 ターミナルに使用できます。このモジュールは各自固有の IP アドレスを持ちます。

イーサネットコネクタ

イーサネットポートは、ネットワーク通信用に RJ45、10/100Base-T コネクタを持ち、MDI/MDI-X 接続をサポートしています。

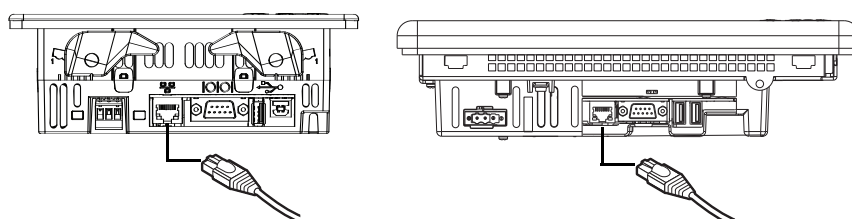


表 41 – イーサネットコネクタのピン配列

コネクタ	ピン	ピン名	ピン	ピン名
RJ45コネクタ 	1	送信+	5	未使用
	2	送信-	6	受信-
	3	受信+	7	未使用
	4	未使用	8	未使用

表 42 – イーサネット・ステータス・インジケータ

インジケータ	色	説明
リンクの整合性	黄色	リンクが存在するときに点灯する
アクティビティ	緑色	イーサネットリンクでアクティビティが検知されると点滅します。

イーサネットケーブル

表 43 – イーサネットケーブルの要件

対象ターミナルモデル	使用するイーサネットケーブル
1000ターミナル	船舶放出規制およびEU 89/336/EEC EMC指令に適合するために、TIA 568-B.1に準拠したBelden 7921Aシールドのカテゴリ5eケーブルと、IEC 60603-7に準拠したRJ45コネクタ。
400および600ターミナル	カテゴリ5のより線ケーブルを使用。 ロジックコントローラまたはスイッチに直接接続する場合は、Cat.No. 2711P-CBL-EX04などの標準イーサネットケーブルまたはクロスオーバーケーブルを使用できる。

イーサネットポートとイーサネットハブ（リピータまたはファイバーなし）の 10/100 Base-T ポートとの間の最大ケーブル長は、100m (328 フィート) です。



警告： この機器またはネットワーク上の機器に電力が印加されている状態で、通信ケーブルの取付けまたは取り外しを行なわないでください。危険な環境で取付けを行なうと、電気的なアークによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されているか、または周辺に危険がないかを確認してください。

セキュリティに関する注意事項

IGMP(Internet Group Management Protocol) は、IPv4 マルチキャスト用のプロトコルです。マルチキャストとは、ネットワーク上の単一の送信機と複数の受信機との間で行なわれる通信です。IGMP は、マルチキャストをサポートする IPv4 ルータとマルチキャストグループのメンバー間でメンバーシップ・ステータス・データをやり取りするために使用されます。ルータは、ネットワーク内でメッセージパケット用の最も効率的なルートを検出するか、サブネットワーク間でパケットをルーティングすることによって通信ネットワーク上でメッセージの配信を迅速化する中継デバイスです。サブネットワークは、IP アドレス指定を通じて識別される組織のネットワークに属する個別の部分です。

PanelView Plus ターミナルは、RFC 1112 および RFC 2236 に記載の通り、IPv4 マルチキャスト (IGMP バージョン 2) に対するレベル 2 (フル) サポートを提供します。

SNMP (Simple Network Management Protocol) は、内部ネットワーク管理用のプロトコルであり、サポートされていません。

通常、ポート 137 と 138 は、他の Microsoft および IBM ネットワーク・オペレーティング・システムと同様に Windows CE.NET で使用される NetBIOS プロトコルをサポートするために開放されています。

シリアル接続

RS-232 シリアルポートは多目的に使用でき、以下の接続をサポートしています。

- シリアル接続を介した DH-485 通信
- 直接接続またはモデム接続を使用した、コントローラとの DF1 全二重通信
- サードパーティのポイント・ツー・ポイント通信
- アプリケーション転送と印刷

シリアルポートは、9 ピンオス型 RS-232 コネクタです。ピン配列の説明およびこれらのピンのコントローラ上のシリアルポートへの対応を [表 44](#) に示します。

シリアル接続の最大ケーブル長は 15.24m (50 フィート) です。

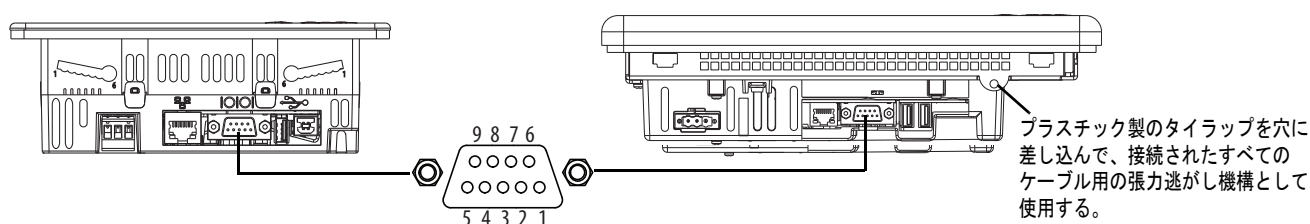


表 44 – RS-232 シリアル・ポート・コネクタのピン配列

PanelView Plus 6 Compact RS-232ポート 9 ピン DCE		SLCまたはLogix 9ピン	PLC 25ピン	MicroLogix/ ENI 8ピンDIN
1				
2	RXD →	2	3	4
3	← TXD	3	2	7
4	← DTR	4	20	
5	← COM →	5	7	2
6	→ DSR	6	6	
7	← RTS	7	4	
8	→ CTS	8	5	
9				
コネクタシェル	シャーシGND			

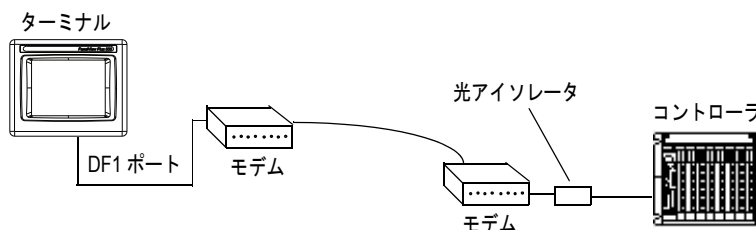


警告：ターミナルに電源が供給されている状態、またはシリアルデバイスがターミナルに接続された状態で、通信ケーブルを接続したり、抜いたりしないでください。危険な環境で取付けを行なうと、電気的なアークによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されているか、または周辺に危険がないかを確認してください。

モデム接続

ターミナルとコントローラ間で有線または無線モデム接続が可能です。各モデムは全二重通信をサポートしている必要があります。設定および構成に関する詳細は、ご使用のモデムのユーザーズマニュアルを参照してください。

図 11 – モデム接続



ヌル・モデム・ケーブルの構成

ヌル・モデム・ケーブルを構成するには、以下のピン配列を参照してください。

表 45 – ナルモデムのピン配列

ピンの説明	PanelView Plus Compact 6 9ピン	9ピンモデム	PanelView Plus Compact 6 9ピン	25ピンモデム	ピンの記号
FG (フレームグラウンド)	-	-	-	1	FG
TD (データ送信)	3	2	3	3	RD
RD (データ受信)	2	3	2	2	TD
RTS (送信要求)	7	8	7	5	CTS
CTS (送信クリア)	8	7	8	4	RTS
SG (信号グラウンド)	5	5	5	7	SG
DSR (データ・セット・レディ)	6	4	6	20	DTR
DTR (データ端末レディ)	4	6	4	6	DSR

コンピュータ接続

RS-232 シリアルポートは、ターミナルとコンピュータ間の直接接続を使用した、アプリケーションのアップロード/ダウンロードをサポートしています。

図 12 - コンピュータへのシリアルポート接続

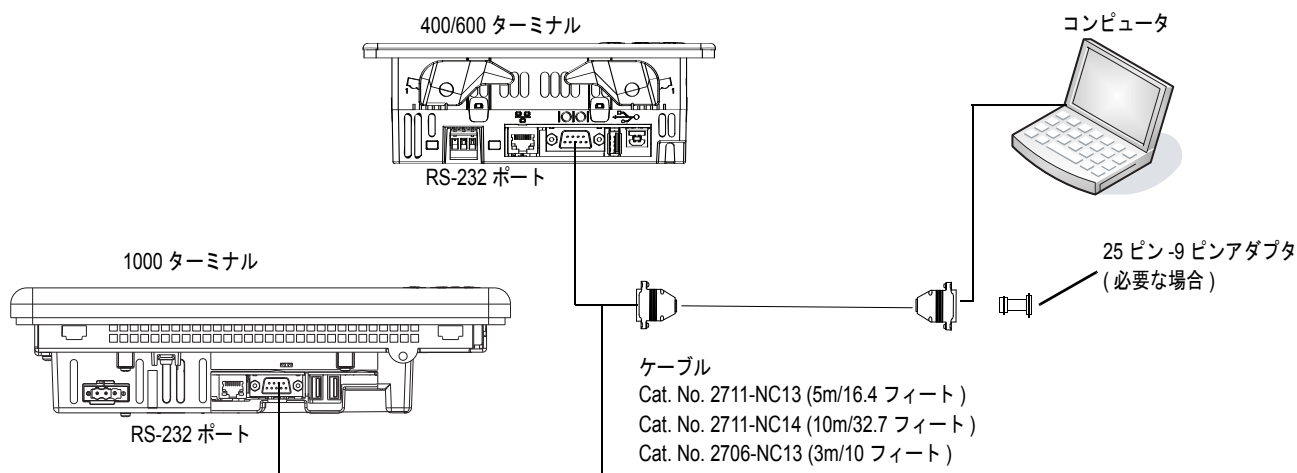


表 46 - ハンドシェイクを使用するアップロード/ダウンロードケーブル

PanelView Plusポート (DCE)	9ピン/オス	ハンドシェイクを使用する コンピュータポート (DTE)	9ピン/オス
	1 NC		1 DCD
	2 $\xrightarrow{\text{RXD}}$		2 RXD (データ受信)
	3 $\xleftarrow{\text{TXD}}$		3 TXD (データ送信)
	4 NC		4
	5 $\xleftrightarrow{\text{COM}}$		5 COM
	6 (+12Vまで上昇) $\xrightarrow{\text{DSR}}$		6 DSR
	7 $\xleftarrow{\text{RTS}}$		7 RTS
	8 $\xrightarrow{\text{CTS}}$		8 CTS
	9 NC		9 NC

表 47 - ハードウェアのハンドシェイクを使用しないアップロード/ダウンロードケーブル

PanelView Plusポート (DCE)	9ピン/オス	コンピュータ ポート (DTE)	9ピン	25ピン
	2 $\xrightarrow{\text{RXD}}$		2	3
	3 $\xleftarrow{\text{TXD}}$		3	2
	5 $\xleftrightarrow{\text{COM}}$		5	7

コントローラ接続

以下の表48から表51に、コントローラおよびインターフェイスモジュールへの PanelView Plus 6 Compact 接続についてのまとめを示します。

表 48 – 通信ケーブル : PanelView Plus 6 Compact ターミナルから SLC コントローラに接続

プロトコル	PanelView Plus 6 Compact ポート	SLC 500, 5/01, 5/02 CH1 RJ45 (DH-485)	SLC 5/03, 5/04, 5/05 CH0 (9ピンRS-232) (DF1またはDH-485)	SLC 5/03 CH1 (RJ45) (DH-485)	SLC 5/04 CH1 (DH+)	SLC 5/05 CH1 (ENET)
DF1	RS-232 (DF1)ポート (9ピン) すべてのターミナル	—	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	—	—	—
DH-485	RS-232 (DH-485)ポート (9ピン) すべてのターミナル	AIC+モジュール (1761-NET-AIC)を使用してポート1または2に接続する。	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	AIC+モジュール (1761-NET-AIC)を使用してポート1または2に接続する。	—	—
	DH-485ポート (1000ターミナルのみ) 2711P-RN6, 2711P-RN6Kが必要	1761-CBL-AS03 (3m/10フィート) 1761-CBL-AS09 (9m/30フィート)	AIC+モジュール (1761-NET-AIC)を使用してポート3に接続する。	1761-CBL-AS03 (3m/10フィート) 1761-CBL-AS09 (9m/30フィート)	—	—
EtherNet/IP	EtherNet/IPポート すべてのターミナル 2711P-RN20は、追加ポートを提供 (1000ターミナルのみ)	—	1761-NET-ENIモジュールをイーサネットケーブルで使用する。	—	—	1585J-Mタイプケーブルまたは 2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート)

表 49 – 通信ケーブル : PanelView Plus 6 Compact ターミナルから PLC-5 および MicroLogix コントローラに接続

プロトコル	PanelView Plus 6 Compact ポート	PLC-5, PLC-5C, PLC-5E CH0 (25ピンRS-232) (DF1)	MicroLogix 1400, 1500LRP CH1/CH2 (9ピンRS-232) (DF1またはDH-485)	MicroLogix 1000, 1100, 1200, 1400, 1500LSP CH0 (8ピンMini DIN) (DF1またはDH-485)	MicroLogix 1100, 1400 イーサネット
DF1	RS-232 (DF1)ポート (9ピン) すべてのターミナル	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート) (9ピン-25ピンアダプタが必要)	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	2711-NC21 (5m/16フィート) 2711-NC22 (15m/49フィート) ⁽¹⁾	—
DH-485	RS-232 (DH-485)ポート (9ピン) すべてのターミナル	—	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	2711-NC21 (5m/16フィート) 2711-NC22 (15m/49フィート)	—
	DH-485ポート (1000ターミナルのみ) 2711P-RN6, 2711P-RN6Kが必要	—	—	AIC+モジュール (1761-NET-AIC)を使用してポート3に接続する。	—
EtherNet/IP	EtherNet/IPポート すべてのターミナル 2711P-RN20は、追加ポートを提供 (1000ターミナルのみ)	PLC-5Eへ 1585J-Mタイプケーブルまたは 2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート)	1761-NET-ENIモジュールをイーサネットケーブルで使用する。		1585J-Mタイプケーブルまたは 2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート) ⁽¹⁾

(1) ターミナルとコントローラが同じ電源を使用しないときは、絶縁のために AIC+ モジュールを使用することをお勧めします。

表 50 – 通信ケーブル : PanelView Plus 6 Compact ターミナルから Logix コントローラに接続

プロトコル	PanelView Plus 6 Compact ポート	ControlLogix CH0 (9ピンRS-232) (DF1)	CompactLogix CH0 (9ピンRS-232) (DF1またはDH-485)
DF1	RS-232 (DF1)ポート (9ピン) すべてのターミナル	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート) 2706-NC13 (3m/10フィート)	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート) 2706-NC13 (3m/10フィート)
DH-485	RS-232 (DH-485)ポート (9ピン) すべてのターミナル	—	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート) 2706-NC13 (3m/10フィート)
	DH-485ポート (1000ターミナルのみ) 2711P-RN6, 2711P-RN6Kが必要	—	AIC+モジュール (1761-NET-AIC)を使用してポート3に接続する。
EtherNet/IP	EtherNet/IPポート すべてのターミナル 2711P-RN20は、追加ポートを提供 (1000ターミナルのみ)	1756-EN2Tまたは1756-ENBTモジュールを 1585J-Mタイプケーブルまたは 2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート)	1585J-Mタイプケーブルまたは2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート)を使用して、1769-L35E, 1769-L23E, 1769-L32E, または1768-ENBTモジュールを接続

表 51 – 通信ケーブル : PanelView Plus 6 Compact ターミナルからインターフェイスモジュールに接続

プロトコル	PanelView Plus 6通信ポート	1747-AIC	(1761-NET-AIC)を使用して			1761-NET-ENI
			ポート1 (9ピン)	ポート2 (8ピンMini DIN)	ポート3 (DH-485)	ポート2 (8ピンMini DIN)
DF1	RS-232ポート(9ピン) すべてのターミナル	—	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	2711-NC21 (5m/16フィート) 2711-NC22 (15m/49フィート) ヌルモデムが必要	—	1761-CBL-AP00 (5m) 1761-CBL-PM02 (2m) 2711-CBL-PM05 (5m) 2711-CBL-PM10 (10m)
DH-485	RS-232ポート(9ピン) すべてのターミナル	—	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	2711-NC21 (5m/16フィート) 2711-NC22 (15m/49フィート) ヌルモデムが必要	—	—
	DH-485ポート 1000ターミナルのみ 2711P-RN6、2711P-RN6Kが必要	1つのAICに Belden 9842ケーブル で直接接続 ⁽¹⁾	—	—	1つのAIC+へ Belden 9842ケーブルで 直接接続 ⁽¹⁾	—

(1) DH-485 ネットワークソリューションには、AIC+ モジュール付きの PanelView Plus 6 ターミナルのシリアルポートを使用します。

Notes:

ファームウェアのアップグレード

項目	参照ページ
ターミナルのファームウェア	135
ファームウェアファイルのダウンロード	136
ファームウェア・アップグレード・ウィザード	137
ストレージデバイスからのターミナルのファームウェアのアップグレード	137
ネットワークを介するターミナルのファームウェアのアップグレード	140

ターミナルのファームウェア

ファームウェアコンポーネントは、1つのシステムコード(SC) .img ファイル内に XIP(execute-in-place) リージョンとしてパッケージ化されています。この SC .img ファイルをターミナルの仮想ファイルシステム(VFS)にコピーすると、ターミナルの XIP リージョンが更新され、ターミナルが自動的に再起動されます。以下のファームウェアコンポーネントがアップグレード時の対象になります。

- FactoryTalk View Machine Edition Station ソフトウェア
- 通信プロトコルおよびドライバ (Kepware ドライバを含む)
- Windows フォント
- WindowsCE コンポーネント
- FactoryTalk コンポーネント
- ユーザによる機能拡張

以下のターミナルのコンポーネントまたは設定は、ファームウェアのアップグレードの対象とはなりません。

- Windows レジストリ
- ターミナルにロードされている FactoryTalk View Machine Edition アプリケーションを含むファイルシステム
- ネットワークデバイス名、DHCP 対応 / 静的 IP アドレス、速度、二重設定などのネットワークパラメータ
- ディスプレイ設定
- スクリーンセーバ構成
- タッチスクリーンのキャリブレーション

ファームウェアファイルのダウンロード

ロックウェル・オートメーションの Web サイトから適切なファームウェア・インストール・パッケージをダウンロードします。このパッケージの名前は以下の通りです。

PVP6_<ターミナルファミリー>_6.x-yyyymmdd.exe。この場合、

- <ターミナルファミリー> は、400 ～ 600 または 1000 です。
- 6.x は、このパッケージに含まれている FactoryTalk View ME ソフトウェアのバージョンです。
- yyyymmdd は、パッケージの作成日 (年、月、日) です。

このインストールパッケージの内容は以下の通りです。

- ファームウェア・アップグレード・パッケージ (FUP) には、1 つの自動実行ファイルと新しいファームウェアファイルが含まれています。
- ファームウェア・アップグレード・ウィザード (FUW) バージョン 6.10 以降は、FUP の内容を使用してターミナルのファームウェアをアップグレードするために使用されます。

FUP と FUW は、いずれもダウンロード時にコンピュータにコピーされます。

以下の手順に従って、ファームウェア・インストール・ファイルをコンピュータにダウンロードしてください。

1. <http://www.rockwellautomation.com/support> にアクセスして、Firmware Updates リンクをクリックします。
2. Computers & Operator Interface を選択し、PanelView Plus を選択します。
3. Web サイトに記載されている手順に従って、該当する PanelView Plus 6 ターミナルのファームウェア・インストール・パッケージを特定します。
4. アップグレードファイル (.exe) を FactoryTalk View Machine Edition (ME) ソフトウェアと同じドライブ上のテンポラリフォルダにダウンロードします。
5. アップグレードファイル (.exe) のインストール手順を実行します。
 - FUW は FactoryTalk View ME フォルダにインストールされます。
 - ファームウェア・アップグレード・パッケージ (.fup) ファイルは、インストール手順の間に指定されたフォルダにインストールされます。

ヒント FUP 名は ME_PVP6xX_6.x-yyyymmdd (1000) または ME_PVP6xA_6.x-yyyymmdd (400 および 600)。

- yyyymmdd はファームウェアパッケージの作成日です。
- 6.x は、このパッケージに含まれている ME のバージョン。

これで、FUW の実行により、USB ドライブ /SD カードまたはネットワーク接続を使用してターミナルのファームウェアのアップグレードを行なう準備が完了しました。

ファームウェア・アップグレード・ウィザード

ファームウェア・アップグレード・ウィザード (FUW) は、ターミナルのファームウェアをアップグレードするために使用します。ファームウェアをアップグレードするために以下の2つの方法が示されます。

- FUP ファイルの内容を使用してファームウェア・アップグレード・カードを作成し、そのカードをターミナルに装着することで、ファームウェアをアップグレードします。

ファームウェア・アップグレード・カードは USB ドライブまたは SD カード (Cat.No. 1784-SDx) のいずれかになります。

- ネットワーク直接接続を通してコンピュータに接続されているターミナルでファームウェアをアップグレードします。ネットワーク接続を行なうには、RSLinx Enterprise ソフトウェア (Ver. 5.0 以降) が実行されているコンピュータが必要です。RSLinx Enterprise ソフトウェアで、アップグレードするターミナルを選択します。

FUW は、FactoryTalk View Studio ソフトウェア内から、またはコンピュータの Programs メニューから実行できます。

- FactoryTalk View Studio ソフトウェアで、Tools メニューから Firmware Upgrade Wizard を選択します。
- Start → Programs → Rockwell Software → FactoryTalk View → Tools → ME Firmware Upgrade Wizard を順に選択します。

ストレージデバイスからのターミナルのファームウェアのアップグレード

ストレージデバイスからファームウェアをアップグレードするプロセスは2つの手順で構成されています。最初に、必要なファームウェアファイルを使ってファームウェア・アップグレード・カードを作成し、次に、そのカードをターゲットのターミナルに装着してファームウェアをアップグレードします。

ファームウェア・アップグレード・カードは USB ドライブまたは SD カードのいずれかになります。

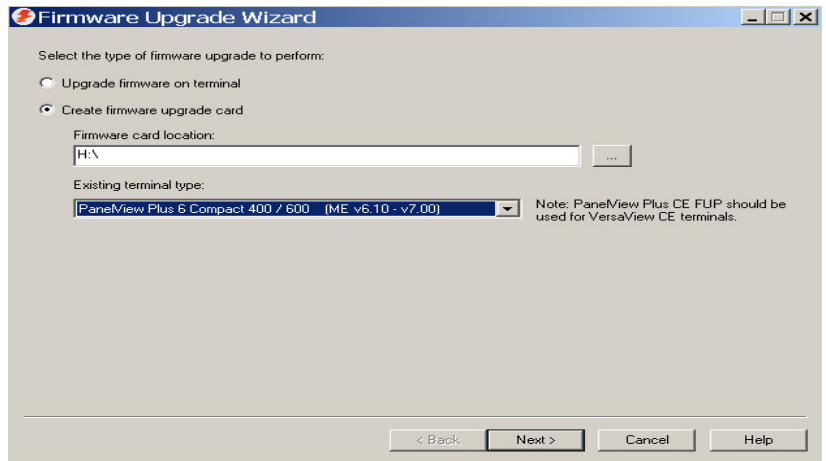
ファームウェア・アップグレード・カードの作成

以下の手順に従って、ファームウェアファイルを USB ドライブまたは SD カードにコピーしてください。

1. USB ドライブまたは SD カードをコンピュータ上の適切なスロットに挿入します。
2. ファームウェア・アップグレード・ウィザードを実行します。
 - FactoryTalk View Studio ソフトウェアで、Tools メニューから Firmware Upgrade Wizard を選択します。
 - Start → Programs → Rockwell Software → FactoryTalk View → Tools → ME Firmware Upgrade Wizard を順に選択します。

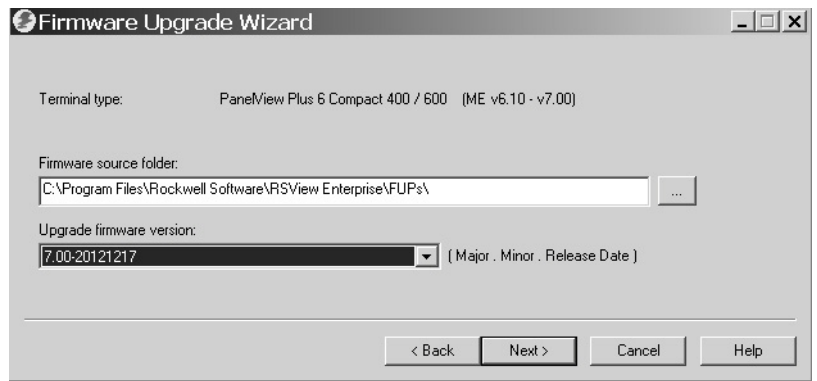
3. 最初の Firmware Upgrade Wizard ダイアログボックスで、以下の手順を行なってください。

- a. Create firmware upgrade card をクリックします。
- b. コンピュータに装着されているストレージカードのルートディレクトリ (E:\ など) を参照して、ファームウェアカードの場所を選択します。
ファームウェアファイルはこの場所にコピーされます。また、ハードドライブ上のフォルダを指定することもできます。
- c. Existing terminal type プルダウンメニューから v6.10 - v7.00, PanelView Plus 6 Compact ターミナルバージョンを選択します。
- d. Next をクリックします。



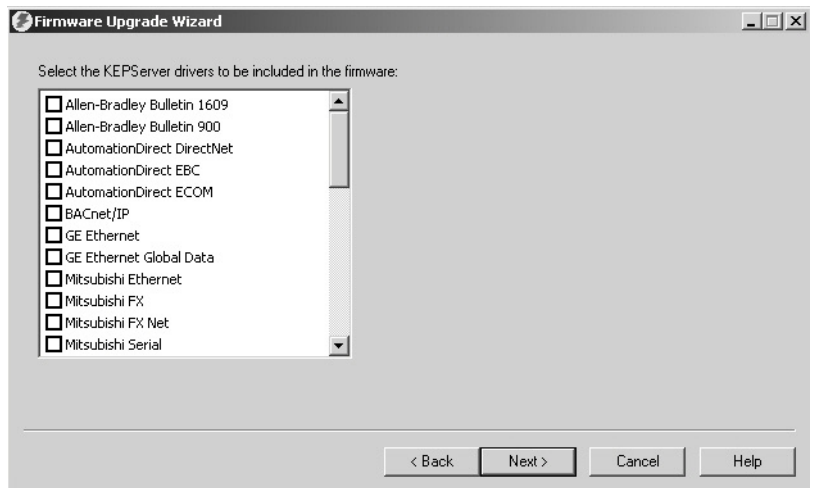
4. ここに示すダイアログボックスで、以下の手順を行なってください。

- a. コンピュータ上のファームウェア・ソース・ファイルの場所を参照して選択します。このフォルダは、FUP がインストールされていた場所です。
- b. アップグレード用のファームウェアリビジョンを選択します。
- c. Next をクリックします。
次のダイアログボックスが表示されるまでに (FUP が検索される間)、数秒かかることがあります。



5. ここに示すダイアログボックスでは、オプションとして、ファームウェアに含める KEPServer ドライバがあれば選択し、Next をクリックします。

Keppure ドライバは、PanelView Plus 6 ターミナルにすでにインストールされています。

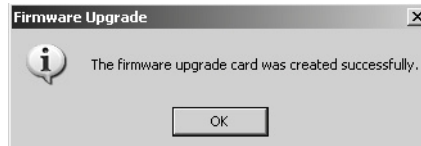


最後のダイアログボックスに、ファームウェア・アップグレード・カードを作成するために選択した内容のサマリが表示されます。

6. Finish をクリックして、ファームウェアファイルをファームウェア・アップグレード・カードにコピーします。
ファイルが USB ドライブまたは SD カードにコピーされている間、プログレスバーが更新されます。



7. ファームウェアのアップグレードが完了したら、OK をクリックします。



ヒント ファームウェアファイルがハードドライブにコピーされた場合は、それらのファイルを USB ドライブまたは SD カードのルートディレクトリにコピーします。

8. USB ドライブまたは SD カードをコンピュータから取り外します。
9. 次のセクションに進んで、このファームウェア・アップグレード・カードを使ってターミナルのファームウェアをアップグレードします。

ファームウェア・アップグレード・カードを使用するターミナルのファームウェアのアップグレード

以下の手順に従って、ファームウェアファイルを USB ドライブまたは SD カードからターミナルに転送してください。ここで使用するのは、前のセクションで作成したファームウェア・アップグレード・カードです。

重要

- ファームウェアのアップグレード処理中に USB ドライブまたは SD カードを取り外したり、誤って接続を切断したりしないでください。これに従わないと、ファームウェアが破損し、ターミナルが不安定な状態になる恐れがあります。
- ファームウェアのアップグレード中はターミナルの電源を切断しないでください。
- USB ハブは、予期しない動作をすることがあるため、使用しないようにしてください。

1. USB ドライブまたは SD カードをターミナルの適切なスロットに挿入します。

ファームウェアのアップグレードが自動的に開始され、ここに示すダイアログボックスが表示されます。

2. Upgrade またはターミナルの F7 キーを押して、ファームウェアのアップグレードを開始します。

ターミナルが再起動され、アップグレード処理中にプログレスバーが表示されます。

アップグレードが完了すると、ターミナルが再起動され、新しいファームウェアが実行されます。



3. USB ドライブまたは SD カードをターミナルから取り外します。

重要

停電のためファームウェアのアップグレードに失敗した場合や、ファームウェア・アップグレード・カードを間違って取り外した場合は、ターミナルを工場出荷時の設定のファームウェアに戻すことができます。工場出荷時の初期設定に戻す方法については、[151 ページの「メンテナンス操作」](#)を参照してください。

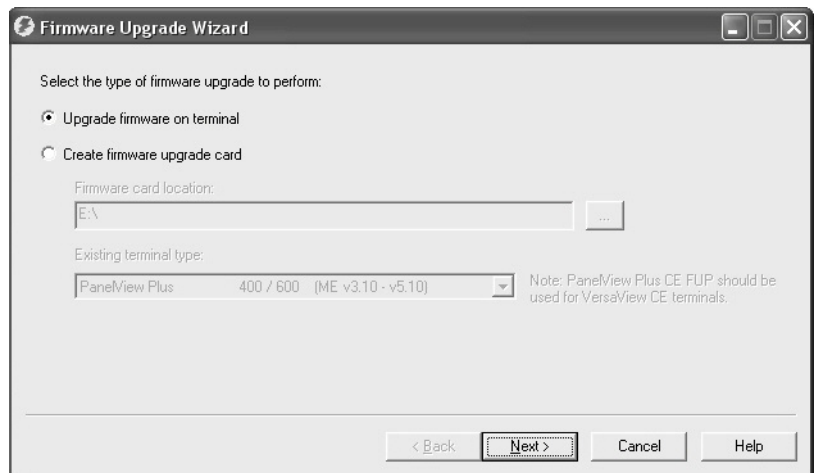
ネットワークを介する ターミナルのファーム ウェアのアップグレード

ネットワーク直接接続を通してコンピュータに接続されているターミナルでファームウェアをアップグレードすることができます。ネットワーク接続を行なうには、ファームウェア・アップグレード・ウィザード (FUW) と RSLinx Enterprise ソフトウェア (Ver. 5.0 以降) が実行しているコンピュータが必要です。

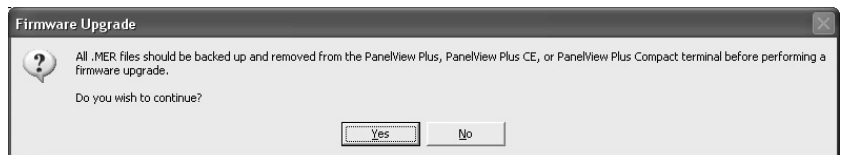
RSLinx Enterprise ソフトウェアは、ネットワーク上のターミナルを選択するために必要とされます。

以下の手順に従って、RSLinx Enterprise ソフトウェアとイーサネット通信を使用してネットワーク上でファームウェアファイルをターミナルにコピーしてください。

1. ファームウェア・アップグレード・ウィザードを実行します。
 - FactoryTalk View Studio ソフトウェアでは、Tools メニューから Firmware Upgrade Wizard の順に選択します。
 - Start → Programs → Rockwell Software → FactoryTalk View → Tools → ME Firmware Upgrade Wizard を順に選択します。
2. Upgrade firmware on terminal を選択して Next をクリックします。

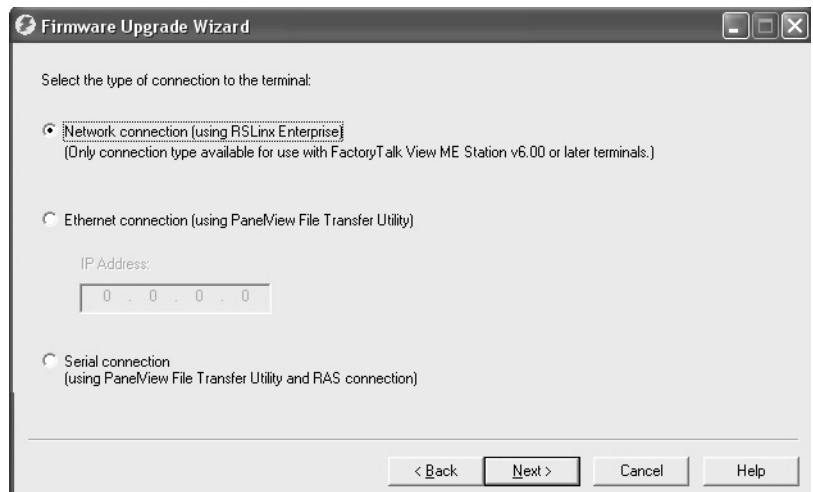


3. Yes をクリックして続行します。
ファイルをバックアップする必要はありません。

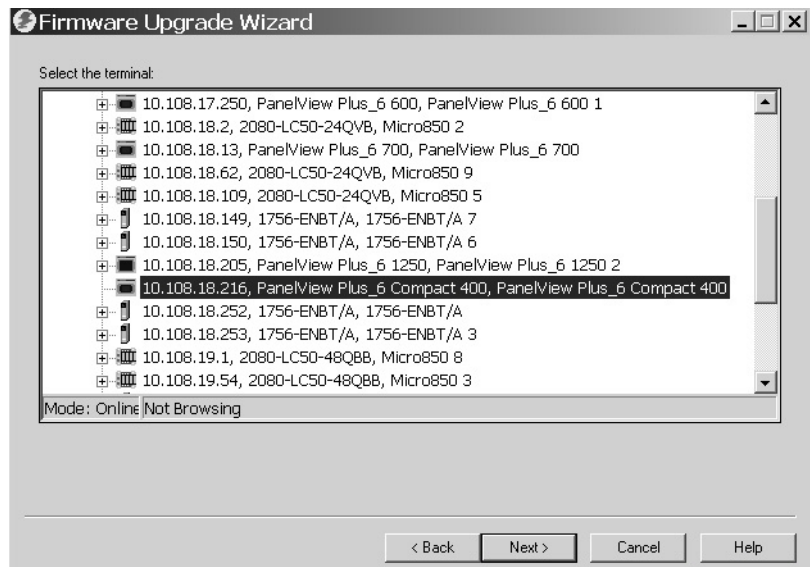


4. Network Connection (using RSLinx Enterprise) を選択して Next をクリックします。

PanelView Plus 6 ターミナルについて有効な選択オプションは、これだけです。

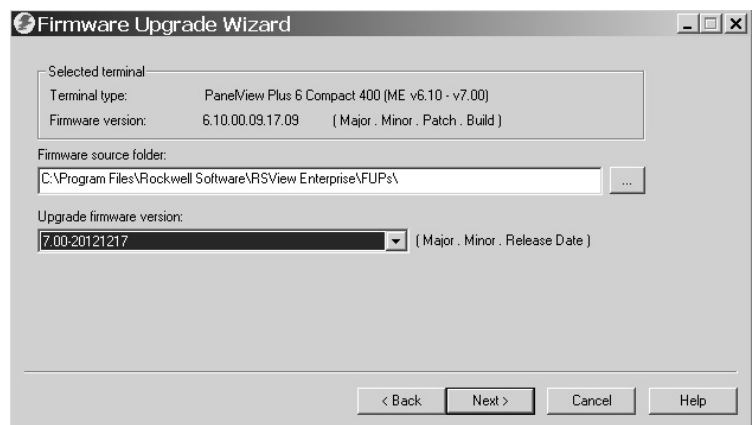


5. ファームウェアアップデートを受信するターミナルに移動して選択し、Next をクリックします。



6. ここに示すダイアログボックスで、以下の手順を行なってください。

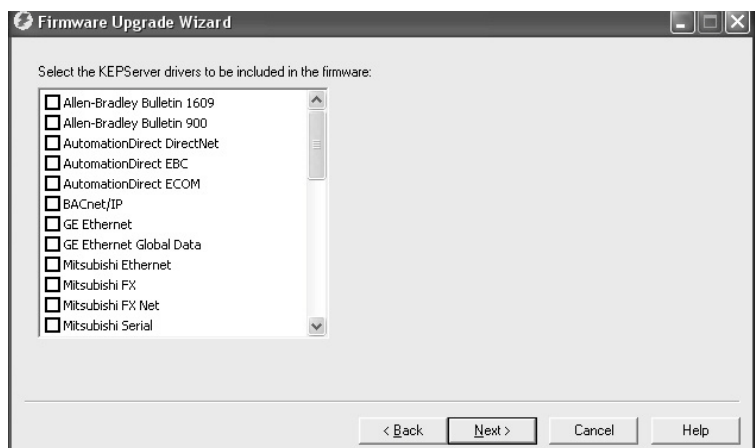
- a. コンピュータ上のファームウェア・ソース・ファイルの場所を参照して選択します。このフォルダは、FUP がインストールされていた場所です。デフォルトの場所が表示されます。
- b. アップグレード用ファームウェアのバージョンをプルダウンメニューから選択します。
- c. Next をクリックします。



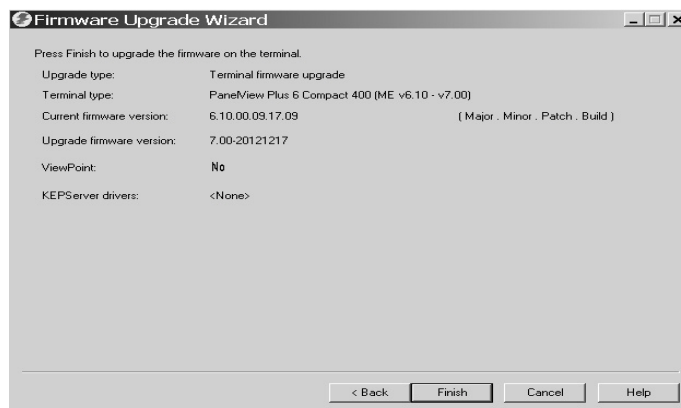
次のダイアログボックスが表示されるまでに (FUP が検索される間)、数秒かかることがあります。

7. ここに示すダイアログボックスでは、オプションとして、ファームウェアに含める KEPServer ドライバがあれば選択し、Next をクリックします。

Kepware ドライバは、PanelView Plus 6 Compact ターミナルにすでにインストールされています。



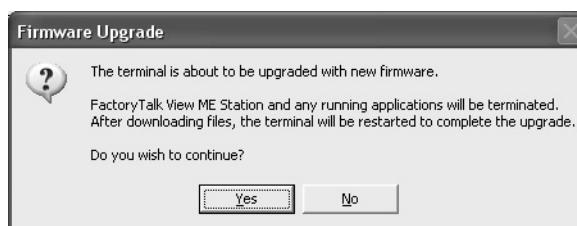
最後のダイアログボックスに、ターミナルのファームウェアをアップグレードするために選択した内容のサマリが表示されます。



8. Finish をクリックして、ターミナルのファームウェアを更新します。

9. Yes をクリックして更新を続行します。

ファームウェアファイルがターミナルにコピーされる間、プログレスバーが更新されます。



10. ファームウェアのアップグレードが完了したら、OK をクリックします。

ターミナルが再起動され、新しいファームウェアが実行されます。



重要

停電などのためファームウェアのアップグレードに失敗した場合は、ターミナルを工場出荷時の設定のファームウェアに戻すことができます。工場出荷時の初期設定に戻す方法については、[151 ページの「メンテナンス操作」](#)を参照してください。

トラブルシューティング

項目	参照ページ
ステータスインジケータ	143
ターミナルが正常に起動しない	144
スタートアップメッセージおよびコード	145
ターミナルのコンポーネントの確認	147
イーサネット接続	148
プログラムランチャー ActiveXコントロール	149
アプリケーションが実行されない	149
構成モードへのアクセス	149
ファイル・システム・エラー	150
高度な診断	150
メンテナンス操作	151

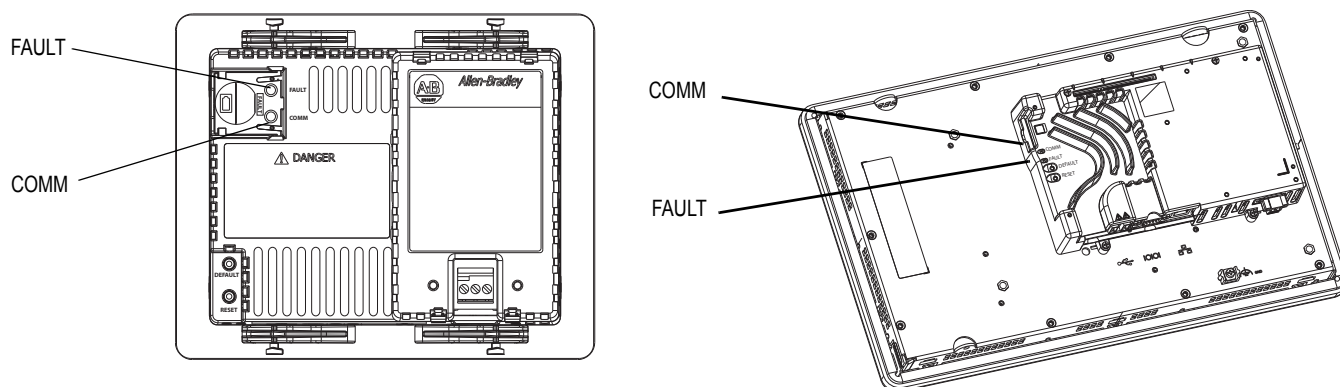
ステータスインジケータ

ターミナルには、動作上の問題を特定するための2つのステータスインジケータがあります。

- 通信ステータス用の通信インジケータ (緑色)
- ハードウェアおよびファームウェアフォルト用のフォルトインジケータ (赤色)

400/600 ターミナルのステータスインジケータはバッテリーカバーの下にあります。

図 13 - ステータスインジケータ



ターミナルが正常に起動しない

ここには、起動時の問題を解決するために役立つ一般的なトラブルシューティング情報を提供します。

適切な電源の確認

ターミナルが適切に給電されていない場合は、予期しない動作が発生することがあります。電力要件については、[28 ページの「DC 電源接続」](#)を参照してください。

起動時のインジケータの確認

ターミナルの起動時、FAULT インジケータおよび COMM インジケータが点滅してから、COMM インジケータが点滅して起動中の進捗状況を知らせます。起動が完了すると、COMM インジケータは点灯したままの状態になり、通信ドライバまたはアプリケーションによって制御されます。通常、COMM インジケータは通信がアクティブなときに点滅します。

ターミナルに電力が届いていない場合は、インジケータは消えています。電源ワイヤと電源を確認してください。

インジケータが消えたままの場合は、電源またはロジックボードに問題が発生しています。電源ワイヤと電源を確認してください。

- 電源が範囲外の場合は、電源を交換してください。
- 電源が範囲内の場合は、ターミナルを交換してください。

[表 52](#) に、ターミナルの電源投入後に起動が停止した場合のインジケータの状態を示します。

表 52 – 起動中にターミナルが停止した場合のインジケータの状態

FAULT (赤色) インジケータ	COMM (緑色) インジケータ	説明
点滅	消灯	回復可能なファームウェアエラー。前回のファームウェアのダウンロードに失敗。 ファームウェア・アップグレード・ウィザード (FUW) を使用してファームウェアを再ロードします。
点灯	消灯	回復不能なロジックモジュールのハードウェアフォルト。 <ul style="list-style-type: none"> • 400 および 600 ターミナルの場合は、ターミナルを交換してください。 • 1000 ターミナルの場合は、ロジックモジュールを交換してください。
	点滅	回復不能なディスプレイモジュールのハードウェアフォルト。 <ul style="list-style-type: none"> • 400 および 600 ターミナルの場合は、ターミナルを交換してください。 • 1000 ターミナルの場合は、ディスプレイモジュールを交換してください。

スタートアップメッセージおよびコードの確認

起動中にスプラッシュ画面に表示される可能性があるステータスメッセージおよびエラーコードのリストについては、[151 ページの「メンテナンス操作」](#)を参照してください。

電圧と温度の確認

バッテリー電圧、プロセッサ温度、およびディスプレイ温度を確認します。

表 53 – 電圧および温度条件の確認

確認する条件	操作を行なう場所	操作
バッテリー電圧 < DC2.75V	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルデスクトップから: 82ページの「モニタ」を参照してください。 FactoryTalk View ME Station構成モードから: 64ページの「ターミナル情報の表示」を参照してください。 	必要ならばバッテリーを交換する。
ロジックボードの温度 95°C (203°F)を 超えている	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルデスクトップから: 82ページの「モニタ」を参照してください。 	シャーシの空気の流れが遮断されていないか確認して、エンクロージャ内と周辺の気温が適温になるように調節してください。
ディスプレイ温度 55°C (131°F)を 超えている	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルのデスクトップから: 82ページの「温度」を参照してください。 FactoryTalk View ME Station構成モードから: 64ページの「ターミナル情報の表示」を参照してください。 	

システム・イベント・ログの確認

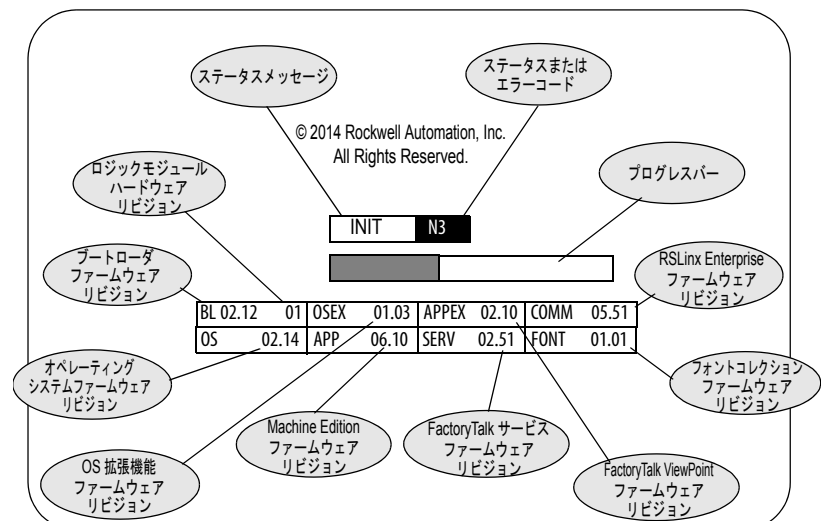
システム・イベント・ログを調べて、エラーや予期しない動作が発生していないか確認してください。

- FactoryTalk View ME Station の構成モードで、Terminal Settings → System Event Log の順に押します。 [64ページの「システム・イベント・ログの表示と消去」](#)を参照してください。
- コントロールパネルで、Hardware Monitor を開き、System Event Log タブをクリックします。 [81ページの「システム・イベント・ログ」](#)を参照してください。

スタートアップメッセージおよびコード

スプラッシュ画面には、起動中に発生した動作やステータスが報告されます。これには、ファームウェアおよびハードウェアのリビジョン情報も含まれています。

図 14 – 起動スプラッシュ画面



以下の表に、各ステータスに関連付けられているメッセージと対応するステータス / エラーコードを示します。

表 54 – スタートアップメッセージおよびコード

ステータスメッセージの説明	ステータスメッセージ	コード	処置
通常のスタートアップメッセージ			
ブートローダーが、USBデバイス経由でPCへの接続を試行	AutoTest	OA	起動のこのフェーズで表示されるメッセージは参考情報です。
ブートローダが、ファームウェアイメージをRAMにロード	AutoTest	E6	
ブートローダが、オペレーティングシステムにジャンプ	AutoTest	FF	
オペレーティングシステムの起動	Boot	G0	
オペレーティングシステムの登録および初期化	Init	H1 - JA	
Machine Editionの登録および初期化	Init	K1 - MA	
Machine Editionのロードおよび実行	Init	ME[ME]	
ファームウェアのインストールおよびロード			
ファームウェアイメージをRAMにロードします。	Update	1E	ファームウェアのインストールおよびロード中に表示されるメッセージは参考情報です。
ファームウェアイメージをストレージに書き込み	Update	A5	
工場出荷時設定のファームウェアイメージをRAMにロード	Restore	E6	
工場出荷時設定のファームウェアイメージをストレージに書き込み	Restore	A5	
工場出荷時設定の構成データを復元	Restore	DC	
ファームウェアの妥当性確認(CRC/フォーマット)エラー	Fatal	1E	
ファームウェアでファームウェアリージョンの互換性インデックスの妥当性確認に失敗	Fatal	1F	
ファームウェア・アップデート・エラー	Fatal	0F	
ファームウェアのストレージ書き込みエラー	Fatal	A5	
保存されたファームウェアイメージの検証エラー	Fatal	D2	
OSファームウェアイメージが無効または検出されない	Fatal	FF	
電源投入時の自己診断テスト(POST)エラー			
RAMエラー	Fatal	03	POST中の致命的なエラーは、通常、故障したハードウェアが原因です。 <ul style="list-style-type: none"> • RAMエラーの場合は、ロジックモジュール(1000)またはターミナル(400および600)を交換してください。 • キーボード操作/タッチ操作不能の場合やバックライトが故障した場合は、ディスプレイモジュールを交換してください。
キーボード操作不能	Fatal	31	
タッチ操作	Fatal	3a	
バックライトの故障	Fatal	3b	
復元操作エラー			
復元操作の初期化に失敗	Fatal	R0	復元操作中に発生した致命的なエラーは、通常、メンテナンスメニューからターミナルをリセットすることで回復することが可能です。 ターミナルのリセット方法については、 152ページの「メンテナンス操作へのアクセス」 を参照してください。
pvbファイル内の無効なヘッダによる復元の失敗	Fatal	R1	
無効なヘッダによる復元の失敗	Fatal	R2	
中間ファイルをターミナルに書き込むことができなかったことによる復元の失敗	Fatal	R3	
破損した.pvbファイルに起因する復元の失敗	Fatal	R4	
ウォッチドッグ			
ウォッチドッグのリセット	Fatal	02	ウォッチドッグのリセットは、通常、ソフトウェア障害による一時的な制御不能状態です。再発する場合に対策が施せるよう、このエラーをモニタしてください。

ターミナルのコンポーネントの確認

ここでは、ディスプレイ、タッチスクリーン、キーパッド、接続されたキーボード、またはマウスに関する問題を特定する方法についてヒントを記載します。異常を解決できない場合は、タッチスクリーンのディスプレイモジュール (1000) またはターミナル (400 ~ 600) を交換してください。

表 55 – タッチスクリーンに関する問題の解決

症状	処置
ディスプレイがタッチスクリーンを備えていない	装置のカatalog番号を確認します。ターミナルのラベルを調べて、ディスプレイがタッチスクリーンであることを確認します。
タッチスクリーンが正常に動作しない タッチ入力やドラッグの操作が不正確	タッチスクリーンをキャリブレーションします。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードで、Terminal Settings → Input Devices → Touch Screen → Calibrationの順に押します。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルからTouchダイアログボックスを開き、Calibrationタブをクリックします。 キャリブレーション操作では、5回画面をタップする必要があります。5回画面をタップしても、キャリブレーションが十分でない場合は、追加の画面のタップを行なうよう繰返し求められます。このプロセスは、有効なキャリブレーションが実行されるまで続きます。 キャリブレーションされていないタッチスクリーンは、存在していないか、正常に機能していません。タッチ・スクリーン・ディスプレイ・モジュール(1000)またはターミナル(400~600)を交換してください。
画面上のカーソルが表示されない	カーソルが有効な状態であることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードからTerminal Settings→Display→Cursorの順に押します。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルから、Displayを開いてAdvancedタブをクリックします。
タッチスクリーンがタッチ入力を受付けない	USBマウスを接続して、問題がタッチスクリーンまたはアプリケーションのどちらにあるか確認します。 <ul style="list-style-type: none"> マウスは機能するが、タッチスクリーンが機能しない場合は、タッチドライバまたはタッチスクリーンが正常に動作していません。 マウスとタッチスクリーンが両方とも機能しない場合は、アプリケーションに問題があります。

表 56 – ディスプレイに関する問題の解決

症状	処置
ディスプレイが暗くなるか、読み取り不能	輝度の設定を確認します。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードからTerminal Settings→Display→Display Intensityの順に押す。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルから、Displayを開いてBacklightタブをクリックする。
バックライトが消灯しているか、ディスプレイが突然真っ暗になる	スクリーンセーバの設定を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードで、Terminal Settings → Display → Screen Saverの順に押します。 デスクトップのコントロールパネルから、Displayを開いてScreen Saverタブをクリックします。
起動中にスタートアップエラーが表示される	メッセージを記録して、 145ページ のスタートアップ・エラー・メッセージの表と照合します。

表 57 – マウスに関する問題の解決

症状	処置
マウスが正常に動作しない	USBケーブルおよび接続を確認します。マウスを取り外してから、再度取付けます。ターミナルを再起動またはリセットします。
画面上のカーソルが表示されないか、マウス設定を調整する必要がある	画面上のカーソルが無効な状態であるか確認します。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードからTerminal Settings→Display→Cursorの順に押します。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルから、Displayを開いてAdvancedタブをクリックします。 マウスの設定を確認します。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードからTerminal Settings→Input Devices→Mouseの順に押します。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルから、Mouseダイアログボックスを開きます。
マウスがUSB複合デバイス(キーボード + マウス)である。	スタンドアロン型USBマウスを接続します。 互換性のあるUSBデバイスのリストについては、ロックウェル・オートメーションのテクニカルサポートのサイトのナレッジベース(http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase)にアクセスしてID 115072を検索してください。
USBマウスが機能しない	マウスが不適合である可能性があります。USBマウスを交換します。異なる機種またはメーカーの装置を試してみます。新しいマウスを接続して、問題が解決した場合は、古いマウスが不適合であったと考えられます。 互換性のあるUSBデバイスのリストについては、ロックウェル・オートメーションのテクニカルサポートのサイトのナレッジベース(http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase)にアクセスしてID 115072を検索してください。

表 58 – キーボードに関する問題の解決

症状	処置
キーボードが正常に動作しない	USBケーブルおよびコネクタを確認します。キーボードを取り外してから、再度取付けます。接続に問題がないことを確認します。ターミナルを再起動またはリセットします。
キーボードがキー入力を受付けない	<p>キーパッドを使用して、以下のキー入力をチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> キーパッドは機能しているが、キーボードが機能していない場合は、キーボードドライバまたはキーボードが正常に動作していません。 キーパッドとキーボードの両方が機能していない場合、問題はアプリケーションの障害にあると考えられます。 <p>キーボード入力に関する問題はアプリケーションのフォルトである場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> シェル内の編集ボックスなど、アプリケーションの外部でキーを押します。アプリケーションの外部でキーパッドが機能する場合は、そのアプリケーションに障害が発生しています。 Ctrl+Escキーを同時に押してStartメニューを開き、カーソルをRunに移動して数字および表示可能な文字をRunダイアログボックスに入力します。
キーボードがUSB複合デバイス(キーボード+マウス)である	スタンドアロン型USBキーボードを接続します。
キーボードが機能しない	<p>キーボードが不適合な可能性があります。USBキーボードを交換します。異なる機種またはメーカの装置を試してみます。新しいキーボードに交換して、問題が解決した場合は、古いキーボードが不適合であったと考えられます。</p> <p>互換性のあるUSBデバイスのリストについては、ロックウェル・オートメーションのテクニカルサポートのサイトのナレッジベース (http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase) にアクセスしてID 115072を検索してください。</p>

イーサネット接続

以下の表では、イーサネットに関する問題を特定する方法についてヒントを提供します。

表 59 – イーサネットに関する問題の解決

動作	説明
イーサネット接続のステータスインジケータを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> 緑色は通信リンクを示し、通常は点灯しています。 黄色はデータアクティビティを示し、通常は点滅しています。
ケーブル接続およびケーブルの品質を確認します。	<p>以下のことを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ケーブルの折れ曲がり イーサネットハブ/スイッチ接続 アップリンクポート
内蔵イーサネットコントローラのIPアドレスを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードで、Terminal Settings → Networks、次に Communications → Network Connections → Network Adaptersの順に押します。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルからNetwork and Dial-up Connectionsを開きます。DHCPが有効になっている場合は、起動後数秒以内にそのデバイスの有効なIPアドレスが取得されると予想されます。デバイスがサーバからIPアドレスを取得できない場合は、TCP/IPプロトコルが自動的に169.254.nnn.nnnを割り付けます。一般に、169で始まるIPアドレスはネットワーク接続をサポートしません。 <p>イーサネット接続が不正であり、有効なIPアドレスがないと、通常、通信エラー・メッセージ・ボックスに報告され、Winsock critical error 10065 - No route to hostと表示されます。</p>
IPアドレスが競合していないか確認します。	DHCPが有効でない場合は、ターミナルのIPアドレスが、ネットワーク上の別のデバイスのアドレスと競合状態にないことを確認してください。
ターミナルのデバイス名を確認します。	<p>ネットワーク上の複数のデバイスが同じホスト名をもつことはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> From FactoryTalk View ME StationでTerminal Settings→Networksを選択してから、Communications→Network Connections→Device Nameの順に選択する。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルから、Systemアプレットを開いてDevice Nameタブをクリックする。
ネットワーク管理者に問い合わせ、ピアまたはサーバ設定を確認します。	イーサネット接続の他方の側に問題が発生している可能性があります。
ネットワークアプリケーションの要件を確認します。	ネットワークアプリケーションは、Internet Explorerのプロキシ設定やActiveSyncのイーサネット構成のように固有の要件を備えていることがあります。
マルチ・ホーム・デバイスを確認します。	マルチ・ホーム・デバイス、つまり複数のイーサネットノードは、不明確で混乱を生じさせる可能性があります。ネットワーク接続はできるだけ簡潔なものにしてください。
デスクトップから、ネットワークツールであるPing.exeとIpconfig.exeを使用して、IPアドレスとホストデバイスに関する問題を診断します。	<p>これらのネットワークユーティリティは診断ツールです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Pingは、パケットを送出して応答を待つことで、特定のIPアドレスがオンライン接続可能かどうかを決定するためのインターネットユーティリティです。Pingは、ネットワークのテストとデバッグ、およびユーザまたはサーバがオンライン状態であるかどうかの確認に使用されます。 IPconfigは、実行されているマシンに割り付けられているIPアドレスを管理するWindowsコマンド行ユーティリティです。IPconfigは、コンピュータに現在割り付けられているIP、サブネットマスク、およびデフォルトのゲートウェイアドレスを表示します。

プログラムランチャー ActiveX コントロール

デスクトップへのアクセスが制限されている場合に、プログラムランチャーである ActiveX コントロールを使用してファイルビューワ、テキストエディタ、または PDF リーダを起動するときは、ファイルを開こうとするとシステムがロックされます。

この問題が発生しないようにするには、起動するアプリケーションにファイルに関連付けます。ファイルが関連付けられると、ビューワ、エディタ、または PDF リーダが自動的に起動されるようになります。

アプリケーションが 実行されない

ターミナルのアプリケーションが実行されない場合は、FactoryTalk View Machine Edition (ME) アプリケーションに問題がある可能性があります。

- 起動画面が構成済みであり、ランタイムファイルが互換バージョンであることを確認します。
- アプリケーションを手動で実行してみます。手動でアプリケーションを実行できた場合は、オペレーティングシステムが無効なショートカットパスを使って起動している可能性があります。Windows の StartUp フォルダにあるショートカットを確認します。

\\Windows\StartUp

StartUp フォルダにある各ショートカットパスの構文をチェックし、有効なターゲットアプリケーションが存在することを確認します。

- コンポーネントや必須の DLL がアプリケーションに欠けていないか確認します。アプリケーションを削除して再ロードします。

構成モードへのアクセス

アプリケーションの実行中に構成モードにアクセスするには、FactoryTalk View ME アプリケーションで表示される画面に Goto Configuration Mode ボタンが存在していなければなりません。アプリケーションの実行中は、このボタンを押して構成モードにアクセスできます。

実行中のアプリケーションで Goto Configuration Mode ボタンが表示されない場合は、起動時に、以下のいずれかの方法で構成モードにアクセスできます。

- 通常のメンテナンス画面からセーフモードに入ります。詳細は、[151 ページ](#)を参照してください。
- コントロールパネルの System ダイアログボックスでセーフモード要求オプションを有効にして、起動時にセーフモード要求を検出します。詳細は、[88 ページ](#)を参照してください。

ヒント ターミナルが、起動時に構成モードに入るように構成されているにも関わらず、構成モードに入らない場合は、ファームウェアを再ロードしてください。

ファイル・システム・エラー

内部ファイルシステムはトランザクションセーフなので、ファイル・システム・エラーが発生することがまれです。電源を切る前に必ずアプリケーションを停止してください。これにより、データがファイルシステムへすべて送出され、ファイルシステムを正常に停止させることができます。

外付け USB/SD ストレージデバイスへの書込みが進行している間にそのデバイスを取り外してはなりません。FactoryTalk View Machine Edition (ME) アプリケーションは RAM から実行されますが、データのロギング、イベントのロギング、履歴のトレンド分析などの機能は不揮発性メモリに対して書込みを行いません。したがって、電源を切断する前にこれらの機能を停止する必要があります。

高度な診断

IP と Winsock エラーコードに関する多少の知識があれば、Ping と ipconfig はネットワークのデバッグ用の有益なツールです。これらのツールを使用して、ネットワークの以下のデバッグ作業を行いません。

- 宛先ホストに対して ping を試行します。
- 宛先アドレスを確認します。
- ご使用のネットワークシステム (WinSock の実装) でルータが構成されているかどうかを確認します。
- デスクトップ上のコマンドプロンプトで tracert コマンドを使用して、ユーザのホストと宛先ホスト間のルートに沿った障害の発生場所を特定してみます。

その他に、以下の診断方法が役立ちます。

- 代替接続、つまり、タッチスクリーンに対してマウス、キーボードに対してキーボード、シリアル通信に対して代替のイーサネット接続を利用します。
- アプリケーションまたはオペレーティングシステムのクラッシュが疑われるときは、\Windows\DumpFiles フォルダを調べてクラッシュログを確認します。

クラッシュ・ダンプ・ファイルは、オフラインで Visual Studio や WinDBG などの一般的な Windows 開発またはデバッグツールを使用してワークステーションに表示することができます。クラッシュ・ダンプ・ファイルの情報によって、少なくとも例外の日時、例外のタイプ、問題のあるプロセスの名前とプログラムカウンタを含むレジスタの状態が明らかになります。

- Autorun.exe ユーティリティを SD カードに格納しておくと、そのカードをターミナルの SD カードスロットに差し込むだけで簡単にそれらのユーティリティを実行することができます。
- 便利なキーボードショートカットを覚えておくと、マウスやタッチスクリーンなしでシステムのさまざまな操作を実行できます。
- Hardware Monitor コントロール・パネル・アプリケーションを選択するか、FactoryTalk View ME の構成モードで Terminal Settings → System Event Log の順に選択して、システム・イベント・ログを確認します。予期しない動作や再起動を引き起こした可能性があるエラー状態または理由を探します。
- ターミナルデスクトップのコントロールパネルまたは FactoryTalk View ME の構成モードにおいて構成設定を確認します。

メンテナンス操作

ターミナルでは、通常、起動時に Windows デスクトップまたは FactoryTalk View ME アプリケーションが起動します。さらに、診断および修理のために、システムをメンテナンスモードで起動することもできます。

表 60 – 構成モードでの操作

操作	説明
なし	メンテナンスモードを終了し、通常の再起動を継続する。
セーフモード	システムをセーフ動作モードで起動する。機能を減らすことで、ソフトウェアエラーからの回復を可能にする診断モードです。セーフモードでは、エラーの原因となった障害のあるアプリケーションや変更内容を修復できる。 重要: FactoryTalk View ME Stationソフトウェアは、起動時にHMI .merアプリケーションがロードされている場合でも当該アプリケーションを実行せず、かわりに構成モードに入る。HMIアプリケーションは、次にシステムがリセットされたときに実行される。
ターミナルのリセット	ターミナル上でユーザがアクセス可能なストレージおよび構成データを元の初期設定状態に復元する。現在のファームウェアリビジョンは保持される。すべての格納メディアは、ファームウェアを除き、購入当時の元の状態に戻る。最新のFactoryTalk View MEイメージが保持される。ユーザによるデータの変更または追加内容はすべて失われる。
Restore factory defaults	ターミナルのすべての記憶媒体は、ファームウェア、レジストリ、ファイルシステム、および構成データを含め、工場出荷時の初期設定に復元する。通常、このオプションは、ファームウェアのアップグレードの失敗からの復元に使用される。 重要: すべての格納メディアは、購入当時の元の状態に戻る。ユーザがインストールしたファームウェアアップデートもすべて削除される。復元方法については、 153ページの「工場出荷時の設定の復元」 を参照してください。
Display Resolution (1000ターミナルのみ)	起動時のディスプレイ解像度を設定する。システムが解像度を検出できない場合は、ターミナルモデル別に適切な解像度を選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> • Auto - ディスプレイ解像度を自動検出 • VGA - 1000ターミナルでは解像度は640x480x16に設定されます。 • 400および600ディスプレイは320x240 QVGAである。

重要 **上記の順序でメンテナンス操作を実行することで、ターミナルの動作の問題を診断し修復します。**

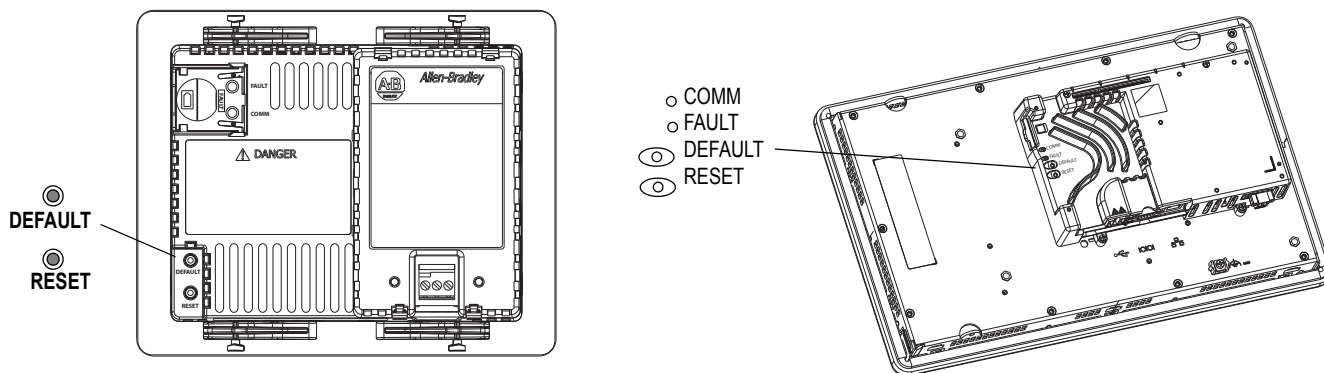
1. Safe mode - アプリケーションが自動起動するのを阻止します。
2. Reset terminal - ユーザがインストールしたアプリケーション、ユーザによる構成変更、およびユーザがアクセス可能なデータを削除します。
3. Restore factory defaults - ターミナルを元の追加設定なしの状態に戻します。

メンテナンス操作へのアクセス

以下の手順に従って、起動時にメンテナンス操作にアクセスしてください。

ヒント メンテナンスモード中に操作を行なうために、ターミナルに USB キーボードを接続する必要があります。

1. ロジックモジュール背面の DEFAULT と記された穴に、細い非伝導のピンを挿入してスイッチを押します。



ヒント フォルト状態からこのメニューにアクセスするには、Reset スイッチを押してから、メニューが表示されるまで Default スイッチを押したままにします。

ターミナルが、ディスプレイ輝度が 100% のメンテナンスモードで起動します。メンテナンス操作については、151 ページの [表 60](#) を参照してください。

最初のメンテナンスウィンドウ

このバージョンはブートローダを示す。

default button pressed, please select maintenance options	
Maintenance Menu -- ver 0x.xx	
Reboot with selected options	Continue with this system boot.
Special BOOT Action - None	This option will continue booting with the options selected on the left. - IMPORTANT----- USB keyboard required! Press the RESET switch to ignore changes and continue system boot.

ヒント ウィンドウ下部にあるキーを使用して選択してください。

2. キーパッドまたは接続されたキーボード上の上 / 下矢印キーを押して、メンテナンスオプションのリスト内を上下に移動します。
 - Reboot with selected options
 - Special Boot Action

3. オプションを選択したら、右 / 左矢印キーを押して、使用可能な操作または設定を順番に切換えます。
各操作を選択した結果の説明が右側に表示されます。

セーフモードが選択されたメンテナンスウィンドウ

このバージョンは
ブートローダを示す。

default button pressed, please select maintenance options	
Maintenance Menu -- ver 0x.xx	
Reboot with selected options	Selects the special BOOT action that will be executed during this system boot. - SAFE mode----- The system will start in the configuration mode of FactoryTalk View ME Station. - IMPORTANT----- - FactoryTalk View ME Station will load at start up not the custom HMI application. The HMI application will start normally the next time the terminal is rebooted.
Special BOOT Action - SAFE Mode	

4. 選択を終えたら、以下の手順に従います。
 - a. 上矢印キーを押して、Reboot with selected options に戻ります。
 - b. [Enter] キーを押して、ブートを続行します。

工場出荷時の設定の復元

Fatal コード 0F などのファームウェアアップデートの失敗から回復するには、ターミナルを追加設定なしの工場出荷時の初期状態に復元する必要があります。

以下の手順に従って、メンテナンスモードから工場出荷時の設定を復元してください。

ヒント メンテナンスモード中に操作を行なうために、ターミナルに USB キーボードを接続する必要があります。

1. ロジックモジュールの後部にある DEFAULT スイッチを押したままにします。
2. RESET スイッチを押してから放します。
3. DEFAULT スイッチを放します。
メンテナンスメニューが表示されます。

最初のメンテナンスウィンドウ

default button pressed, please select maintenance options	
Maintenance Menu -- ver 0x.xx	
Reboot with selected options	Continue with this system boot. This option will continue booting with the options selected on the left. - IMPORTANT----- USB keyboard required! Press the RESET switch to ignore changes and continue system boot.
Special BOOT Action - None	

ヒント ウィンドウ下部にあるキーを使用して選択してください。

4. キーボードの下矢印キーを押して、以下のオプションを選択します。
Special BOOT Action - None
5. 右矢印を 3 回押して、以下のオプションを選択します。
Special BOOT Action - Restore Factory Defaults.

Restore Factory Defaults が選択されたメンテナンスウィンドウ

default button pressed, please select maintenance options	
Maintenance Menu -- ver 0x.xx	
Reboot with selected options	Selects the special BOOT action that will be executed during this system boot. - Restore Factory Defaults ---- All storage media that exists on this terminal will be restored to a factory default state. - IMPORTANT----- -
Special BOOT Action - Restore Factory Defaults.	

6. 上矢印キーを押して、Reboot with selected options を選択します。
7. キーボード上の [Enter] キーを押して、工場出荷時の設定の復元プロセスを開始します。

ファームウェア、レジストリ、ファイルシステム、格納領域を含めて、ターミナルは元の追加設定なしの状態に戻ります。復元後はすべてのユーザデータが失われます。

ターミナルの常駐フォント

TrueType フォント

表 61 に、ターミナルに事前にインストールされている TrueType フォントをリストします。

デフォルトのシステムフォントは Tahoma です。

ヒント Arial Unicode MS フォントはおよそ 50,000 文字をカバーし、アラビア語、ヘブライ語、ベトナム語、タイ語、ヒンディー語 (デバナガリ文字)、他のインド系言語など、多くの非ラテン系言語およびスクリプトに対するデフォルトの言語サポートを提供しています。このフォントは、中国語、日本語、および韓国語 (CJK) もサポートしています。

フォントファイルをターミナルデスクトップ上の \Windows\Fonts フォルダにコピーすることで、システムに追加のフォントをロードできます。このフォルダにアクセスするには、ターミナルデスクトップ上の “My Device” アイコンを選択するか、Start → Programs → Windows Explorer の順に選択します。

表 61 – TrueType フォント

TrueType フォント	ファイル名
Arial Unicode MSバージョン1.01	arialuni.ttf
欧文フォント	
Arial	
Arial (サブセット1_30)	arial_1_30.ttf
Arial Black	arialk.ttf
Arial Bold	arialbd.ttf
Arial Bold Italic	arialbi.ttf
Arial Italic	ariali.ttf
Comic Sans MS	
Comic Sans MS	comic.ttf
Comic Sans MS Bold	comicbd.ttf
Courier New	
Courier New (サブセット1_30)	cour_1_30.ttf
Courier New Bold	courbd.ttf
Courier New Bold Italic	courbi.ttf
Courier New Italic	couri.ttf
Georgia	
Georgia	georgia.ttf
Georgia Bold	georgiab.ttf
Georgia Bold Italic	georgiaz.ttf
Georgia Italic	georgiai.ttf
Impact	impact.ttf
Kino	kino.ttf
Microsoft Logo	mslogo.ttf

表 61 – TrueType フォント

TrueTypeフォント	ファイル名
Symbol	symbol.ttf
Tahoma	
Tahoma (サブセット1_07)	tahoma_1_07.ttf
Tahoma Bold	tahomabd.ttf
Times New Roman	
Times New Roman (サブセット1_30)	times_1_30.ttf
Times New Roman Bold	timesbd.ttf
Times New Roman Bold Italic	timesbi.ttf
Times New Roman Italic	timesi.ttf
Trebuchet MS	
Trebuchet MS	trebuc.ttf
Trebuchet MS Bold	trebuchd.ttf
Trebuchet MS Bold Italic	trebuchi.ttf
Trebuchet MS Italic	trebucit.ttf
Verdana	
Verdana	verdana.ttf
Verdana Bold	verdanab.ttf
Verdana Bold Italic	verdanaz.ttf
Verdana Italic	verdanai.ttf
Webdings	webdings.ttf
Wingding	wingding.ttf
PanelView フォント	
PV 12 x 24、PV 12 x 8	PV12x24.ttf、PV12x8.ttf
PV 16 x 24	
PV 18 x 16、PV 18 x 8	
PV 24 x 32	
PV 32 x 40、PV 32 x 64	
PV 4 x 6	
PV 6 x 16、PV 6 x 24、PV 6 x 8、PV 6 x 9	
PV 8 x 16、PV 8 x 20、PV 8 x 24	
PV Double High	PVdouble_high.ttf
PV Double Wide	PVdouble_wide.ttf
PV Extra Large	PVextra_large.ttf
PV Large	PVlarge.ttf
PV Small	PVsmall.ttf
PV Tiny	PVtiny.ttf
PV Very Tiny	PVvery_tiny.ttf
東アジアフォント	
Gulimバージョン2.21 - 韓国語	gulim.ttc
MS Gothicバージョン2.30 - 日本語	gulim.ttc

A

- ActiveX コントロール 66
 - プログラムランチャー 149
- AC 電源モジュール 119

D

- DC 電源
 - アースグラウンド 29
 - 外部電源 28
 - 接続 30

F

- FactoryTalk View ME 46, 57, 64, 66
 - IP アドレス 48
 - アプリケーションの実行 38
 - アプリケーションのロード 38
 - アラームディスプレイ、有効 / 無効 66
 - イーサネット設定 48
 - 印刷オプション 60
 - カーソル 56
 - キーボードまたはキーパッド設定 57
 - 構成モード 33
 - 時刻と日付に関する操作 66
 - システム・イベント・ログ 64
 - システム情報 66
 - 診断 62
 - スクリーンセーバ 56
 - スタートアップオプション 39
 - ターミナル設定 36
 - ターミナルデバイス名 51
 - タッチスクリーンのキャリブレーション 58
 - 地域の設定 69-71
 - ディスプレイ設定 55
 - デスクトップへのアクセス 42
 - 入力デバイス 57
 - バッテリー電圧 65
 - ファイルの整合性チェック 62
 - ファイルの転送 52
 - フォントのリンク 72
 - プロセッサ温度 65
- FTP サーバ 75
 - 構成 97
 - セキュリティ 97
 - 匿名ログインの例 98
 - 認証を必要とする接続 99

I

- IGMP プロトコル 128

K

- KEPServer 構成 100

P

- PanelView Plus 6 Compact の概要
 - ターミナルの概要 11
- PDF リーダ 104

R

- RS-232 シリアルポート 13
- RSLinux 通信設定 46

S

- SD カード
 - イメージのバックアップと復元に使用 78
 - カードスロット 13
 - スロット 122
 - ロード 122

U

- UPnP サーバ 75
- USB 周辺機器 19
- USB ドライブ
 - イメージのバックアップおよび復元に使用 79
- USB ポート 13, 126
 - コネクタのピン配列 126
 - 周辺機器 126
 - デバイスポート 13, 126
 - 取付け 126
 - ホストポート 13, 126

V

- ViewPoint 75
- VNC サーバ 75
 - クライアントビューワ 92
 - 構成 92
 - 制御と表示のためのコネクションの例 94
 - セキュリティ 92
 - 動作の制御 92
 - 表示専用のコネクションの例 93
 - 表示専用の動作 92

W

- Web サーバ
 - 構成 96
- Windows Explorer 76
- Windows オペレーティングシステム 73

ア

- アースグラウンド
 - DC 電源 29
- アクセサリ 16
- アプリケーション
 - 整合性のチェック 62
 - トラブルシューティング 149
- アプリケーションの実行 38
- アプリケーションのロード 38
- アプリケーション要件 12
- アラームディスプレイ、有効 / 無効 66

イ

- イーサネット
 - DHCP 49
 - IP アドレス 48
 - ケーブル 127
 - コネクタ 127
 - コネクタのピン配列 127
 - ステータスインジケータ 127
 - 通信 127
 - トラブルシューティング 148
 - ネーム・サーバ・アドレス 50
 - リンク速度 50
- 印刷設定
 - アラーム用 60
 - コントロールパネル 101
 - 診断メッセージ用 60
 - ディスプレイ用 60
- インターネットグループ管理プロトコル (IGMP) 128

ウ

- ウェブサーバ 75
- ウォッチドッグエラー 89

エ

- エラーメッセージ 146

オ

- オープンシステム 15
- オープンシステムとクローズドシステム 88
- オペレータ入力 14
- オペレーティングシステム 12, 73
 - アプリケーションサポート 74
 - サーバサポート 75
 - スクリプトサポート 74
 - ネットワークサポート 75
- 温度 82
 - プロセッサ 64, 82

カ

- カーソル
 - FactoryTalk View ME 56
 - コントロールパネル 85
- 外部電源 28
- カタログ番号 12
- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) 128

キ

- キーボードおよびキーパッド設定
 - FactoryTalk View ME 57
 - コントロールパネル 83
 - トラブルシューティング 148
- 危険な領域 18

ク

- クローズドシステム 15, 88

ケ

- 言語 69

コ

- 工場出荷時のデフォルト 151
- 工場出荷時のデフォルトの復元 151, 153
- 高度な診断 89
- コントロールパネル 77
 - 印刷設定 101
 - カーソル 85
 - キーボードおよびキーパッド設定 83
 - クリーンセーバ 85
 - 高度な診断 89
 - システム・イベント・ログ 81
 - タッチスクリーンのキャリブレーション 83
 - ディスプレイ温度 82
 - デスクトップの背景 84
 - 入力パネル 76
 - ネットワークサーバ 91
 - バックアップおよび復元 78
 - バッテリー電圧 82
 - バッテリーの警告 87
 - プロセスの実行 81
 - プロセッサ温度 82
 - ユーザアカウント 90
 - ロゴの更新 86

サ

- サーバ
 - FTP 97
 - VNC 91, 92
 - Web 96
 - ファイル 100
 - 有効または無効 91
- サーバサポート 75

シ

- 時刻と日付に関する操作
 - FactoryTalk View ME 66
- システム・イベント・ログ
 - FactoryTalk View ME 64
 - コントロールパネル 81
- システム情報
 - FactoryTalk View ME 66
 - コントロールパネル 87
- シリアル通信
 - DF1 129
 - DH485 129
 - アプリケーションの転送 129
 - ヌルモデムケーブル 130
 - ポート 129
- 診断
 - FactoryTalk View ME 内 63

ス

- スクリーンセーバ
 - FactoryTalk View ME 56
 - コントロールパネル 85
- スタートアップ
 - 異常 149
 - エラーメッセージ 146
 - 初回 31

スタートアップオプション 15
 FactoryTalk View ME 39
 FactoryTalk View ME Station の無効 39
 ウォッチドッグエラーの表示 89
 オープンシステムまたはクローズドシステム 88
 構成モードの実行 39, 40
 構成モードの無効 39
 高度な診断 89
 セーフモードの検出 88
 バッテリの警告の表示 87
 ボタンスタイルの変更 88
 ロードされたアプリケーションの実行 41

スタイル 14

ステータスインジケータ 13

寸法
 製品 21
 パネルカットアウト 20

セ

セーフモード 88, 151

製品選択 12

設置
 700 ~ 1500 ターミナルの取付けターミナル 24
 USB 周辺機器 19
 危険な領域 18
 製品寸法 21
 製品ラベル 122
 取付け間隔 20
 パネルカットアウト寸法 20
 パネルに関するガイドライン 20
 パネルへのターミナルの取付け 22

ソ

ソフトウェアのサポート 12

タ

ターミナル
 特長 13

ターミナルイメージの復元 78

ターミナル設定 36
 時間形式 70
 時刻 67
 システム・イベント・ログ 64
 診断 63
 タイムゾーン 68
 長い日付形式 71
 日付 67
 短い日付形式 71

ターミナルの再起動 31

ターミナルの取付け 22

ターミナルのリセット 31
 メンテナンスウィンドウから 151
 リセットスイッチ 32

タスクバー 76

タッチスクリーンのキャリブレーション
 FactoryTalk View ME 58
 コントロールパネル 83

チ

地域の設定
 FactoryTalk View ME 69-71

ツ

通信
 KEPServer 46, 100
 RSLinx Enterprise 46
 イーサネット 48, 127
 コントローラのアドレス 48
 シリアル 129

通信モジュール
 交換 109
 取付け 108

テ

ディスプレイ温度
 コントロールパネル 82, 84

ディスプレイ設定
 FactoryTalk View ME 55
 解像度 151
 コントロールパネル 84

ディスプレイの清掃 123

ディスプレイモジュール 123

デスクトップへのアクセス 15, 88
 オープンとクローズド 15
 工場出荷時のデフォルト状態 15
 パスワードの再設定 44
 パスワードの設定 44
 無効 43
 有効 42

デスクトップへのアクセスの有効 42

デバイス名 51

デフォルトスイッチ 13, 152

電源接続 13
 DC 電源 28
 端子台 26

ト

トラブルシューティング
 イーサネット接続 148
 一般的な 144
 インジケータ 143
 キーボード 148
 工場出荷時のデフォルトの復元 151
 構成モードへのアクセス 149
 高度な 150
 セーフモードでの起動 151
 ディスプレイ解像度の変更 151
 電源 144
 マウス 147
 メンテナンス操作 151

取付け 24
 AC 電源モジュール 119
 バックライト 114
 バッテリ 117
 ベゼル 112

取付け間隔 20

二

- 入力デバイス
 - FactoryTalk View ME 57
 - コントロールパネル 83
 - マウス 57, 59
- 入力パネル 76

ネ

- ネットワークサーバ 91
 - FTP 97
 - VNC 92
 - Web 96
 - ファイル 100
 - 有効または無効 91

ハ

- 配線および安全に関するガイドライン 18, 125
- パスワード
 - デスクトップへのアクセス 44
 - パスワードの再設定 44
 - パスワードの設定 44
- バックアップ・ターミナル・イメージ 78
- バックアップおよび復元 78
- バックライト
 - 輝度 55, 84
- バッテリー
 - 交換 117
- バッテリー電圧 64
 - FactoryTalk View ME 64
 - コントロールパネル 82
- パネルカットアウト寸法 20
- パネルに関するガイドライン 20

ヒ

- 日付と時刻 67

フ

- ファームウェアのアップグレード
 - 障害からの回復 146, 153
 - ストレージデバイスの使用 137
 - ネットワークを介して 140
 - ファームウェア・アップグレード・ウィザード 137
- ファームウェアのリビジョン 66
 - FactoryTalk View ME 66
 - コントロールパネル 87
- ファイルサーバ 75
 - 構成 100
- ファイルのコピー
 - アプリケーション 54
 - フォントファイル 54
- ファイルの削除
 - アプリケーション 52
 - フォントファイル 52
 - ログファイル 52
- ファイルの転送 54
- フォント 155
 - リンク 72
- プログラムランチャー ActiveX コントロール 149

- プロセッサ温度 64
 - FactoryTalk View ME 64
 - コントロールパネル 82

へ

- ベゼルの交換 112

ホ

- ボタンのスタイル 88

マ

- マウス 57, 59

メ

- メモリ使用率 64
 - FactoryTalk View ME 64
 - コントロールパネル 82
- メンテナンス操作
 - アクセス 152
 - 解像度 151
 - 工場出荷時のデフォルト 151
 - セーフモード 151
 - デフォルトスイッチ 152

モ

- 文字列入力 57

ユ

- ユーザアカウント 90
- 指または手袋をはめた指による操作 14

ロ

- ログ
 - アプリケーションファイル 62
 - システム・イベント・ログ 64, 81
 - ランタイムファイル 62
- ロゴマネージャ 86
- ロジックモジュール
 - 交換 108

当社のサポートサービス

ロックウェル・オートメーションは、製品の使用を支援するための技術情報を Web から提供しています。<http://www.rockwellautomation.com/support> には、テクニカルノートやアプリケーションノート、サンプルコード、およびソフトウェア・サービス・パックへのリンクが用意されています。また、当社のサポートセンター (<https://rockwellautomation.custhelp.com/>) にアクセスして、ソフトウェアアップデート、サポートチャットやフォーラム、技術情報、FAQ を利用でき、製品更新通知にも登録できます。

また、設置、構成、およびトラブルシューティング用の複数のサポートプログラムも提供されています。詳細は、代理店またはロックウェル・オートメーションの担当者に問い合わせるか、または <http://www.rockwellautomation.com/services/online-phone> をご覧ください。

設置支援

設置から 24 時間以内に問題が発生した場合は、このマニュアルに記載されている情報を確認してください。製品を稼働するための初期支援が必要な場合は、カスタマサポートをご利用いただけます。

米国またはカナダ	1.440.646.3434
米国またはカナダ以外	http://www.rockwellautomation.com/rockwellautomation/support/overview.page の Worldwide Locator をご利用いただくか、お近くのロックウェル・オートメーション代理店にご連絡ください。

製品の返品

ロックウェル・オートメーションでは、工場出荷時にすべての製品をテストし、完全に動作することを確認していますが、製品が機能しない場合に返品する必要があるときには、以下のように手続きを行なってください。

米国	代理店に連絡してください。返品手続きを行なうには、代理店にカスタマサポートのケース番号を知らせる必要があります (ケース番号は上記の電話番号にお問い合わせください)。
米国以外	返品手順については、お近くのロックウェル・オートメーションの担当者にご連絡ください。

マニュアルについてのご意見

お客様からのご意見はマニュアルをお客様のニーズに合ったものにするために活用させていただきます。このマニュアルの改善点に関するご提案は、このフォーム (Pub.No. [RA-DU002](#) (<http://www.rockwellautomation.com/literature/>) から入手可能)) に記入してお送りください。

ロックウェル・オートメーションでは、以下の Web サイトで最新の製品環境情報を公開しています。
<http://www.rockwellautomation.com/rockwellautomation/about-us/sustainability-ethics/product-environmental-compliance.page>

www.rockwellautomation.com

Power, Control and Information Solutions Headquarters

Americas: Rockwell Automation, 1201 South Second Street, Milwaukee, WI 53204-2496 USA, Tel: (1) 414.382.2000, Fax: (1) 414.382.4444
Europe/Middle East/Africa: Rockwell Automation NV, Pegasus Park, De Kleetlaan 12a, 1831 Diegem, Belgium, Tel: (32) 2 663 0600, Fax: (32) 2 663 0640
Asia Pacific: Rockwell Automation, Level 14, Core F, Cyberport 3, 100 Cyberport Road, Hong Kong, Tel: (852) 2887 4788, Fax: (852) 2508 1846

ロックウェル オートメーション ジャパン株式会社
本社営業部 〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 Tel (03) 3206-2786 Fax (03) 3206-2796
関西支店 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 Tel (06) 6397-1020 Fax (06) 6397-1090
中部支店 〒460-0003 名古屋市中区錦1-6-5 Tel (052) 222-7060 Fax (052) 222-7065